

物流の 2024年問題を

LOGISTICS

GUIDEBOOK

環境にやさしい鉄道と海運と
脱炭素を追求するトラックとの
融合で 乗り切ろう！



世界へ。 世界から。

SAGAWA

okamura

視点を、
変える。

お客様の物流パートナーとして、
本質的な課題を見つけ、
期待を超える解決策を示せるか。
導入した先の未来まで、明確に描けるか。
オカムラは、追求し続けています。

私たちは、動かす技術とつなげる技術で
お客様に徹底的に寄り添った
世界に一つだけの物流システムを提案。
共に、新しいビジネスの可能性へと挑み、
社会がワクワクする未来、人が活きる未来を
創っていきたいと考えています。

オカムラの物流システム

解決を、
超える。



CREATE THE TOMORROW

物流を超える、 世界を動かす、 ビジネスを変える

私たちセンコーグループは、
そんなコーポレート・スローガンを掲げ、
事業の深化と創出を通じて、
人と社会に新しい価値を届け、
今までよりもっと、社会から愛される
サステナブルな企業を目指しています。

未来へ「つなごう」



Logisnext Solutions

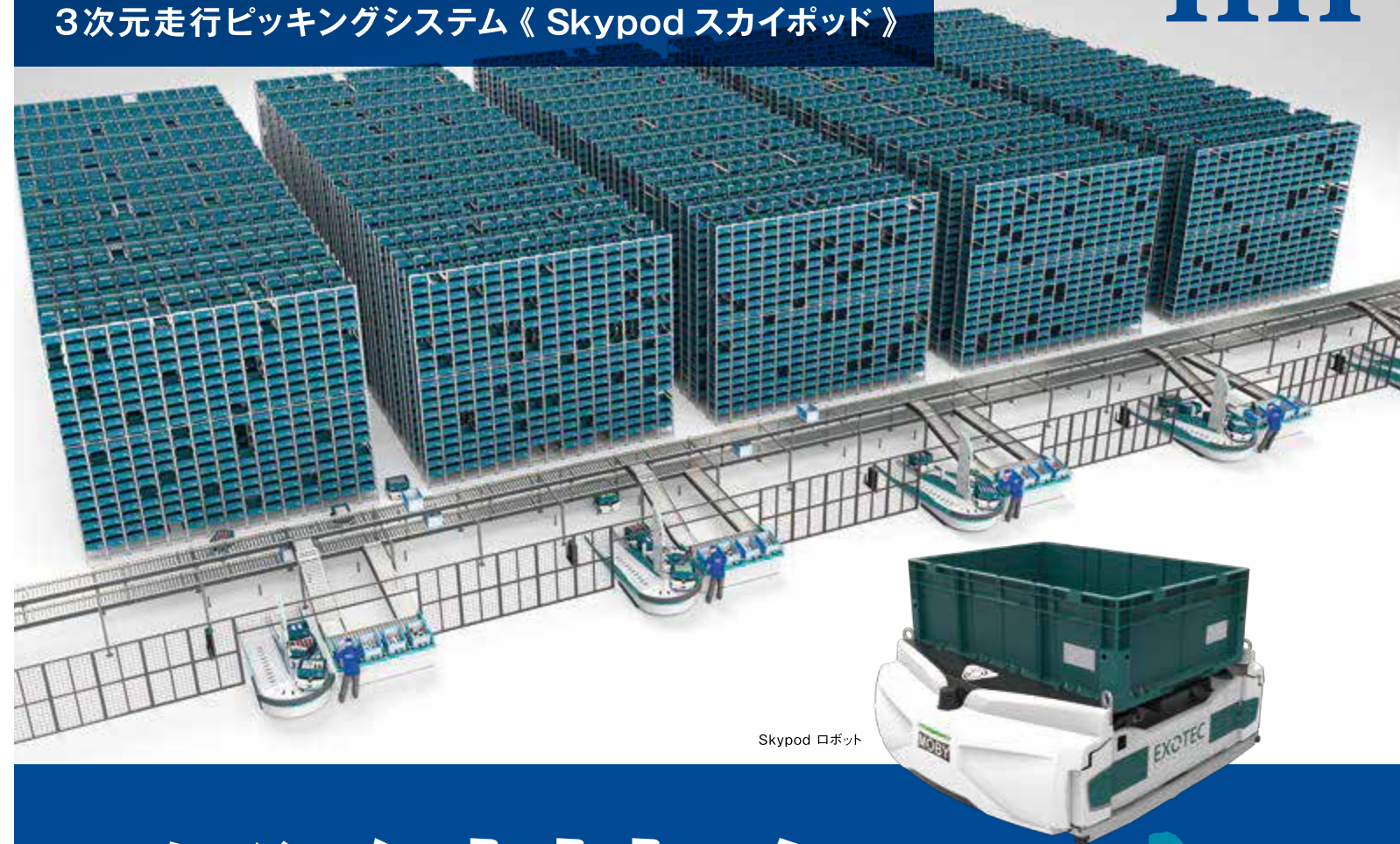
ロジスネクストのソリューションがお客様にお応えいたします



公式チャンネルにて企業情報や製品紹介などを随時更新中！



3次元走行ピッキングシステム《Skypod スカイポッド》



Skypod ロボット

縦横無人

倉庫内を「前後、左右、上下」へ自由自在に移動するロボットが、高さ12mのラックからピンを取り出し、短時間でピッカーのいるステーションへ搬送するGoods to Person方式採用の3次元走行ピッキングシステム《Skypod スカイポッド》。物流倉庫内での作業員の負荷を軽減し、大幅な効率化・自動化・無人化を実現します。



ロボット自らラックを昇降。ピンを取り出し搬送。



Skypodロボットは1時間に一度、自動で充電。



ピッカーはステーションに留まってピッキング作業に従事できる。

Skypodについて詳しくは右記QRコードより「ホームページ」をご覧ください。



「無料動画セミナー」の視聴をご希望の場合は右記QRコードよりお申し込みください。



物流業界に迫る『2024年問題』をパレット化で解決。

輸送・荷役のパレット化で労働時間を削減。
「物流に効率と改善」を日本パレットプールは常に考えます。

2024

事業内容

- パレットおよび物流機器レンタル
- 一貫パレチゼーションシステム
- 物流機器商品販売
- パレット洗浄・管理業務



豊富な商品ラインナップ

- パレット・物流機器
- フォールド・デッキ
- アシストスーツ
- パレット位置情報管理システム「フクLOW」

賢く、確実に
捉える。

パレット位置情報管理システム

フクLOW



引き出しの多い 物流コンサルティング企業

200+

年間企画・実行する
物流調査および
コンサルティング
プロジェクトの数

50+

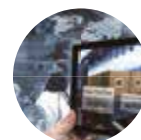
50名以上のコンサル
タント・研究員が
お客様の問題解決
に従事

30+

30カ国以上に渡航
し調査・コンサル
ティングを実施

60+

60年以上の歴史
の積み重ねによる
ノウハウの蓄積



コンサルティング



調査・研究



輸送環境評価



教育・人材育成

(株)日通総合研究所は、2022年1月4日付けで(株)N X総合研究所に社名を変更しました。

無限の未来を、ともに創る 「Logistics Total Solution Supplier N X 商事グループ」

LEVOから始まるエコロジー LOVEから生まれる未来の地球

私たちの未来と青い地球を守るために、人と環境にやさしい交通の実現をめざします。

LEVOは、事業用の電気トラック、ハイブリッドトラック、天然ガストラック等の環境優良車やデジタルタコグラフ、ドライブレコーダー等の安全・省エネ環境機器の普及を通して、人と環境にやさしい交通の実現をめざしています。

LEVOでは、新たな支援事業に取り組んでおります。

運送事業者の皆様方にCO₂排出量の算出、エコドライブの向上、EV車両導入検討などのお手伝いをしてまいりますので、お気軽にご相談ください。



優良ハイブリッドトラック・CNGトラック導入
CNGトラック、優良ハイブリッドトラックの導入に対する支援を行っています。



エコドライブの推進など環境・省エネ対策

- EMS機器の導入を支援し、環境・省エネ対策を推進しています。
- 車両動態管理システムの導入を通じ、運送事業者と荷主との連携による省エネ対策を推進しています。



環境省補助金の執行業務

- 商用車の電動化促進事業
- 低炭素型ディーゼルトラック普及加速化事業



交通安全機器の普及など安全対応施策の推進

貨物自動車用ドライブレコーダ等の安全機器の普及促進をはじめ、交通安全施策を推進しています。



CARRY A SMILE!!

今日も笑顔
を
運んでいる。

国内輸送の約9割を担う
トラック輸送。

人々のあたりまえの暮らしの側で
トラックは走り続けてます。

安心と幸せな未来のために、
私たちはその先にいる人々の
笑顔を運んでいます。

見えない稼働を見える化し
フォークリフトの安心と安全を守ります。



フォークリフト向けドライブレコーダー YLD1 無線LAN版 LTE版

誰でも簡単に扱える **見たいところだけ抽出** **自動レポート表示**
簡単操作でドラレコ映像・運行データを収集。管理者様に代わり安全・効率・管理を徹底サポート!

<p>安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ オプションカメラの画像認識により、積荷の状態を把握 ▶ リスト表示により危険挙動の発生状況を一目で管理 <p>作業の安全状況を一目で管理</p> <p>画像認識機能搭載 <small>(※別途オプションカメラが必要。)</small></p> <p>Gセンサー・ジャイロセンサー搭載</p> <p>他者の車両への接近を警告 <small>(※作業員、従業員はビーコンの所持が必要。)</small></p>	<p>効率</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 無線LAN通信により、操作不要で稼働データを収集 ▶ 稼働率をWeb上で手軽に閲覧 <p>車載機の操作不要</p> <p>ドライバーの自動特定 <small>(※運転者はビーコンを所持、ビーコンは別途オプション)</small></p> <p>作業計画の作成・出力</p> <p>作業日報を自動で作成</p>	<p>管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ビーコンの活用で乗務員の認証と周辺を監視 ▶ 車両のバッテリー電圧をチェック <p>抽出されたヒヤリハット映像を確認</p> <p>バッテリー電圧の低下をお知らせ</p> <p>乗務員・車両の稼働をグラフで表示</p> <p>車両の移動を視覚的に表示 <small>(※倉庫内にビーコンの設置が必要)</small></p> <p>事務所から稼働中の車両の映像取得 <small>(※LTE版のみ利用可能)</small></p>
---	--	---



FRUEHAUF CONNECT

【トレーラ位置管理システム】

トレーラの置いてある
場所はわかりますか?

ドライバーやトレーラの
場所は安全ですか?
【気象・災害】

トレーラの走行距離は
わかりますか?

「想いをハコぶ」その先へ

日本フルーフ株式会社



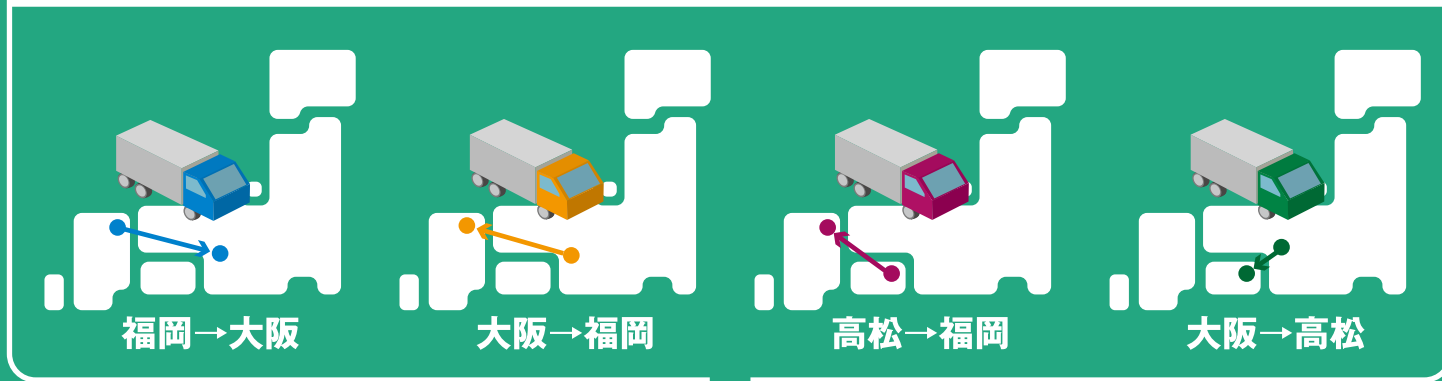
TranOpt

共同輸送マッチングサービス

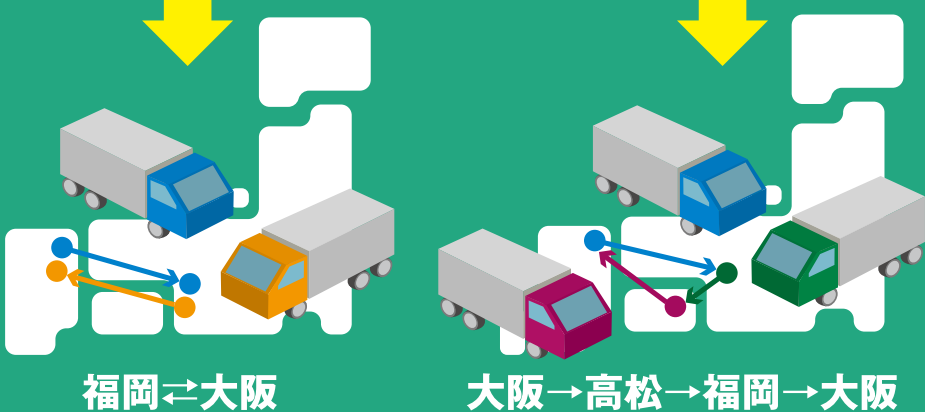
ルートのデータベース化、 企業のマッチングで物流の効率化を実現

TranOpt(トランオプト)は、AIによって業界を跨いだ荷主企業同士をマッチングすることで共同輸送を可能にする、新しいサービスです。最適なパートナーとのマッチングによって、実車率や積載率の向上、CO2排出量削減を実現します。

利用者による輸送ルート情報の登録



AI 共同輸送 マッチングシステム



新規案件創出

新しい輸送ルートの復路や、
混載できるパートナーを
探したい

コスト削減・効率化

既存ルートの車両の
効率を改善したい

脱炭素

CO2排出量を減らしたい
モーダルシフトしたい



人と食のあいだに、キユーソーという安心。

食の品質を保ったまま、全国どこへでもスピーディに。

キユーソー流通システムは、幅広いネットワークを活用した独自のサービスを展開。

お客さまにパートナーとして選ばれる企業でありつづけます。

日本の食を支える、4つの物流システム

共同物流

少量多品種商品を共同納品することで、販路拡大・コスト改善に貢献。全国をカバーするネットワークで、地域に密着した共同配送をいたします。

専用物流

独自の流通システムで、お客さまのニーズに合わせたセンターシステムを構築。数々の事例を手掛けてきた当社ならではのユニークなサービスをご提案します。

4温度帯物流

4つの温度帯を取り扱っているので、鮮度を守りながらスピーディに共同配送・全国配送が可能。品質を損なうことなく、おいしさをそのままお届けします。

海外物流

調達・生産・販売物流などの営業展開も視野に、国内外の拠点を生かしたサービスをご提案。通関業務を含めた複合一貫物流の構築を目指しています。

KRS 株式会社キユーソー流通システム

東京都調布市調布ヶ丘3-50-1
TEL: 042-441-0711(代表) www.krs.co.jp

腰を守るプロ仕様の外骨格型アシストスーツ

SUPPORT JACKET

Bb PRO III



POINT 01 肩、お腹周り、ひざ等に搭載されたベルトで自分好みのアシスト力に調整可能!



POINT 02 背中のバックボーンを取り外し洗濯することで衛生的に利用可能!



詳細はこちら



購入はこちら



お問い合わせはこちら



upr アシストスーツ



upr ユーピーアール株式会社 アシストスーツグループ 〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-2 内幸町東急ビル12F
TEL 03-6852-8932 FAX 03-3593-3016 E-mail pas@upr-net.co.jp



AIO!

革新的なアイデアで
世界を驚かせ
未来をデザインする

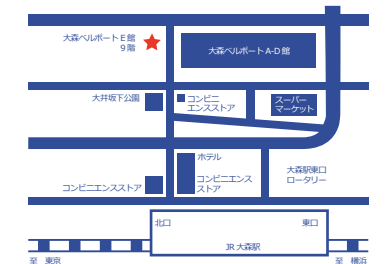


[グループ会社]
愛鷗自動化系統(上海)有限公司
AIOI・SYSTEMS USA CORP.
AIOI.SYSTEMS SINGAPORE PTE. LTD.
AIOI.SYSTEMS INDIA PRIVATE LIMITED
PICK TO LIGHT SYSTEMS SL.

70カ国以上
導入
デジタルピッキングシステム

アイオイは AIOI に。

私たちは日本発のアイオイではなく世界の AIOI として、革新的なテクノロジーで、あらゆる物流・製造業界の未来をデザインします。



本社移転しました。

〒140-0013 東京都品川区南大井 6 丁目 22-7 大森ベルポートE館9階

アイオイシステム 検索





安価に！ すぐに！
シンプルに！
複数拠点でも使える！

クラウド型物品管理ソリューション



物品（資産）登録

面倒な設定は不要で、簡単にすぐに登録できます。



台帳管理

カテゴリ、部署など関連付け、画像を確認しての管理が行えます。



物品貸出予約

まとめて登録、予約状況をガントチャートで確認できます。



貸出・返却・棚卸

ハンディターミナル、スマートフォンを物品管理に活用できます。



予約・督促メール

予約メール、返却の督促メールを送信します。



ラベル発行

モバイルプリンタからシールを発行します。

シノジャングループ
株式会社ハイウェイテックジャパン

Hyway Technology (Japan) Corp.
<https://www.snjp.co.jp>

ロジスティクスの課題解決を支援する
ソリューションが集う専門展

ロジスティクス ソリューション フェア2024

LOGISTICS SOLUTION FAIR 2024

産業と社会の進化を促すロジスティクス
～「物流の転機」をチャンスに変えるとき～

会期

2024.2.20(火)・21(水)

10:00-17:00

会場

東京ビッグサイト
(東京国際展示場) 西4ホール

主催

公益社団法人
日本ロジスティクスシステム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

事前登録いただくと本展へ無料で来場いただけます

来場事前登録受付中!

最新情報は公式HPにて!

ロジスティクスソリューションフェア
<https://jils-lsfair.jp/>



発行によせて

2024年4月からトラックドライバーに適用される時間外労働規制および改善基準告示改正。これにより、荷主や一般消費者が抱く「モノが届かない」「運んでもらえない」という危惧は払しょくできているとはいえません。

荷主など103におよぶ業界団体は、2023年末までに、物流の負荷を軽減するための自主行動計画を策定しましたが、これが個々の企業に浸透するかは不透明な状況です。

物流事業者としても、荷主や消費者の取り組みを待つだけでなく、実現しなければならぬことがあります。特に、ドライバーにとって労働時間が減ることは収入減を意味します。そうならないために、労働生産性の向上は不可欠です。

労働環境を改善し、労働生産性を上げ、かつ脱炭素の社会形成に物流側から貢献する。「ロジガイ2024」は、その実現に加え、サプライチェーン全体の最適化に役立つ情報やシステムを網羅しています。ぜひ、効率的な投資にご活用ください。

LOGGB

LOGISTICS GUIDEBOOK

大切なことを、ずっと、
大切にできる未来へ。

いま、時代が動いています。
物流のあり方がかつてなく変化する中で、
私たちヤマト運輸が守るべきものは何でしょう。

それは、目に見えないもの。
それは、数字では表せないもの。

安心。やさしさ。心づかい。
そんなカタチのないものをずっと届けていくために、
私たちはこれまでにないチャレンジを進めています。

デジタル化を加速し、集配をもっと効率的に。
貨物専用の航空機を持つなど、運び方をもっと幅広く。
EVや再生可能エネルギーの導入をはじめ、
環境へのアクションを次々と。

すべては、変わりゆく時代に、人の想いを届け続けるために。
さあ、もっと心強い、新たな物流ネットワークへ。

今日も、明日も、100年先も。
ヤマト運輸



ヤマト運輸

特別トップ対談	物流を革新するシステム・製品群	48	物流団体	128
カーボンニュートラルを進めていくパイオニアに	SCM／経営の革新 SCM		「等身大の物流」と物流業の魅力を伝える活動／	
ヤマト運輸代表取締役社長 長尾 裕 氏 +	ロジスティクス・ソリューションシステム／		日本物流団体連合会	130
三菱ふそうトラック・バス代表取締役社長CEO カール・デッペン 氏	センコーグループホールディングス	50	産業界に役立つ価値を創造し、提供を続ける「ロジスティクスのナショナルセンター」へ／	
	LOGINECT [®] データ可視化／TOPPANデジタル	54	日本ロジスティクスシステム協会	132
	SCM／経営の革新 経営支援		通運事業の役割をPR／全国通運連盟	134
インタビュー	L T S ロジスティクス・トータル・ソリューション／NX商事	56	鉄道貨物輸送の利用促進に取り組む／鉄道貨物協会	136
求荷求車による実車率/積載率向上で、効率的なサプライチェーン構築	WAN - Sign／AI - OCR × BPO／		わが国と海外を結ぶ国際複合運送業務／	
トラボックス代表取締役社長 皆川拓也 氏	NXワンビシアーカイブズ	58	国際フレイトフォワードーズ協会	138
	ろじたん／どらたん／NX総合研究所	60	グリーン経営認証／交通エコロジー・モビリティ財団	
	大塚商会のロジスティックソリューション／大塚商会	62	協創と実践 3PL業界の発展に寄与します／	
	物流企業の時流適応戦略2024年／船井総研ロジ	64	日本3PL協会	142
	トランクルームの押入れ産業／押入れ産業	66	2024年問題や物流現場の労働力不足を解決する「パレットの普及、標準化」に向けた活動／	
	SCM／経営の革新 人材開発		日本パレット協会	144
	NXキャリアロードの人材ソリューション／NXキャリアロード	68	MH(マテリアルハンドリング)ニーズの実現、課題解決を推進／日本物流システム機器協会	146
	物流センターソリューション マネジメント・制御系		「物流の2024年問題」への対応、そしてさらなるイントラロジスティクスの価値向上のために／	
	Asset@Hyway／シノジャパン	70	日本産業車両協会	148
	物流センターソリューション 実行系		掲載企業・団体 索引	150
	シャトルラックD ³ /コンパクトシステム／ダイフク	72		
	サーフィンソーター／ダイフク	74		
	eye-navi／ジャングルカート／映像検索システム／			
	ダイフク	76		
	TRTS／ダイフク	78		
	オカムラの物流システム機器／オカムラ	80		
	AutoStore／オカムラ	82		
	Skypod／IHI物流産業システム	84		
	デジタルピッキングシステム／アイオイ・システム	86		
	Smart Tag/Smart Card／AI - NET／			
	アイオイ・システム	88		
	プロジェクトピッキングシステム [®] /GTPソリューション／			
	アイオイ・システム	90		
	DPS／DAS／アイオイ・システム	92		
	ci.Himalayas/R2／シーネット	94		
	GAZOQS／シーネットIoTソリューションズ	95		
	輸配送ソリューション 運行計画・管理・支援			
	YDX-8 ESTR-Web2／YLD1 LTE版／			
	矢崎エナジーシステム	96		
	SR Advance／SR Fork Lift N／			
	データ・テック	98		
	VICS 交通情報を活用した統合輸配送システム／			
	住友電工システムソリューション	100		
	ドラ基地／スペース	102		
	サーラ物流	103		
	輸配送ソリューション 求荷求車			
	求荷求車情報ネットワーク WebKIT／			
	日本貨物運送協同組合連合会	104		
	TranOpt／日本パレットレンタル	106		
	トラボックス／トラボックス	108		
	物流支援サービス パレット・コンテナ			
	日本パレットプール／日本パレットプール	110		
	uprの解決ソリューション／ユービーアール	112		
	物流支援サービス 車両・フォークリフトなど			
	さらなる効率化や課題解決を実現 ALESIS／			
	三菱ロジスネクスト	114		
	Rinova AGF／豊田自動織機 TOYOTA L&F カンパニー			
		116		
	FRUEHAUF CONNECT／日本フルハーフ	118		
	カミオン カスタム／ダイフクプラスモア	120		
	物流支援サービス モーダルシフト			
	Sea & Rail SERIES／日本通運	122		
	ESG・BCP／物流不動産			
	サーキュラーロジスティクス／SGムービング	124		
	イーソーコグループ／イーソーコ	126		
	ショールーム			
IHI物流産業システム				
IHI横浜ロジラボ	39			
アイオイ・システム				
アイオイ・システムショールーム	40			
オカムラ				
物流システムショールーム LUX ルクス	41			
Gaussy				
Roboware 東京ショールーム	42			
GROUND				
R&Dセンター playGROUND	43			
ダイフク				
日に新た館	44			
Mujin				
ロボットソリューション展示場	45			
Forward X				
Forward X 日本支社ショールーム	46			
ユービーアール				
DXデポ	47			

カーボンニュートラルを進めていくパイオニアに

昨年4月に施行された改正省エネ法は、特定輸送事業者に対して総重量8トンの以下の車両はその後、EVの導入が徐々に進められる中、ヤマト運輸は昨年9月、三菱ふそうトラックEVの利用者側、供給側それぞれのトップランナーであるヤマト運輸の長尾裕社長、三菱

2030年までに5%を非化石エネルギー車両にすることを求めた。
・バス製の新型eキャンター約900台を、全国に順次導入を開始した。
ふそうトラック・バスのカール・デッペン社長兼CEOに次世代トラックの展望を聞いた。



長尾 裕 氏
ヤマト運輸 株式会社
代表取締役社長兼ヤマトホールディングス代表取締役社長

900台は
EVの導入比率向上に
必要な第1歩



カール・デッペン 氏
三菱ふそうトラック・バス 株式会社
代表取締役社長CEO

大切なのは
社会に貢献
できるかどうか

—eキャンターを多数導入された背景は

長尾社長 当社は2050年に温室効果ガスの自社排出量実質ゼロを目標に掲げ、中期目標として2030年に48%削減(2020年度比)することをロードマップとして示した。車両を使用し、温室効果ガスを排出する側の立場として、社会にどう貢献するかを検討することは大事なこと。選択肢はいろいろあるが、自社で保有している車両の大半はラストマイル向けのいわゆる1トンの車・2トンの車であり、EVは大きな選択肢となり得る。

実は2017年に発売された初代eキャンターを25台導入させていただいたご縁があった。今回の新型eキャンターは開発時から当社の意見を反映していただき、仕上がり状態や、実践導入できそうな手助けを強

く感じていた。同時に、三菱ふそうさんからも量産が可能とご提案をいただいた。今後の導入規模を考えた場合、約900台は決して大きな数字ではないと思っている。むしろ、これからのEV導入比率を上げていく過程において必要な第1歩だと考えている。

—EVの今後の可能性について

デッペン社長 今回、新型eキャンターとして仕上げるのができ、大変うれしく思う。ヤマト運輸さんとは、初代eキャンターをご購入いただいた時から、お互い車両を脱炭素化するという目標を持っていて、その意味ではカーボンニュートラルを進めていく上で、両社はパイオニアだと思っている。特に、都市配送ではEVが最適であり、今後もお客様と一緒に次のレベ

ルへと進化し、CO2排出量を削減していきたい。

全体的な話をすると、商用車はさまざまなセグメントがあり、用途は多岐にわたる。例えば長距離の大型トラックはおそらく水素を活用した解決策が出てくる。したがって、1つの技術に選択肢を狭めるのではなく、さまざまな技術をさまざまなユースケースに活用していきたいと思っている。

—EVのメリット、ポテンシャル(潜在能力)について

長尾 当社は全国のさまざまなロケーションの地域にネットワークを持ち、宅急便を通して物流サービスを提供している。商業地だけでなく、住宅地の生活道路も使わせていただいている。そうした地域に、安全

も含めてやさしい配送をどう提供するかは、非常に大きな課題。その中で、EVはご承知の通り音が静か。今回、導入したEVに実際に乗務しているセールスドライバーに話を聞くと、お客様からも好評だったという。それだけ静かで、やさしい運転をすることができ、これは1つの大きなポイントとなる。技術的にも、EVは回生ブレーキが利く。特に住宅地は信号のない交差点が多いため、ドライバーは一時停止を繰り返さなければならないが、ワンペダルである程度の制動がかかることで運転が非常にしやすくなる。

環境にやさしく、安全かつ集配作業がしやすい車両を開発することは、当社にとって重要。以前導入していたウォークスルー車も、当社からの要望を出し、自動車メーカーと一緒に開発した。今回も、出来上がった車両を導入したのではなく、購買の意思決定をして



eキャンターの新型モデル

ヤマト運輸高崎正観寺営業所での
お披露目会にて

いく中で、多くの要望を出させていただき、車両開発に反映していただいた。そうした自由度も導入するうえでは大きなポイントとなった。

デッペン 将来の輸送は脱炭素でなければならないし、またそこで終わるのでなく、大切なのは社会に貢献できるかどうか。デリバリーはストップ・加速があり、どうしても騒音が出てしまうが、そのプロセスを静かにできることは重要なポイント。振動も少ないため、厳しい仕事をしているドライバーにとって作業がしやすく、ストレスを減らすことができる。目の前の道路に集中できるため、安全にもつながる。

さらに、メンテナンスが少ないため、オペレーションコストの低減にもつながる。確実にランニングコストが少ない商品を提供することができる。

—その中で、新型eキャンターの特徴は

デッペン 今回、第3世代のeキャンターとなり、多くのお客様からのご要望を取り込んでいる。重要な点は、お客様の用途によって航続距離を選べるように、バッテリーをモジュール化したこと。99キロから324キロまで走行できるようにし、キャブサイズもホイールベースも拡充し、柔軟性もかなり持たせた。例えば、バッテリーは3つ、2つ、1つとあり、ホイールベ

ースによって選んでいただくことが可能。もちろん、積載量も2トから3.5トまで対応できる。環境に対してしっかり結果を出し、そして使い勝手の良い車にし、さまざまなアプリケーションに適應できるように工夫を凝らした。

最大の改善点は、やはりバッテリー技術にある。最新のエレクトロニクス技術を採用することによって、堅牢性も強く、ライフサイクルも長くなった。かつ、ソフトウェアも増やしたため、お客様によるメカニカルな対応が少なくなった。これは、車両を超えた変化であり、お客様にとっても私たちにとってもパイオニ



日本通運



西濃運輸

大手各社もこぞって
eキャンターを採用



イケア

SGムービング

アとなる事象と考えている。私たちは導入したソフトウェアや部品をしっかり理解して市場に投入していきたいと思う。

—かなり要望を出されたという話だが

長尾 セールスドライバーの車両の使い方は一般の運転と比べるとかなり特殊。1日に100回近く停止、発進、乗降を繰り返す。さらに、都度安全確認も必要なため、ドライバーの身体的、精神的な負担を考えると、運転のしやすさは大きなメリットとなる。

デッペン社長からも話があったように、従来の車両よりパーツ点数が少なくなり、かなり電子化されている。データが常に取得できるため、運用上できることは、今後さらに増えていくと思うので、大変期待している。

—EVを含む次世代車両はNEDOで実証が進められているが、エネルギー管理を含めた課題について

長尾 商用車でEVを選択肢として導入することは

意義深い。シーンによって使用する車両も分けていくことがポイント。住宅密集地は2ト車では若干大きい場合があるため、ウォークスルータイプの1ト車を使用し、商業地に近く荷量を多く積まなければならない地域では2ト車の新型eキャンターが活躍する。

ではEVを導入すれば環境対策が解決するかどうかと決してそうではない。われわれとしても、グリーン電力を調達して充電に活用することは非常に大きなテーマ。目下、ラストマイルの集配拠点の集約・大型化を進めている。先般京都府八幡市にオープンした店舗では太陽光パネルを設置し、日中太陽光パネルで発電した電力を確保してEVを充電している。こういったエネルギー管理を全国に広げていく。今後はオフサイトの電力調達も含め、グリーン電力を調達して充電していくフェーズに入っていく。

NEDOのプロジェクトの取り組みのひとつでもあるが、今後EVのバッテリーをカートリッジ式にすることを進めている。従来は車両を止めないと充電できなかったが、一番発電量が多い日中の時間帯にカートリッジ式のバッテリーに充電し、それを取り替えることによってEVが使用できるようになれば、車両の使い方が全く変わってくる。また、当社は車両保有台数



公共充電設備を利用するeキャンター



eキャンターの通常充電風景

が多いので、自社の集配拠点にある程度充電設備は設置しているが、数台のEVを使用する事業者が自社で充電設備を設置するのは負担が大きい。EVを使うすべての事業者がカートリッジ式のバッテリーを使える環境がつかれるのではないかと構想している。

物流業界は裾野が広いので、一緒にビジネスをしていただいている配送パートナーの方々にも、そういったソリューションを使っていただけ環境を提供できるようになれば、新しいビジネスモデルとして広げられる可能性は大きいと思っている。



デッペン 全く同じ考えであり、多くの可能性があると思う。特に日本はオペレーションが最も進んでいるので、EVがさまざまなユースケースにしっかりと対応していく必要がある。

一方、長距離輸送はEV以外のおそらく水素、それもクリーンな水素が必要になってくる。現状は入手できないし、インフラも十分に整っていない。このため、メーカーとしてお客様やインフラ事業者、エネルギー事業者と一緒にエコシステム、将来のクリーンエネルギーの土台をつくっていく必要があり、脱炭素に向けてこれから長い道のりが控えていると思っている。その中で、物流は競争力の激しい業界であり、手の届く車両にしていくことが重要と考えている。

モダンな社会にはモダンな輸送が必要となる。私たちはしっかりと準備をして、1つのソリューションだけでなく、ユースケースによって柔軟性を持って技術を選んでいくことが重要と考えている。特にEVは、少ない保有のお客様でも脱炭素の車両に替えていかなければならない。私たちにはグリーンリースというプログラムもあるし、また走行距離をはじめ多くのご懸念をお持ちになっているお客様の不安要素を取り除き、ディーゼル車両からEVをはじめとするエコシステムへの移行がスムーズにできるようサポートしていきたい。



——次世代トラックの展望を

長尾 幹線輸送は、早い段階で自動運転化に向かっていくべきだと思っている。高速道路上をそれぞれが走行するという従来のビジネスモデルで果たして良いのか、貨物輸送に関しては自動運転の大型車両が極力決められたレーンを走行する、そういった技術は十分実現が可能だと思っている。

大事なことは、技術もさることながら、われわれ物流事業者が主体となって、どこに乗降のポイントを置くかといったビジネスモデルを創っていくこと。そうすれば、どういった車両が必要か、どのような機能が必要かということも見えてくる。われわれ物流事業者とメーカーとが一緒に未来を築いていければと思っている。

——商用車の今後の戦略は

デッペン 自動運転は、ダイムラーのトラックで経験があるが、車両の技術的な問題だけでなく、ルールを

しっかりと決めていくことが重要となる。つまり、責任の役割分担をどうするのか。今はドライバーが意思決定しているが、自動運転が導入された場合、誰が責任を負うのかを入念に検討する必要がある。とっさの時にはドライバーの判断が非常に重要になるが、自動運転は非常に複雑であり、コンピューターが正しい判断をできるかどうか。そうした課題はあるものの、私たちは一緒に限界を超え、ひとつずつステップを踏んで、そして良い準備をすることによって実現は可能になると思っている。

別の観点から話をすると、商用車はドライブトレイン、電気と水素ベースによって脱炭素の輸送が実現することになる。そしてデータコネクティビティ、CASEの場合もそうだが、スマートに車両が流れていくにはデータコネクティビティとそのプロセスをしっかりと処理していくことが重要になる。そうした技術的な後押しがさまざまなトラックに必要なようになってくると思っている。

長尾 裕 (ながお ゆたか)

- 1965 生まれる
- 1988 高崎経済大学経済学部卒業 ヤマト運輸入社
- 2004 山口主管支店長
- 2006 埼玉主管支店長
- 2009 TSS営業推進室長
- 2010 執行役員関東支社長
- 2013 常務執行役員
- 2015 代表取締役社長社長執行役員 兼ヤマトホールディングス執行役員
- 2017 代表取締役社長社長執行役員 兼ヤマトホールディングス取締役執行役員
- 2019 ヤマトホールディングス代表取締役社長社長執行役員 兼ヤマト運輸取締役
- 2021 ヤマトホールディングス代表取締役社長社長執行役員 兼ヤマト運輸代表取締役社長社長執行役員

カール・デッペン (Karl Deppen)

- 1966 生まれる ドイツ・ニーダーザクセン州出身
- ミネソタ大学カールソン校・ウィーン経済大学経営学修士 (エグゼクティブ MBA)
- 1990 ダイムラー・ベンツ社 (ドイツ) 購買部門
- 1997 メルセデス・ベンツトルコ社 (トルコ) 購買・物流部門 部長
- 2000 ダイムラークライスラー社 (ドイツ) 商用車シャシー部品購買部門部長
- 2001 同社商用車シャシー・バン購買部門統括部長
- 2003 三菱ふそうトラック・バス 購買・物流本部長
- 2007 ダイムラー社 (ドイツ) メルセデス・ベンツトラックライフサイクルマネジメント部門統括部長
- 2011 同社副社長人事開発部門本部長
- 2014 ダイムラーグレーターチャイナ社 (中国) 副社長 最高財務責任者 (CFO)
- 2017 メルセデス・ベンツ社 (ドイツ) 副社長コスト管理部門本部長
- 2020 メルセデス・ベンツブラジル社 (ブラジル) 最高経営責任者 (CEO)
- 2021 ダイムラートラックホールディング社 (ドイツ) 取締役 アジア地域責任者
- 2022 三菱ふそうトラック・バス 代表取締役社長・CEO

求荷求車による実車率/積載率向上で、効率的なサプライチェーン構築

求荷求車システムで知られるトラボックスに新社長が就任して半年余り。揺れ動く物流業界の

動きの中で、求荷求車システムで何を変えていくのか。皆川拓也社長に話を聞いた。



インタビュー

トラボックス
代表取締役社長

皆川 拓也 氏
MINAGAWA TAKUYA

—23年5月に社長に就任から半年強。物流業界の現状や動きについて、どうぞ覧になるか

物流業界はこの1年余り、環境改善への動きが活性化してきたように感じる。就任直後は2024年問題に対して手応えを感じることは少なく、弊社で実施したアンケートでも、「この問題に対応できてはいない」とする回答が6割を占めたが、政府が労働者不足に本腰を入れる中、物流業界の中でも積極的な動きも見られるようになった。

トラボックスは求荷求車のサービス提供を主軸としながらも、自社HPの閲覧数増加に伴い、情報発信が重要だと認識している。「2024年問題特集」のほか、新サービスの「物流一括窓口サービス」もコンテンツに追加した。

—労働者不足が深刻化する中、求荷求車はどのような効果があるのか

労働者不足は日本全国、全業種共通の課題だが、物流業界は2030年に34%のモノが運べなくなるという見方もある。その中で求荷求車が支援できるメリットのひとつが積載効率向上だ。4割を切るトラックへの積載率から、もし2割改善するだけで、労働者不足は2割緩和されることになる。

求荷求車の特徴としてスポット案件が多いため、われわれのプラットフォームで中小運送会社が連携する

ことで、効率よい輸配送や実車率を高めることができる。労働者不足の解決の一端を担え、大手物流会社に匹敵するサプライチェーンを構築できる可能性がある。

—環境への寄与について

例えば、5台のトラックで回していた案件を求荷求車で4台に削減できれば、トラック1台分のCO₂削減などグリーン経営への対策にも貢献できるだろう。現状のトラボックスの会員が求めるのは環境低減ではなく、売上向上だと考えているが、売上を土台に求荷求車をもたらすメリットを発信していけば、グリーン経営にもつながるだろう。

—貴社は物流業界の改革を目指しているのか

われわれは「物流の仕組みを未来に加速させる」とのミッションを掲げている。物流業界に存在する多重下請け構造、アナログ業務は絶対的悪ではないと考える。日本の物流を支えてきた結果が、その着地点だったからだ。

一方でしわ寄せは運送業界で従事する方に集中し、負を一手に引き受けてくれていた。物流業界がこれから進化を遂げるには、負の要素の解消が重要だ。一例としてアナログ業務からオペレーションのDX化を、一步一步着実にやっていくべきだと思う。

ところが、個社単位の部分最適では、業界の仕組みが変わらない。そこで負の要素を解決するヒントをセミナーでご提供している。トラボックスが開催する主要都市でのセミナーでは、専門家を招へいするのではなく同じ立場となる運送会社の経営者が登壇し、成功事例だけでなく失敗事例など経営者の本音を発信し、ご好評をいただいている。2024年には5カ所での開催を予定しており、多くの方にお集まりいただきたいと思う。これらのセミナーは、トラボックスのような中立的な立場だからできることだと考えている。

—11月にリリースされた「物流一括窓口サービス」の動きについて

運送事業者向け製品・サービスの比較検討と一括資料請求を無償提供するもので、効率的に自社に合う製品・サービスを見つけ出すことができる。

「デジタル化したい」「勤怠管理を改善したい」など、運送会社の悩みをカテゴリでまとめた。20社・22サービスで開始したが、年末時点で25社・28サービスとなった。物流一括窓口サービスは掲載社数の目標を設けていない。数よりも内容・質と考えているからだ。

例えば、ビールが有名なパブで、各国のビールが30種類に並んでいるとする。全部おいしいと言われても30種類飲むことは厳しいが、「当店で厳選しているビールは2本です。どちらが好みですか」と案内すれ

ば、選ぶ作業が時間短縮し、好みのビールと出会えるかもしれない。そのようにわれわれが厳選した商品・サービスだけを紹介しており、ご覧いただく方の利便性を高めた。

2024年問題は、物流を取り巻く環境や状況が大きく変わってくるターニングポイントになるだろう。その際に、どのようなサービスのニーズがあるのかなどの選択肢や、訪問いただく方々への案内方法も引き続き検討していきたい。

—貴社が精力的に進める「ユーザー交流会」の昨年手応えは

ご参加いただく方々がありがたいことに年々増えており、運送会社の交流の場としては非常に有意義な場であると再認識した。

求荷求車サービスはオンラインでやり取りできるが会場でお会いすれば、安心感が出てくることを参加者には感じてもらっている。会員さん同士による紹介や具体的な新規案件の商談の場としても有効で、皆さん戦友のように輪が広がっている。

2024年には主要都市で7回の開催を予定している。物流業界が大きく動くタイミング。運送会社さんが会社経営や運営効率を上げた結果、運送業界で働きたいといった方々が増えるよう、情報発信を通して支援していきたい。



社会インフラである物流全体最適化に舵を切る

「物流2024年問題」は、2024年が始まりであり、何も対策を講じなければ輸送能力が14%不足するといわれる2024年をたとえ乗り切ったとしても、2030年には34%不足の事態が待ち構えている。その2030年を目標として、自動運転など物流DXに関するさまざまな施策が進められている。2030年は、温室効果ガスを46%削減する大目標が控える。昨年4月には省エネ法が改正され、8トンのトラックは2030年までに非化石エネルギーの比率を5%にしなければならない。物流GXにも手を打っていく必要がある。

物流DXの潮流

● 研究開発を終えたSIP「スマート物流サービス」

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期の1つとして2018年度からスタートした「スマート物流サービス」は、5年間の研究開発期間を終え、2023年3月に研究成果をまとめた。

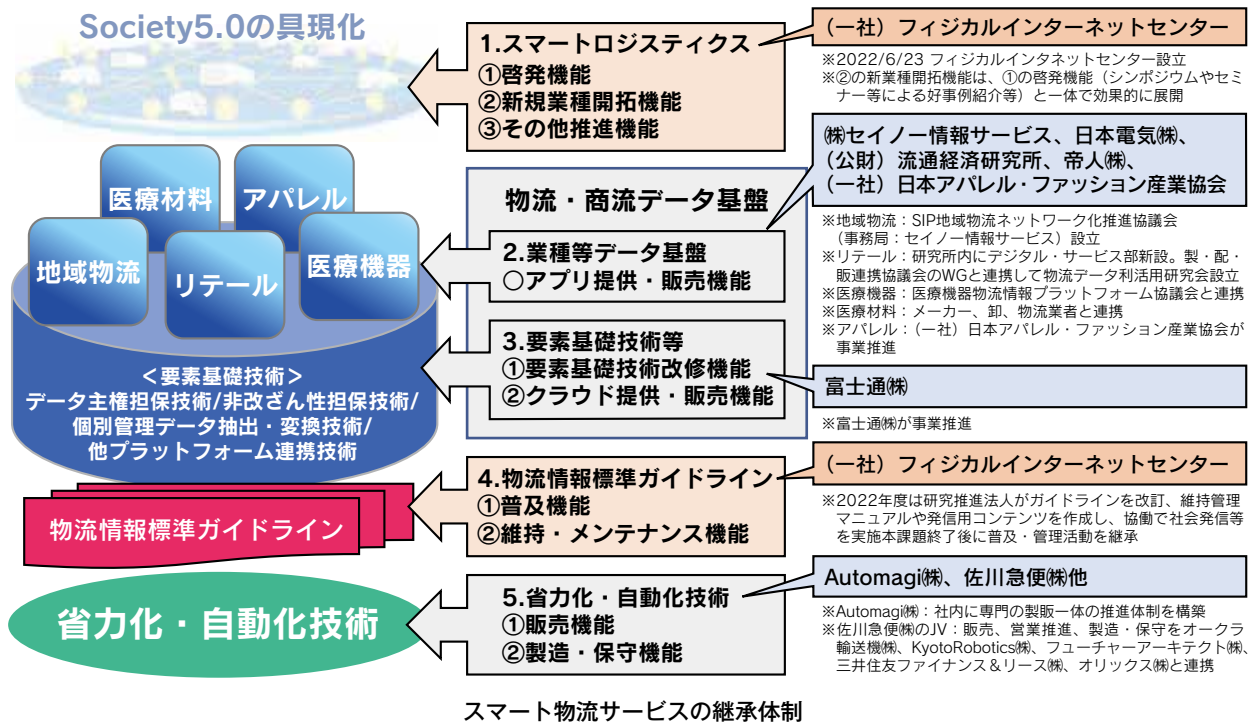
スマート物流サービスは、社会インフラとしての物

流を維持するために構想され、途中からカーボンニュートラル実現も目的に加わった。個別最適の物流から全体最適の物流へと進化することを目指し、「物流・商流データ基盤」の構築、「自動データ収集技術の開発」を行った。

物流・商流データ基盤は、オープンな物流・商流データを収集・可視化し、物量予測などによる最適な人員配置や、リソース(車両・施設)を有効活用して共同輸配送を実現する。

具体的には、個別管理データ抽出・変換技術、アクセス権限コントロール技術など4つの要素基礎技術を開発するとともに、それらの技術を業界横断的に活用できるよう「物流情報標準ガイドライン」も策定。アプリケーションとして、地域物流やリテールなど5業態でビジネスモデルを構築し実装を果たした。

「自動データ収集技術の開発」は、これまで取得されていなかったデータを自動で収集するデバイスやアプリケーションを開発。選定した6テーマのうち、「スマホAIアプリケーション基盤技術」と「荷物データを



自動収集できる自動荷降ろし技術」の2テーマが実装を果たした。

スマート物流サービスは、2040年を目標年次とした究極の共同物流であるフィジカルインターネットのロードマップにも明確に位置付けられた。

5年間の研究期間を終え、成果は一般社団法人フィジカルインターネットセンターに引き継がれた。現在、同センターは研究成果の横展開を推進するとともに、特に物流情報標準ガイドラインの維持・メンテナンスを手がけている。

● パレット標準化、次のステージへ

人手不足の中でも物流の機能と高度なサービスを維持するには、標準化が欠かせない。モノ・データ・輸配送条件を含む業務プロセスを標準化するため、官民物流標準化懇談会が設けられ、第1弾となるパレット標準化推進分科会は現在、最終とりまとめの段階にある。

中間とりまとめでは、これから物流効率化に取り組む業界・事業者に対してT11型(1,100×1,100mm)パレットを推奨することを決定。目下はレンタルパレットを活用するための共同プラットフォームの構築に向け、実証実験を2024年1月から2月にかけて実施している。実証実験は、日用品業界が異種パレットの共同回収および返却先の仕分けを行い、パレットの必要枚数削減、レンタルパレットの回転率向上などの効果を検証中。

最終とりまとめは、2024年3月末を予定しており、2025年末をゴール目標としたロードマップが示される。

● 新東名に自動運転トラックレーン

政府のデジタル田園都市国家実現会議は、自動運転トラック(自動運転支援道)をデジタル田園都市国家構想の先行プロジェクトと位置づけ、2024年度の実装を目指している。

新東名高速道路・駿河湾沼津～浜松間に100km以上の自動運転トラック専用レーンを設け、深夜時間帯に走行させる計画。路側センサなどで検知した道路状況(合流支援情報、落下物の

検知、工事規制情報など)を車両側に提供し、自動運転を支援する。

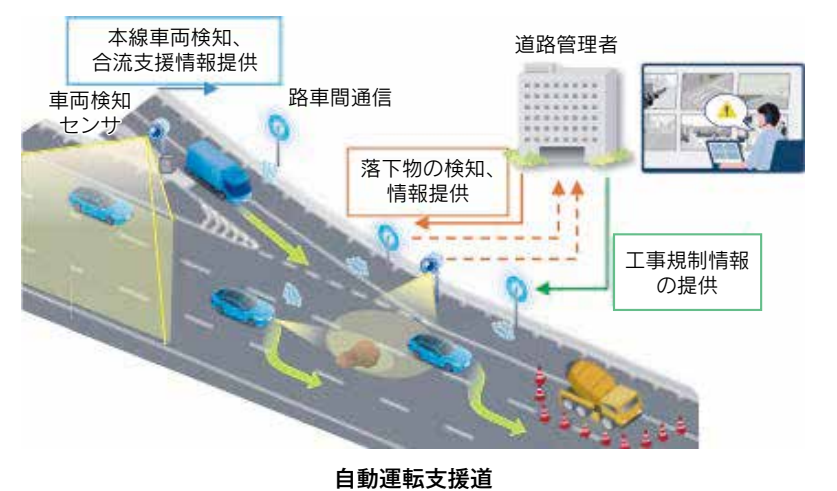
先行プロジェクトは、2023年度から10年間に官民で集中的な投資を行うとしており、現在自動運転トラックの利用見直しや仕様、先行的に整備する地域、運営主体などを検討している。2026年度以降にレベル4による物流サービスを神奈川～愛知間で先行実現し、ここで確立したノウハウやメニューを他地域に横展開していく。

● オートフロー・ロードなど新たな物流形態を構想

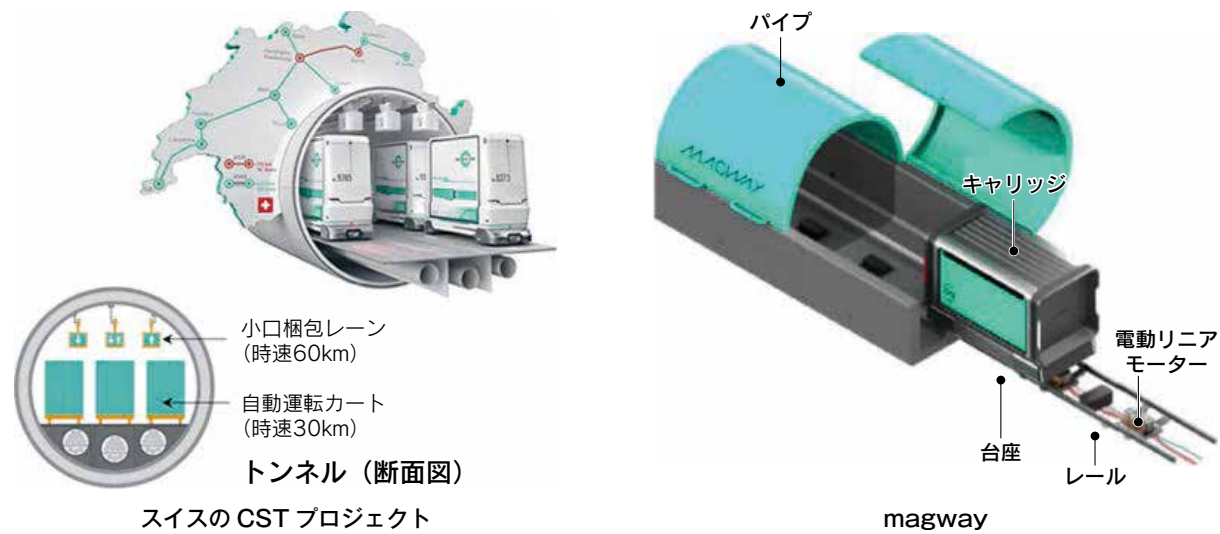
国土交通省道路局が事務局を務める社会資本整備審議会道路分科会物流小委員会は昨年8月、幹線輸送の担い手不足の切り札として、スイスで構想中の地下物流システム(CSTプロジェクト)やイギリスの専用鉄道線(magway)を紹介。これを同審議会国土幹線道路部会が引き継ぐ形で「自動物流道路」(オートフロー・ロード)を提案した。

スイスのCST(Cargo Sous Train)プロジェクトは、地下20～100mに直径6mの貨物専用トンネルを約500km整備し、自動運転カートがトンネル内の3線レールを時速30kmで24時間体制で走行する。2025年までに計画を策定し、2026年に建設を開始。2031年に第1期としてヘルキンゲン～チューリッヒ間約70kmで運用を開始し、2045年までに全路線(ジュネーブ～ザンクトガレン間約500km)を完成・運用開始する。

建設費用は約5兆円、すべて民間資金でまかない、これにより大型貨物車の交通量を第1期開通後20%、全線開通後は40%削減させるとしている。



社会インフラである物流 全体最適化に舵を切る



イギリスのMagwayは、ロンドンの既存鉄道敷地内に全長16kmの専用線を敷設。電磁気力を動力とする低コストのリニアモーターカーを使用した完全自動運転による物流システムを構想。パイプの直径はコンテナが入る約1m。西ロンドン地区の大型物流ハブから各社の物流施設までを輸送する。

2025年までに許認可を取得し、2028～2030年に運用を開始する計画。

オートフロー・ロードは、都市間輸送を人が荷物を運ぶという概念から、人は荷物を管理し、荷物そのものが自動で輸送される仕組みへ転換することを意味する。

日本でもかつて、大深度物流トンネルや新物流システムなどの構想があったが、実現に至らなかった。大深度物流トンネルは、東京港中央防波堤外側コンテナふ頭から圏央道・青梅IC北側間約53kmを結ぶ地下トンネルを建設し、青梅IC付近にはインランドデポを設け、電動台車を用いた軌道輸送システムにより国際海上コンテナを自動搬送するもの。2009年頃に構想され、整備費用は約2600億円、施設運営費は年間46億円と試算された。

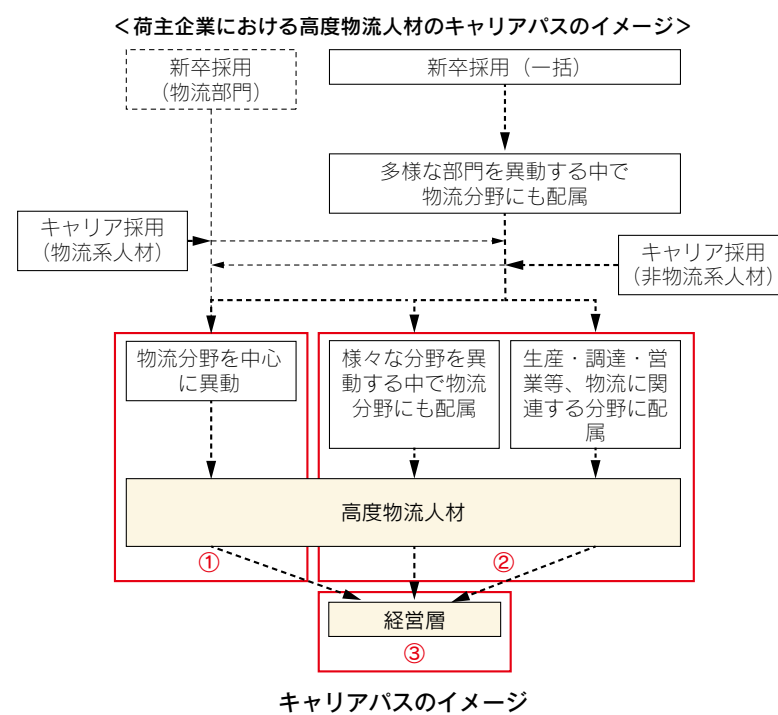
新物流システムは、新東名高速建設時の1990年代に構想。自動車専用道路の中央分離帯に線路を敷設し、デュアルモードトラック（鉄道軌道と道路をともに走れるトラック）を自動走行

させ、一般道に入るとバッテリーにより手動運転するもの。

● 高度物流人材育成で提言

物流2024年問題を乗り越え、物流を持続可能としていくためには知恵が必要となる。国土交通省は「高度物流人材の育成・確保に関するワークショップ」を設置し、2023年4月に提言をまとめた。

高度物流人材とは「サプライチェーン全般にわたる幅広い知見、企業内外のさまざまな関係者間の連携、新たな技術や異分野との融合といった、物流の枠を超えた知見や能力を備えた人材」のこと。



求められる能力として、①デジタル化に対応し、データドリブンで思考する能力（データ活用能力）、②サプライチェーン全体最適化の視点からマネジメントする能力、③社会変化に対応し、新技術導入や異分野連携を推進できる能力を挙げている。

高度物流人材となり得る人材のキャリアパス（道筋）には、物流分野を中心としたキャリアパスを進む人材、物流以外の業務に従事する中で物流にもかかわる人材、キャリアパスを歩んだ経営層に大別され、それぞれのイメージが示された。

日本企業（特に荷主企業）は、メンバーシップ型雇用が中心だが、今後は職務内容を明確にして雇用契約を結ぶジョブ型雇用が増大することが見込まれる。このため、高度物流人材のエキスパートとしての待遇、キャリアパスのあり方を含む人事制度改革についても教育・研修体系とセットで検討すること、育成プランに合わせた人材の評価制度を見直すことも重要だとしている。

物流GXの潮流

● 非化石エネルギー比率5%を求める

2023年4月に改正された省エネ法は、特定貨物輸送事業者（車両保有200台以上の物流事業者）に対し、2030年までに保有車両の5%を非化石エネルギーにすることを求めている。特定荷主（年間3000万トンを以上の貨物を委託する荷主）に対しても、同様の措置が取られる。

目標を達成するため、特定貨物輸送事業者が取り組むこととして、非化石エネルギー転換に関する取り組み方針を定めること、責任者および推進体制を明確にすること、エネルギー使用実態を把握し、定期的にモニタリングすること、荷主と連携して非化石エネルギーの割合が増加する輸送方法を選択することを明記した。

● エネルギーマネジメント構築に着手

昨年は、多くの大手物流企業がEVやFCVの導入・実証を行い、それが中堅企業にも広がる勢いを示した。導入が広がるにつれて課題となるのがエネルギーマネジメント。商用車は稼働する距離・時間が長い分、大容量の充電・充填（水素）が必要な自動車が増える

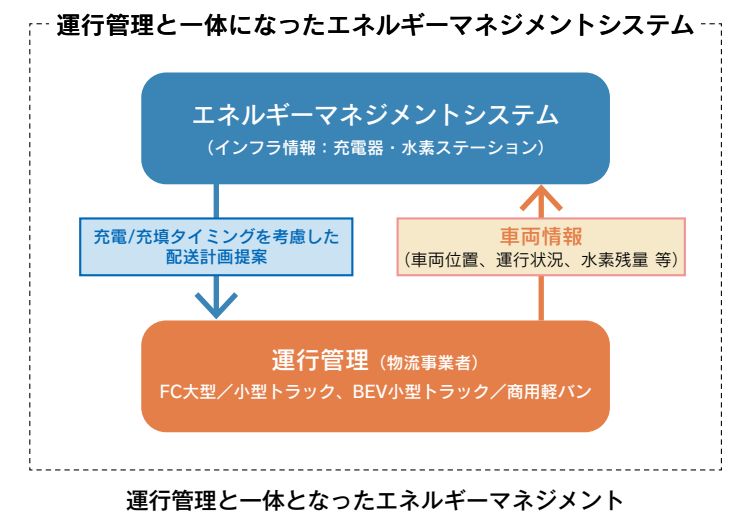
と一定時間に集中し、インフラの混雑が起きてそれがコストに跳ね返ってくる。現状とそん色ない効率性が実現しないと、電動化のメリットを損ねてしまう危険性がある。

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、グリーンイノベーション基金により、特に運行管理と一体となったエネルギーマネジメントの検討を進めている。あらゆる商用車のデータを連携させ、どの車両がどこで充電・充填するのかのシミュレーションを行う。

具体的には、車両・走行データ、充電・充填インフラの性能（補給時間の目安）、地図データ、気象や道路情報などのデータを連携させ、充電スタンドや水素ステーションの最適配置に活用したり、電力ピークを分散しながらスタンドの混雑状況を勘案して充電・充填のタイミングを調整したり、交通情報や他社の商用車の運行ルートを読み取った最適な運行ルートを構築するなどの全体最適を目指している。

NEDOは現在、シミュレーションモデルの構築、データ連携システムの設計、エネルギーマネジメント用地図データベースの開発を手がけており、2024年までにモデルの精度や有効性を検証し、次の3年間でシミュレーションの対象やデータベースの大規模化を進めていく。

商用車は、運輸部門に占めるCO2排出量の約4割（約7000万トン）を占める。運行管理と一体となったエネルギーマネジメントシステムが確立し電動化が進めば、かなりのCO2削減に貢献できる。収集したデータは、交通渋滞の予測や災害時の支援などに活用することも期待される。



物流 2024 問題を突破する 物流 DX でスマートロジス ために、 ティクス実現を

対談

西田 光男 ロジスティクス IT 研究所

花房 陵 ロジスティクス・トレンド

物流塾という勉強会兼情報交歓会を主宰している両氏による対談形式で、物流 DX とスマートロジスティクスを展望する。

西田 物流がロジスティクスと呼ばれるようになったのは、案外最近のことなのです。1990年の湾岸戦争は55万の将兵と700万トンの物資をアラブの砂漠に配備した、史上最大のロジスティクスシステムが勝利をもたらしたと言われています。この経験を経て、日本でも「物流」から「ロジスティクス」への転換が起こったのです。しかし、言葉や概念が新しくなったとしても、長らくは現場において荷役や運搬、保管などの新しいハードウェアの登場が主役であり、情報データ連携や利活用というソフトウェアはまだ脇役に過ぎませんでした。

物流現場では、印刷された伝票や出荷指示書を片手に、商品を探しながら、迷い、歩き、終日懸命に作業している姿が見受けられました。彼らは一生懸命働いているにもかかわらず、会社にとって物流はコストセンターとしてしか見なされなかったのです。

花房 私も生産工場の倉庫や当時はまだ珍しかった通信販売の倉庫でパソコンアプリの Multiplan を担いで業務改善の支援を行い始めたときの話題は、コストセンターの再評価や物流マンの地位向上なんていうのが多く聞かれましたね。食品工場などでは自動倉庫やコンベアなども配備されていましたが、物流作業の支援システムはほとんど見たことがありませんでした。

西田 湾岸戦争では一部の軍用コンテナには IC チ

ップがすでに使われており、「ロジスティクス＝戦略的な物流」では、情報がいかに重要な要素であるかを広く伝える必要があると決意したのです。

花房 物流現場には、スプロケット穴のついた出力用紙を手際よく、カットする事務員の方がたくさんいらして、コンピュータは便利だけれども、お世話するのも大変なのだと言葉が詰まり処理に追われる方が話されていました。

西田 2003年以降では、PCの能力が急速に向上し、様々なソフトウェアの登場が続きました。伝票や紙による物流作業と情報システム機器の間にあったギャップがなくなり、物流現場でのペーパーレスが広く認知されるようになりました。私が販売を行っていたアイオイ・システムでは、ペーパーレスピッキングを実現するために、デジタルピッキングシステムを販売していました。ロケーションのランプを点滅させピッキングの数字を表示することで、誰でも間違わずにピッキング作業ができるようになりました。年々改良が進み、ランプや数字の代わりに画像や照明で手元の勘違いを防ぐ仕組みも採用されるようになりました。

花房 アイオイさんは、後に電子ペーパーという表示技術をイー Ink 社から導入して、自動車業界で普及していたカンバン物流方式のペーパーレスを実現しましたよね。あれはスマートタグと呼ぶのでしたっけ、物流コンテナのラベルの代替としてペーパーレスタグとして導入されています。

西田 インターネットが普及するにつれて、物流現場でも IoT がイノベーションをもたらしているのです。基幹システムや管理システムもクラウドでの実行が主流となって、ネット接続さえできれば、様々なサブシステムが容易に自在に利用できる環境が整ってきたと言えるでしょう。

シンギュラリティという人知を越えるカウントダウンも始まりました。物流現場ではペーパーレスからカメラの画像認識、トラックの動態管理、商品タグに組み込まれた IC チップが情報データの双方向通信を可能として、モノのデジタル化が始まりました。

花房 情報データは今まで、登録・修正・削除という3状態でシステムが設計されていました。データ登録も誰かが手入力したものを通信で受け取るという、人の手によるデータでした。ところが IoT が登場することで、情報機器そのものがデータを作り出し、通信しながら別の機器と連動するというセンサー機能、モニター能力、レスポンス情報判断という機能を生み出して、その機器が付いたモノが、まるで生き物のように状態を常に更新・発信することが可能になったのです。これがスマートロジスティクスの登場なのですね。

西田 双方向のデータ通信の実現によって「たった今、何が起きているのか、その原因は何か、ならばどのように対処すべきなのか」という意思決定が手中に収まるようになったのです。リアルタイムに活動やモノを監視し、その状況を把握してよりよい方向への修正が瞬時に行える、まるで生命体のようにモノが進化したと言えるでしょう。従来の物流が本当にロジステ

ィクスに変貌したと言えるのです。

花房 スマートロジスティクスの特徴として、今はどんなことが現場で起きているのでしょうか。自動化機器やロボットが動き始めていますが、何が変わったと言えるのですか。

西田 人は産業の中では機械に使われてきたと言えなくもないです。機械のペースに合わせて、機械の調整や保守などを通じて、機械の能力を維持したり、高めたりする役割を人が担っていました。チャップリンの『モダンタイムス』に現れた風景が長い間続いていたとも言えるのです。ところが、コンピュータの進化によって、機械やロボットに何をさせるか、プログラミングによって人が操作できるようになりました。長年の立場がついに逆転したのです。

これにより、危険な仕事やつらい作業をコンピュータやロボットに肩代わりさせています。スマート機能の一例としては、センサー、モニタリングの自動化によって完全無人化された仕事や工場、倉庫が登場し始めています。タブレット端末があれば、倉庫内の全容や貨物の状況を一目で把握できるし、工場内のすべてのマシンの稼働状況もたった一人で把握、管理ができるシステムも登場しています。

花房 物流 DX プームによって、スマートなロジスティクスが実現すると、今後はどのような仕事が残ることになるのでしょうか。

西田 情報通信革命がもたらすものは、幸福と福祉

物流 2024 問題を突破するために、 物流DXでスマートロジスティクス実現を



図1 コンピュータの情報処理能力の進化

の追求だと言えます。まず物流活動はビジネスにおけるキャッシュフローをもたらします。ロジスティクスは勝利をもたらす技術です。もっと高速・高精度で同時に省エネルギーや地球温暖化ガスを抑制する物流活動であるために、情報通信機器やソフトウェアを活用するのは、物流現場で働く物流マンであるはずで

花房 多くの人が働く物流現場では、ロボットや自動化機器を大いに期待する風潮はこれからも進むわけですが、中小中堅の企業では、「とても設備投資を行う余力がない、ただでさえ物流コストの上昇を抑えられないのだから」という声があります。スマートロジスティクスを実装するには、かなりの投資が必要になりますが、どのような投資判断をすればよいのでしょうか。

西田 私が主催している毎月の勉強会「物流塾」は今年で260回の連続開催を続けています。もちろん一人の力ではなく、運輸新聞はじめ物流関連事業者などのご支援をいただいているからなのですが、毎回の勉強会講師には物流情報システムや自動化機器メーカー、海外のロボットメーカーさんなどが登場していただき、参加者に新しい情報提供や最新の動向を解説していただいています。特にハードウェアの商社やメーカーさんにはたくさんの提案ノウハウを公開してもらっています。物流現場に設備投資を行うには、正確な投資回収計算が欠かせませんが、現在のような人手不足、ドライバー不足の実態では、作業者の運営でも20

人を越える現場ではロボットや自動化機器の導入採算は十分に成り立つことが証明されています。

花房 ロボットや自動化機器の投資による減価償却期間は、5年から10年程度までの中長期にわたり採算計算が必要なのですが、やはり低金利時代の影響が投資導入の意思決定を優位にしているということなのですね。そこには、機械ですから保守や稼働を維持するためのメンテナンス経費も必要ですよね。どれほどなのでしょう。

西田 「第259回物流塾」では大手マテハンメーカーのメンテナンスサービスの方とロボット商社の方に登場していただきましたが、20万から数億の自動化機器やロボットの保守メンテナンス経費は、年間で投資額の5%程度というのが実際だそうです。設備投資の減価償却率は期間にもよりますが、年間で2%程度とみなせますから、仮に500万円のロボットを導入したとして、年間のランニングコストは7~10%で済む勘定です。

「物流塾」については下記URLのホームページを参照してください。 <https://www.butsuryuujuku.net/>

花房 ロボットが働く現場、まさに若い人には魅力的に映るでしょうね。

西田 実は良いことばかりではない気もするので。それはAIやロボット技術が、今までの職業や仕事

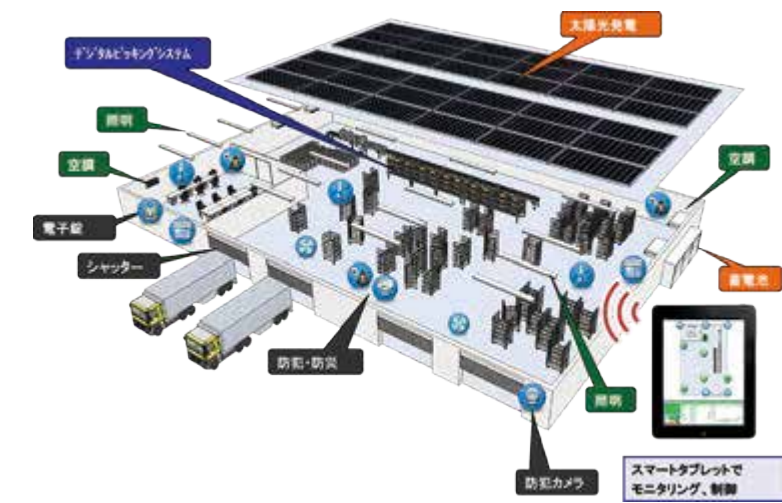


図2 IoT機能で管理されるスマートウェアハウスのイメージ

を奪うと言われています。人手不足は解消されるかもしれませんが。同じような仕事は将来なくなると覚悟する必要もあるのです。その意味でも私たちは時代の変化に敏感でなければならず、大きな変化を受け入れる覚悟も必要なのです。

たとえAIによって、人知を越える時代が訪れるとしても、私たちの知恵や創造性、問題解決の気づきは、これからも人の感性や頭脳に頼ることでしょう。私たちの頭脳は、どんな高速コンピュータよりも遙かに省エネルギーで働いています。私たちの五感と勘はどのようなセンサーよりも優れているのです。ロボットは私たちの手や足の代わりにはなりますが、感触をもった指には代われないのです。流行や雰囲気を感じる直観は私たちのものです。続々と登場するスマート機器を組合せ、活用し、最も効果を発揮できるのは私たちの経験に頼らざるを得ないのです。これからは21世紀の人間復興：ルネサンスが再び求められている時代といえるでしょう。

花房 ところで物流の地位向上に欠かせない待遇面でのこれからはどうなるのでしょうか。サプライチェーンの効率化を目指したとしても、需要：デマンドの購買力が低ければ、経済の成長自体が弱体化しかねません。そうすると当面の方向としては、マーケットをグローバルに求めることなのでしょうか。

西田 アジア全域はまだまだ人口が増え、経済成長も進んでいます。私たちは改めて成長分野や世界の市

場を見直す必要があると思いますね。日本で培った技術や高精度・高速なロジスティクスを世界に広める努力がいっそう求められると思います。日本は成熟してしまい、成長が鈍化していますが、地球全体では人口爆発、資源開発不足、食料問題などまだまだ旺盛な需要に応えられていないのです。ロジスティクスの真価が問われているのです。若い人にはどんどん世界に飛び出てもらいたいですね。

花房 スマートロジスティクスを実装することで、過剰在庫を抑制し、生産部門や販売部門へのリアルタイムなサポートを通じ、企業のキャッシュフローを改善する物流マンが登場すれば、処遇待遇もふさわしいものになるでしょう。

西田 本誌「ロジガイ2024」でも、多くの物流機器、ロボット、情報システムの紹介が掲載されています。ぜひ参考にいただき、未来のロジスティクスを描いていただければと思います。また、物流DXとスマートロジスティクスについては、下記の書籍にも詳しく解説されていますから、ご参考にいただければ幸いです。

- 『DX デジタルトランスフォーメーション事例100選』NTS社、2023年11月刊
- 『スマートロジスティクス IoTと進化するSCM実行系』NTS社、2018年3月刊

SHOWROOM

ショールーム 各社趣向を凝らした常設展示場

IHI 物流産業システム



IHI横浜ロジラボ

コンセプト

「IHI横浜ロジラボ」はIHIの最新物流システムの技術革新の場であるとともに、お客様が実際に本システムを体感できるショールームを兼ねており、商談スペースとしても利用可能な施設。

ピッキング業務を劇的に改善する、今話題の3次元ピッキングシステム「Skypod」のほか、AIを活用したデパレタイズ・パレタイズやピッキングのロボットソリューションの実機を、実際の物流現場での運用に近い形で確かめることができる。

また、毎月1回、これらの実機体験と物流業務改善に関する座学セミナーをセットにしたイベントも開催しているので、案内をご希望の方はホームページからのメールマガジン配信登録を。

所在地

〒235-8501 神奈川県横浜市磯子区新中原町1
IHI横浜事業所内

主要展示品

- 3次元ピッキングシステム「Skypod」
- IHIデパレタイズシステム
- IHIピースピッキングシステム

ショールームの面積

約300㎡

開設

2022年6月

予約の有無

予約有 公式ホームページの
お問い合わせフォームから予約
<https://ihi-logistics.com/>

アクセス

- JR根岸線 新杉田駅より徒歩5分
- 京浜急行 杉田駅より徒歩15分

駐車場 無

予約連絡先 特に設置なし



パレタイズ・デパレタイズシステム



ピースピッキングシステム

アイオイ・システム

アイオイ・システムショールーム

コンセプト

物流センター、工場内全体をデジタル統合化システムによって生産性改善・ミス撲滅、見える化を実現。世界トップシェアのピッキングシステムやスマートタグ・カードによる物流・製造DX等、事例と併せて紹介している。

また、オンラインで体験できる「LIVEショールーム」の仕組みを構築。（2020年5月からスタートさせ累計数実施社数1,800社以上）

アイオイ・システムは、ショールームをお客様とつながる「コミュニケーションの場」として考えている。気軽に来場、またはLIVEにて参加できるショールームだ。

所在地

東京本社 東京都品川区南大井6-22-7
大森ベルポートE館9階
tel.03-3764-0228

大阪営業所 大阪府大阪市都島区東野田町4-6-22
ニッセイ京橋ビル301
tel.06-6242-8062

主要展示品（製品名） *実機デモ可

- 業界NO.1デジタル表示器（無線/有線モデル）
「デジタルピッキングシステム」
- シャッター付きピッキングシステム「シャッターアソートシステム(SAS)」
- 映像投影型最新ソリューション「プロジェクションピッキングシステム®」
- スポットライトピッキングシステム(SPS)
- ピッキング・仕分け連動システム「AGV(自動搬送車)+PPS+SAS」
- 【物流・製造DX】見えるRFID
「SmartTag/Card」

*展示内容は時期によって変更します



ショールームの面積

129.57㎡（本社ショールーム）

開設

ショールーム開設 2008年より

LIVEショールーム稼働

2020年5月から本格的にスタート

予約の有無

事前予約制（WEBまたは電話受付）

開館日・営業時間

土日・祝祭日/年末年始/夏季休暇を除く
9:00~17:30

アクセス

東京本社（JR大森駅徒歩5分）
大阪営業所（JR京橋駅徒歩10分
地下鉄京橋駅徒歩5分）

駐車場 無

予約連絡先

公式サイトURL

<https://www.hello-aioi.com/jp/showroom/>

オカムラ

物流システム ショールーム

LUX ルクス



コンセプト

オカムラ初の物流システム専用ショールームとして2020年7月に物流システム機器の生産拠点である富士事業所（静岡県御殿場市）内に開設した。Logistics（物流）のLとUser Experience（ユーザー体験）のUXを組み合わせた「LUX」はラテン語で光を意味し、ユーザーの物流の一步先を照らし出すという意味を込めている。

オカムラが提供する物流システムの主力製品を展示し、実際の稼働デモンストレーションを体感・体験し、新たなソリューションを発見していく創造的体験型のショールーム。「機種選定の参考にしたい」、「作業性や能力を検証したい」、「製品規模を確認したい」、「運用イメージをつかみたい」などの要望に合わせて案内し、導入前の疑問解消や課題解決のアイデアを得る場として活用されている。

所在地

〒412-0034 静岡県御殿場市大坂102-1
（オカムラ 富士事業所内）

主要展示品

- 多段式独立水平回転棚「ロータリーラックH」
- ロボットストレージシステム「オートストア」
- シャトル式保管・仕分けシステム「コンチェスター」
- パレットストレージシステム「サイビスター」
- 各種コンベヤ・ソーターシステム、ロボットピッキングシステム、自律移動ロボット「ORV」ほかマテハン機器約20点
*全て実機デモ可

ショールームの面積

約1400㎡

開設

2020年7月

予約の有無

予約要

窓口担当に事前にご連絡いただくか、下記URLより
定例見学会へお申込み

<https://www.okamura.co.jp/company/showroom/lux/>
法人顧客専用の定例見学会、毎月第3金曜日
（午前/午後）に開催中

アクセス

●車の場合

東名高速道路「駒門スマートIC」から5分/
「裾野IC」から約10分

●電車の場合

JR御殿場線・小田急ロマンスカー「御殿場駅」から
タクシーで約20分 / 東海道新幹線「三島駅」から
タクシーで約40分

駐車場 有

予約連絡先

物流システム営業部 tel.03-5501-3520



Gaussy



コンセプト

労働人口の減少やEC貨物急増への対応といった物流課題の解決に向けて、自動化の流れは今後さらに加速する。Robowareでは導入コストや運用面におけるロボット活用の障壁を解消し、異なるメーカー／異なる用途のロボットを誰もが自由に選択できる世界の実現を目指す。

都内から気軽にアクセスでき、羽田空港にも近接する東京流通センター内に開設された本ショールームは、いつでも気軽に倉庫ロボットに触れることができ、導入を検討するための情報収集ができる場を提供するもの。ショールームでの体験を通じて、ロボット導入や運用のイメージをより具体的にできるほか、導入時の障害や問題点を相談できる場としても利用できる。

所在地

〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1
東京流通センター 物流ビルA棟 2階モデルルーム内
(区画AE2-3)

主要展示品

- 立体型仕分けロボット
「Omni Sorter」
(オムニ・ソーター)
- 自律型ナビゲーション
ロボット (AMR)
「Max シリーズ」
「Flex シリーズ」

*全て実機デモ可



Maxシリーズ



Flexシリーズ

ショールームの面積

約220㎡

開設

2023年12月

予約の有無

事前予約制

アクセス

●電車・バスの場合

東京モノレール「流通センター」駅 徒歩5分

JR「大森」駅 バス約12分

京浜急行「平和島」駅 バス約5分・徒歩20分

●車の場合

首都高速 羽田線「平和島」出入口から約1km

首都高速 湾岸線「大井南」出入口から約3km

駐車場 有 (要予約)

予約連絡先

予約フォームまたはメールで

<https://roboware.ai/event>

toiawase.roboware@gaussy.com

GROUND



コンセプト

GROUNDは、物流・Eコマース・流通業界が直面するさまざまな課題を解決できるような先進テクノロジーの実証実験や研究・開発を行うことで、それらの早期実用化・最適化を目指すことを目的に「playGROUND」を設立した。

ユーザーの物流環境をよりリアルに再現できる設備も導入しているため、AIやロボットソリューションなどの先端テクノロジーをさまざまなニーズに対応させて柔軟なデモンストレーションが可能。

また、ショールームスペースも完備、AIを活用した物流施設統合管理・最適化システム「GWES」をはじめ、複数の異なる役割のロボットソリューションのデモンストレーションを体験できる。

所在地

〒272-0011 千葉県市川市高谷新町6番4
「DPL市川」2階

主要展示品

- 物流施設統合管理・最適化システム
「GWES (ジーダブルイーエス)」
 - ピッキング作業支援 自律型協働ロボット
「PEER (ピア)」
 - 工程間搬送支援 自律型協働ロボット
「OASIS (オアシス) シリーズ」
 - 無人搬送フォークリフトロボット
「GULF (ガルフ) シリーズ」
- *全てのソフトウェアおよびロボットソリューションのデモンストレーションが可能

ショールームの面積

700㎡

開設

2018年8月15日(水) 開設

*2020年9月18日(金) 拡張

予約の有無

予約要

<https://www.groundinc.co.jp/services/seminars/>

アクセス

●車の場合

外環自動車道「市川南IC」から約10分、首都高湾岸線「千鳥町IC」から約15分

●電車の場合

JR総武線・武蔵野線、東京メトロ「西船橋駅」からタクシーで約20分／JR京葉線「二俣新町駅」からタクシーで約10分

駐車場 有

予約連絡先

<https://www.groundinc.co.jp/services/seminars/>



日に新館

ダイフク



コンセプト

業界に先駆け開館したマテハン・ロジスティクスの体験型総合展示場「日に新館」。最新技術を用いたシステム・機器がそろう、実稼働している。ダイフクとロジスティクスに関連する約30社を含め、数多くの機種を展示しており、その規模は世界最大級。運用システムや物流設備をより深く理解してもらうために、すべてのお客様に専任スタッフによる説明案内（日本語・英語・中国語・韓国語）を行っている。また、車椅子での全館対応など、ユニバーサルデザインの実現にむけた施設づくりを目指している。

所在地

〒529-1692 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225
株式会社ダイフク滋賀事業所内

主要展示品

- 自動車生産ライン向けシステム
- パレット系保管・搬送システム
- ケース系保管・搬送システム
- 仕分け・ピッキングシステム
- クリーンルーム向け保管・搬送システム
- 空港向けシステム

ショールームの面積

建物面積 6,049㎡
延床面積 19,482㎡

開設

1994年6月1日 開館

予約の有無

事前予約制

開館日・時間

見学時間／09:50～15:15

休館日／土曜日・日曜日・祝日

*臨時休館中など最新情報は

下記ホームページでご確認ください

アクセス

●車の場合

名神高速「八日市IC」から約15分

●電車の場合

無料シャトルバス JR近江八幡駅から約45分／JR米原駅から約60分（要予約）

予約連絡先

<https://www.daifuku.com/jp/showroom/hininaratakan/>



Mujin



ロボットソリューション展示場

コンセプト

Mujinは独自の高度なロボット知能化技術「Mujin MI」により、自律的に考え、臨機応変に動く知能ロボットを実現。これまで難しいとされていた工程やワークへの対応が可能になり、従来のロボット課題をクリアする新たなソリューションパッケージとして、多くの物流・製造現場で利用されている。

「ロボットソリューション展示場」は都内最大級のロボットセンターとして、物流倉庫におけるケース品積み下ろし・積み付け・ピースピッキング工程などで広く使用されている物流知能ロボット「MujinRobot」各種の実機デモンストレーションを行う。自動化検討する際、「まず、ロボットの動きを見てみたい」という方や具体的な個別相談希望の方まで、幅広いユーザーが訪れている。

所在地

〒135-0053 東京都江東区辰巳3-8-5

主要展示品

- MujinRobotデパレタイザー
- MujinRobotパレタイザー
- MujinRobotピースピッカー
- *全て実機デモ可

ショールームの面積

1000㎡

開設

2019年9月

予約の有無

予約有 イベントページより予約

<https://www.mujin.co.jp/event/>

アクセス

●東京メトロ有楽町線「辰巳駅」にて下車
2番出口より徒歩10分

●都営バス停「辰巳三丁目」にて下車
バス停より徒歩1分

駐車場 有（事前予約必要）

予約連絡先 events@mujin.co.jp



Forward X



コンセプト

中国のロボットメーカー Forward X(フォワードエックス)は2021年5月に日本法人を設立、主力製品11種の国内販売を開始した。

同社はピッキング向けの「Flex(フレックス)AMRファミリー」並びに、ケースピッキング向けで重量搬送を可能とする「Max(マックス)AMRファミリー」を提供。日本市場でAMRロボット展開を本格化するとともに、ユーザーの問い合わせ窓口となるサポートを拡充した。

日本支社が提供する協働型自律搬送ロボットは、「フリートマネジメントシステム」の最先端技術を用いて、施設内を最短2時間でマッピング。ロボットが人や障害物と接触することはなく、自律走行を行う。ロボット運用中に施設内の設備変更があった場合、かんたんにルート変更や最適ルートの選択が可能。工場内、倉庫内の省人化、生産性の向上を実現する。

また、マテハンやエレベーターとのシステム連携によりこれまでロボットでは難しかったフロア間移動による搬送が可能になり、大幅な省人化が可能となった。

所在地

〒104-0053 東京都中央区晴海4-7-4
CROSS DOCK HARUMI 6F

主要展示品

- Flexシリーズ300R
- Flexシリーズ300DP
- Max 600DL
- *実機デモ可

ショールームの面積

約100㎡

開設

2020年10月

予約の有無

予約要

アクセス

- 車の場合

首都高速「豊洲IC」から約5分
晴海通り 銀座から約20分
環状二号線 新橋から約10分

- バス・電車の場合

都営バス 都05-1晴海埠頭行「ホテルマリナーズコート東京前」徒歩1分、地下鉄大江戸線「勝どき駅」A3b出口徒歩13分

駐車場 無

予約連絡先

フォワードエックス日本支社
tel.03-5547-4440



ユピーアール

DXデポ



GLP ALFALINK相模原1

コンセプト

「DXデポ」では7社の協力会社による参画のもと、サプライチェーン全体における先端DXテクノロジーを集結させ、物流業界全体が抱えるさまざまな課題の解決に直結する23種のソリューションを体系的にわかりやすく示している。

これらのソリューションにより「省人化・省力化」「生産性・管理品質の向上」「ペーパーレス化」などを推進することで、2024年問題などの物流クライシス対策・ホワイト物流実現に貢献する。

所在地

〒252-0244 神奈川県相模原市中央区
田名字赤坂 3700-1
GLP ALFALINK相模原1 5階

主要展示品

- レンタルパレット
- X-Rentalオープンプラットフォーム
- パレット等紛失保証制度
- RenRen
- パレットファインダー
- マテハンファインダー
- トラック荷物の積載率測定
- アクティブRFIDタグ&リーダー
- DXタグ
- なんつい
- ワールドキーパー
- みえーど
- パレット・カゴ車と荷物の紐付け
- UスマホKENPIN
- カゴ車荷物の積載率測定
- ToFカメラによる在庫管理システム
- ロケーション管理システム(ラックの荷物)
- ロケーション管理システム(平置き荷物)
- 荷物種別に応じたAGV自動搬送

- t-Sort [プラスオートメーション株式会社]
- SLAM式キーカート [シーオス株式会社]
- アシストスーツ
- uprバイオマスパレット
- *実機デモ可能 (一部対象外)

ショールームの面積

約850㎡

開設

2022年9月

予約の有無

事前予約制

アクセス

- JR横浜線・JR相模原線・京王線「橋本」駅からバス

駐車場 有

予約連絡先

こちらからお申込みください

<https://www.upr-net.co.jp/dxdepo/>



ToFカメラによる在庫管理システム



パレットファインダー

物流を革新する システム・製品群

LOGGB
LOGISTICS GUIDEBOOK

① SCM／経営の革新

- ① SCM
- ② 経営支援
- ③ 人材開発

② 物流センターソリューション

- ① マネジメント・制御系
- ② 実行系

③ 輸配送ソリューション

- ① 運行計画・管理・支援
- ② 求荷求車

④ 物流支援サービス

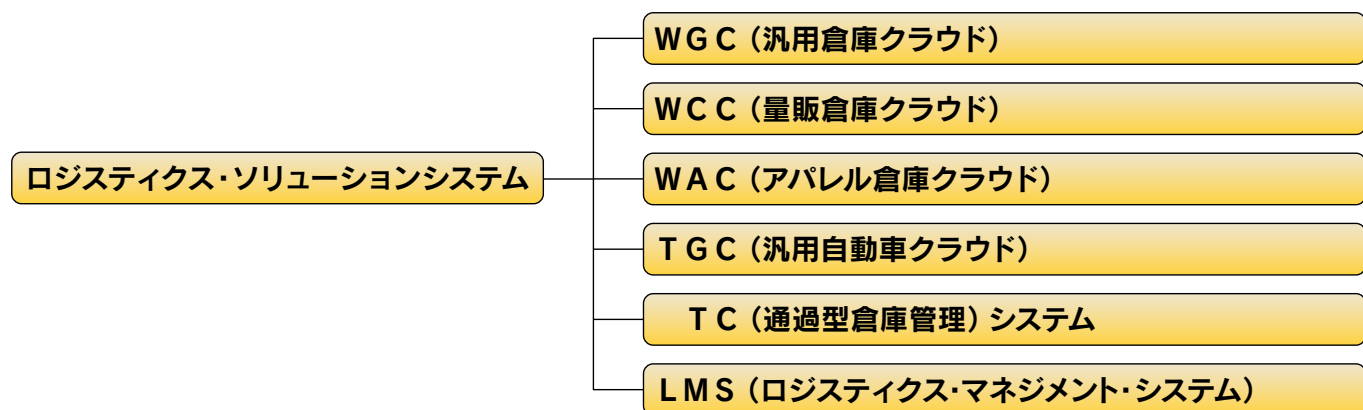
- ① パレット・コンテナ
- ② 車両・フォークリフトなど
- ③ モーダルシフト

⑤ ESG／BCP／物流不動産

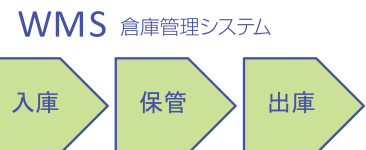
ロジスティクス・ソリューションシステム

センコーの「物流システム」は、メーカー様から卸売業、小売業、最終消費者の皆様までのサプライチェーン全体を統合管理する、情報と物流を一体化した「ITソリューションシステム」です。

あらゆる業種のお客様向けに対応した物流受託システムとして、「より早く、ローコスト」な物流ソリューションを実現し、お客様のSCM（サプライチェーンマネジメント）構築を強力にサポートします。



当社のWMS（倉庫管理システム）は
お客様の業態・商品特性に合わせて
3つのクラウド型WMSを提供しています



● 汎用倉庫クラウド（WGC） Warehouse General Cloud

WGCは、住宅・建材業界、化学製品などのケミカル業界のお客様の物流管理を行う物流センターに幅広く導入しています。



ケミカル・住宅・医療系・その他一般
センコーの一般／汎用倉庫に幅広く適用



Point

- 海外対応（米／中）
- 広域荷主（複数拠点）対応

● 量販倉庫クラウド（WCC） Warehouse Chainstore Cloud

WCCは、総合スーパー・ドラッグストア・ホームセンターなどの流通業界のお客様の物流管理を行う物流センターに幅広く導入しています。



ロジスティクス営業系
ホームセンター・ドラッグストア・家電
量販店などチェーンストア系倉庫に適用



Point

- 量販系中小規模向け（大規模は個別）
- TCシステム／マテハン連動
- JAN 検品／店舗配分／在庫補充 など

● アパレル倉庫クラウド（WAC） Warehouse Apparel Cloud

WACは、ファッション、アパレルなどの流通業界のお客様の物流管理を行う物流センターに幅広く導入しています。



ファッション・アパレル物流系
衣料・靴・バッグなどアパレル系・
通販（BtoC）の倉庫に適用



Point

- 通販物流機能（B to C）
- 百貨店向けEDI／納品代行連携
- 品番／色／サイズ／体型管理 など

ロジスティクス・ソリューションシステム

● 汎用自動車クラウド（TGC） Transfer General Cloud

TGCは、3つのクラウド型WMSと連携し、倉庫出荷された荷物を最適な車両に積み込み、配送を決定し、支援します。



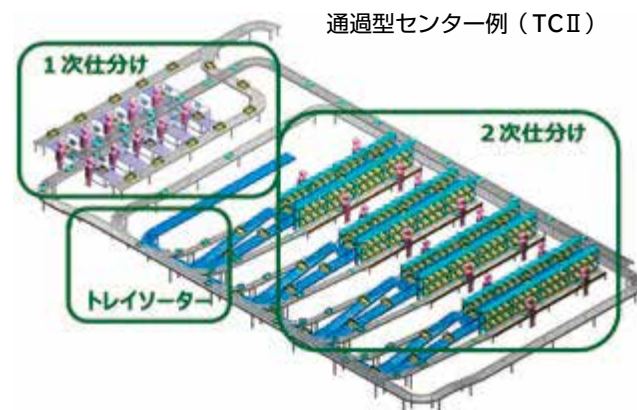
● TC（通過型倉庫管理）システム Transfer Center system

TCシステムは、通過型倉庫での入荷・仕分け・出荷業務に対応したシステム。センコーでは、そこに独自の付加価値をプラスして提供しています。



センコー独自の付加価値をプラス！

- 業態管理：作業進捗／人員動態／応受援
- 決算連動：精算支援／戦略会計連動
- ビッグデータ：KPI／生産性評価



● ロジスティクス・マネジメント・システム（LMS） Logistics Management System

荷主・3PL業者様から物流業者様まで皆様に活用いただける、自社物流システムの領域を超えたシステムを提供します。



● 「物流バス」予約システム

「物流バス」とは、路線バスのように、誰でも気軽に利用できる社会的物流インフラとしての使命を果たし、お客様のニーズに合わせた輸送インフラをご提案。

海・陸・鉄道を複合した多彩な輸送チャネルで物流課題を解決します。また、物流バスを利用した長距離輸送でのCO₂排出削減量・省人化時間を可視化します。



1. 輸送サービス詳細

サービス名	持込日	乗船日	配達日	料金	省人化時間	CO ₂ 排出量	CO ₂ 排出削減量	CO ₂ 削減率
九州→関東 海上 1.0トン陸送車代行輸送	2022/05/25	2022/05/25	2022/05/27	¥135,000	20時間	312.8kg	648.5kg-CO ₂	67.5%

「物流バス」予約システム登録画面

物流業務の煩雑なデータを集約、運用状況を可視化し物流業務の管理・分析業務を支援。

LOGINECT® データ可視化は、物流業務において発生する倉庫在庫や出荷実績、輸送車の積載量などの様々なデータを集約し、可視化することが可能なサービスです。本サービスを利用することで、在庫や輸送の状況が可視化され、物流業務における課題解決策の検討が迅速に行えます。また、国や業界団体が設定している50種類以上のKPIを管理できるアプリケーションを搭載し、データレイアウトやダッシュボードを標準化しているため、初期の導入コストを抑え、かつ自社の物流状況の分析開始までにかかるスピードを短縮します。

物流コスト削減や、 業務効率化に取り組みたいけど、 どこに問題があるのかわからない！

どの運用を見直したらいいかわからない！

データ準備に時間を要し、分析に時間が使えない！

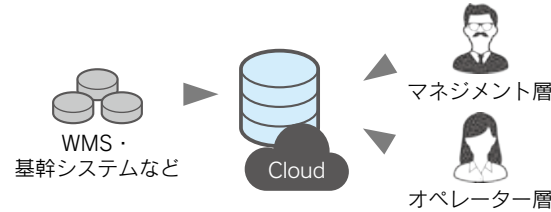
必要なデータにアクセスできない！



そのお悩み、
見える化による物流業務支援サービス
『LOGINECT®データ可視化』で解決できます！

見たいデータへすぐにアクセス

データを一元化し資源として活用できる環境を提供



物流の運用状況を理解

物流KPIを分かりやすいUIで可視化



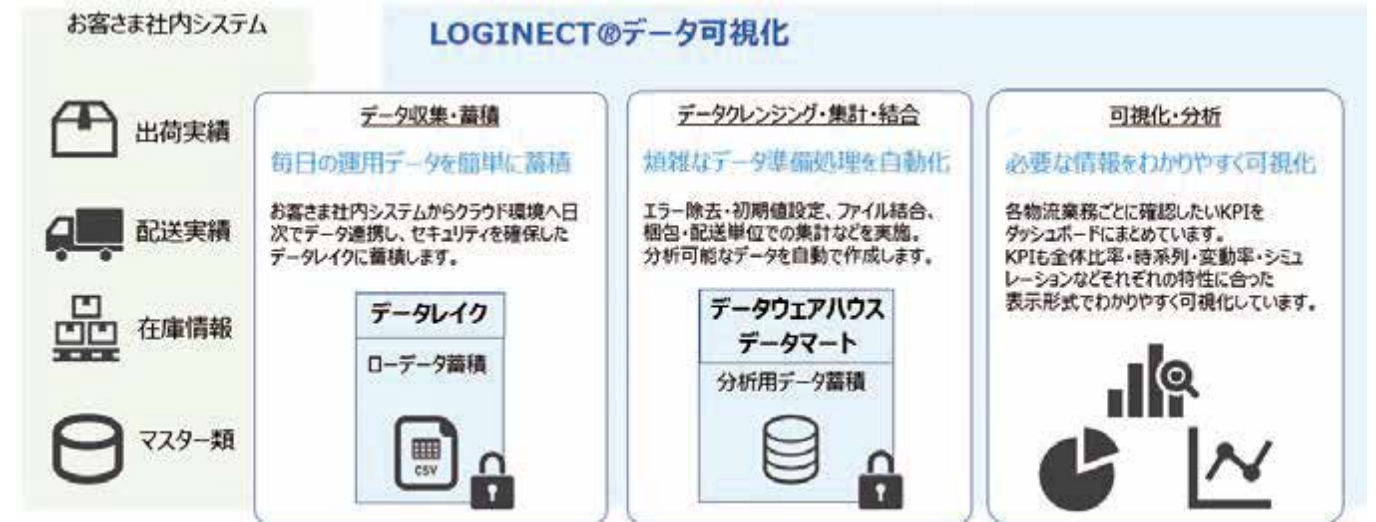
すぐに問題箇所を特定し、施策の検討が可能

◎特徴

- データ準備の自動化と一元管理**
 煩雑なデータ準備（変換、蓄積、集計）作業を自動化し、分析作業を効率化
 また複数の組織やチームが、同一データにアクセスし議論できます
- わかりやすく豊富な物流KPI**
 業界団体の推奨指標をベースとしTOPPAN独自のノウハウを活かして、業務に合わせた豊富な物流KPIを適切な形式で表示
- 低い導入コスト**
 データレイアウトとダッシュボードを標準化し、初期コストを抑えることができます
 またSaaS型サービスのためインフラ保守費用が不要です

システム処理フロー

お客様のシステムからのデータ連携から、分析用データ作成・可視化までを自動処理



ダッシュボード画面



- ユーザーの担当職務ごとに物流KPIを切り替えて表示できます
- ドリルダウン機能を用いて詳細な内訳データを確認できます
- フィルタ機能を用いて多様な条件でデータを確認できます
- その他多くの機能をご用意しております
詳細はお問い合わせください

可視化する物流データ

経営層マネージャー用

物流コスト（業務別）
出荷ボリューム（梱包・ケース・ピース別）
CO₂排出量・シミュレーション など
導入効果 … 全体最適化、CO₂削減



出荷担当者用

出荷トレンド
梱包状況
出荷関連コスト など
導入効果 … 出荷効率向上



在庫担当者用

保管効率
在庫回転率
保管関連コスト など
導入効果 … 保管効率向上



輸配送担当者用

積載率
納品先待機時間
配送関連コスト など
導入効果 … 配送効率向上



LTSは“モノ”を販売するものではありません。
また従来型のコンサルティングと一線を画しています。
お客様との対話に力点を置くとともに、課題をあぶり出し、
具体的に「解決」することを重視しています。

DXに取り組みたい のだけど・・・

- Solution**
IoT技術をベースとした物流容器管理サービス
- 集中監視センターによる双方向の個体管理サービス
 - 物流品質・効率を改善する物流容器の製造販売
 - 物流容器の全国補修サービス
 - 物流容器のサブスクリプションサービス

#自動化 #省人化 #デジタル化

カーボンニュートラル にも取り組まないかと・・・

- Solution**
エネルギーの原単位を削減
- 化石燃料から低炭素燃料への転換
 - 生物資源を原料とした燃料の導入
 - 太陽光発電システムの導入
 - 高効率機器やLED照明への入替

#非化石燃料 #バイオ燃料 #燃料転換

減らして

自社のCO₂を把握 したいけど・・・

- Solution**
まずはCO₂排出量を算出
- エネルギー使用状況の現地確認
 - 現状分析と改善策のご提案
 - エネルギー管理システムの導入
 - 各種補助金の活用

#エネルギーの見える化 #新エネルギーの導入

知って

コア事業に資源を 集中するには？

- Solution**
サービスパーツ アウトソース業務
- 物量分析、自動化マテハン選定・設置工事
 - WMSを活用したサービスパーツの入出荷在庫オペレーション
 - 梱包および国内外発送業務
 - 海外供給向け貿易代行業務

#アウトソーシング #コアコンピタンス #オペレーション改善

カーボンオフセット ってなに？

- Solution**
クレジットや環境価値を用いてCO₂排出削減を実現
- J-クレジット制度の活用
 - 創出方法が多様なボランタリークレジット
 - 国際イニシアティブにも適合する非化石証書

#環境価値 #ボランタリークレジット #国際イニシアティブ

オフセット

災害時に重要業務を 継続できるだろうか・・・？

- Solution**
非常用発電設備工事
- 災害時を想定し、限られた電力の配分比率を計画
 - 最適な燃料選定と非常用発電設備提案
 - BCPを支えるBCMのサポート（メンテナンスと燃料補給ネットワーク）
 - リスクコントロールに応じたリスクファイナンス提案

#BCM #事業継続 #減災



企業・社会を
取り巻く
重要課題

お問い合わせ先
NX商事株式会社
営業本部 LTSチーム
TEL:03-6734-8075
MAIL: nxs-lts@nipponexpress.com
月～金 9:00～17:30
(土・日・祝日・年末年始を除く)



https://www.nx-shoji.com/service/logistics_total_solution/

NX商事 LTS 検索

NXグループが提供する、GMO インターネットグループと共同開発した電子契約・契約管理システム WAN-Sign



セキュリティ機能 標準装備！ 電子契約サービスを選ぶなら、「WAN-Sign」

初期費用無料、ユーザーID数無制限、基本サポート無料！
「WAN-Sign」のリーズナブルな料金プラン

初期費用0円		ユーザーID無制限		基本サポート無料	
当事者型 【実印版】締結料*	3件/月まで無料	締結1件ごと ¥300	オプション 書類電子化代行サービス 全件電子化 ¥75,000~/箱 文書受入作業、全件電子化作業が含まれます オンデマンド電子化 ¥30,000~/箱 +電子化依頼¥1,000/件 文書受入作業が含まれます システム連携 API連携/SAML連携別途お見積	PDFが添付された 文書電子データ管理料	累計10件/月まで無料
立会人型・事業者署名型 【認印版】送信料	10件/月まで無料	送信1件ごと ¥100			累計10件/月まで無料
PDFが添付された 文書電子データ管理料	累計10件/月まで無料	5,000件ごと ¥10,000/月 データ容量プランもご用意**			累計10件/月まで無料

*1 実印版のご利用には、無料プラン・有料プランともに電子証明書の発行が必要です (1署名者につき ¥8,000/年)
*2 電子データ管理料は件数プランから容量プランへ変更も可能です (200GBまで月額3万円 以降100GBごと月額1万円)

◎導入・活用事例

- 物流業界、上場企業、金融機関、地方公共団体を中心に導入を拡大
- 日本通運も、2021年4月より電子契約サービスを国内の総合物流業界として初めて全社規模で導入
- 物流業界では日本郵便、JR貨物鉄道、東急電鉄、南海電鉄、センコン物流をはじめ多くの企業で利用されている

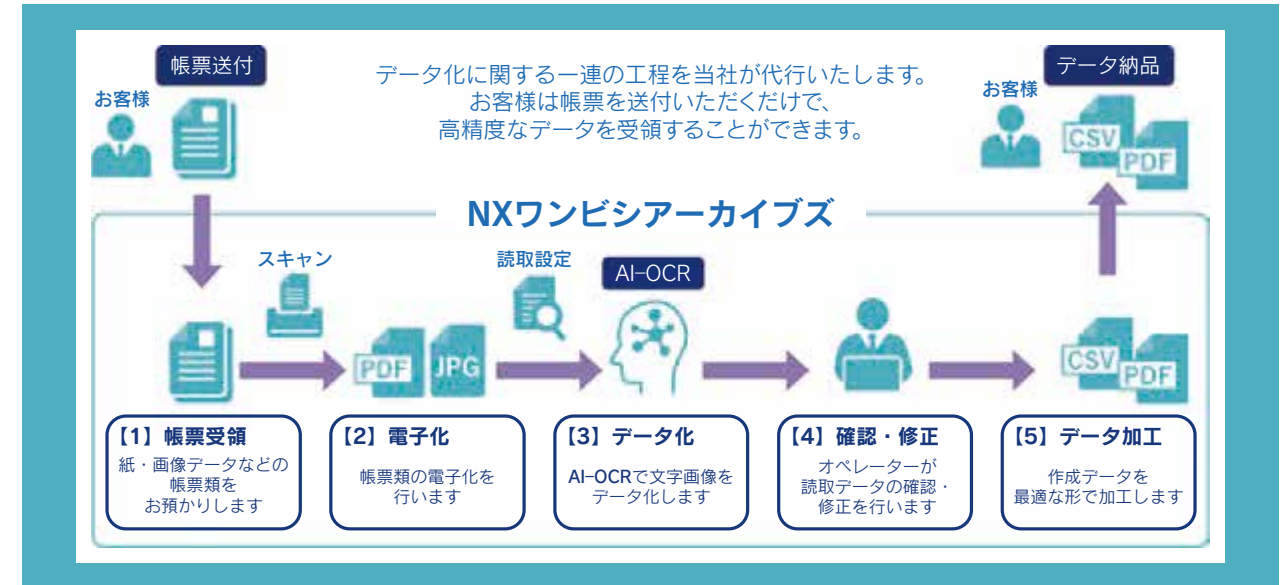
AI-OCR を活用し、手書き帳票も含めてデータ化
お客様のデータエントリーに関する業務の効率化をサポート

AI-OCR×BPO

NXワンビシアーカイブズの「AI-OCR×BPO」サービスは、「AI-OCR」技術とBPOを組み合わせることで、お客様のデータ化業務をサポートします。

紙書類の受領、電子化、PDFからテキスト情報を抽出して転記、システム登録まで、プロセス全体をアウトソーシングいただけます。

◎サービスの流れ



豊富なプロセス設計ノウハウ

顧客ニーズをヒアリング、豊富なBPO実績・ノウハウを活かし、複数のツールから最適なものを選択し業務プロセスを設計

人的リソースでツールの補完

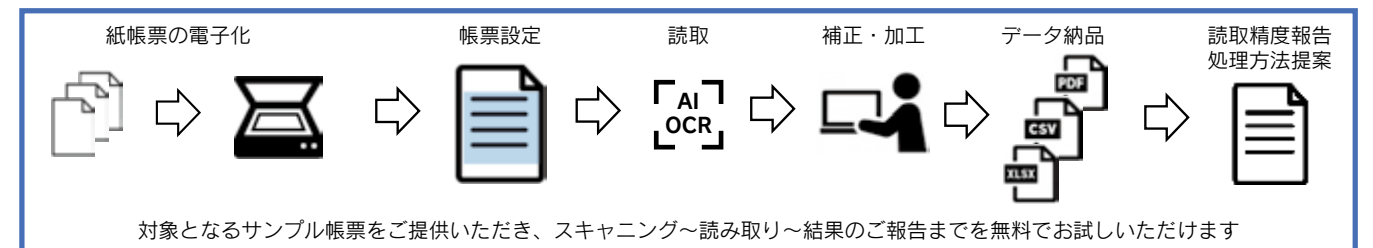
OCR処理結果の補正作業をオペレーターが実施するなど、人の作業を組み合わせることで難易度の高い非定型帳票もデータ化

プロセス全体をトータルでアウトソーシング可能

紙帳票の受領、仕分けや電子化、データ化した帳票の紙・データの保管など後工程も合わせた一連の作業を受託可能

◎無料トライアルによる事前サポート

お客様の帳票をAI-OCRツールを用いて実際に読み取り、読み取り精度を検証するとともにデータ化から納品までの処理方法を提案いたします。まずは、無料トライアルをお試しください。https://www.wanbishi.co.jp/ai-ocr/web サイトから受け付けております。



IoT時代の作業時間計測ツール ろじたん

◎概要

スマホやタブレットアプリ（Android）とWebの連携により、作業時間を計測するツールです。作業スタッフが、作業中にスマホやタブレットに表示されるボタンをタップするだけで、作業履歴を蓄積できます。取得データはWeb上で一括管理が可能です。分析ツールを使って、簡単に集計グラフを出力することができます。

◎特徴

準備がかんたん

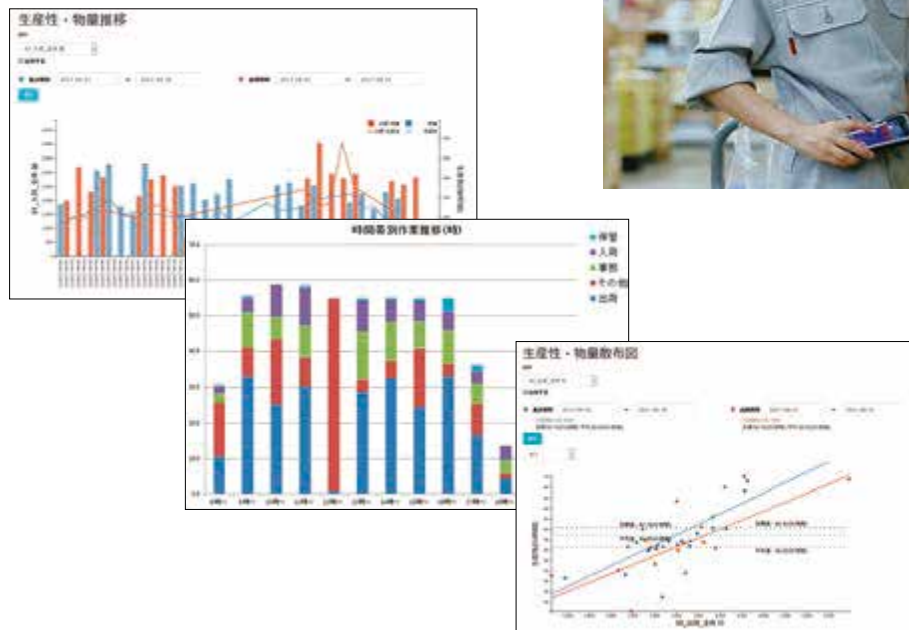
必要機材は全てレンタルなので、端末の購入などの初期費用は一切不要です。
(お申し込みから通常約3週間で測定開始できます。)

計測がかんたん

スマホは、作業計測の合図の際にスマホを1回タップするだけ。タブレットは、ICカードやQRコードで認証してタップするだけ。簡単で、作業の邪魔にもなりません。

分析がかんたん

送信されたデータはウェブ管理システムに蓄積。紙のデータをエクセルに打ち込む必要はありません。



◎利用料金

計測する人数、期間によって異なります。ご相談時に詳細を伺いお見積りいたします。

- ケース①：10名90日間…86,600円（税別）
- ケース②：30名1年間…652,850円（税別）



LINEを使ったドライバー運行管理ツール どらたん

◎概要

ドライバーの手持ちのスマートフォンとLINEアプリを利用し、ドライバーが対話形式で運行状況を記録します。「かんたんに」「スグに」「低コストで」をコンセプトとした、手軽な費用で簡単に導入できる仕組みです。



◎特徴

LINEで手軽に操作

LINEを操作する感覚で手軽に操作、簡単に入力・送信ができます。

作業内容や場所、数量を記録

ボタンをタップするだけで、ドライバーの作業内容や場所、作業に伴う数量を記録できます。

運転日報の手書きが不要

運転日報は、入力したデータで自動作成するため、手書きが不要になります。

集配先別の待ち時間がわかる

集配先別の待ち時間、荷役時間、附帯作業時間などが把握できます。

ドライバーの働き方を見直せる

収集した作業時間は、月単位で集計し、ドライバーの働き方の見直しに役立てることができます。

Webでリアルタイム情報把握

ドライバーが入力した作業内容・場所は、事業所のWebで即座に把握。電話連絡が不要に。ドライバー別に運行状況の照会も可能です。

◎機能

ボタンタップするだけで簡単に記録



記録データはパソコンで確認できる 運転日報も自動で作成



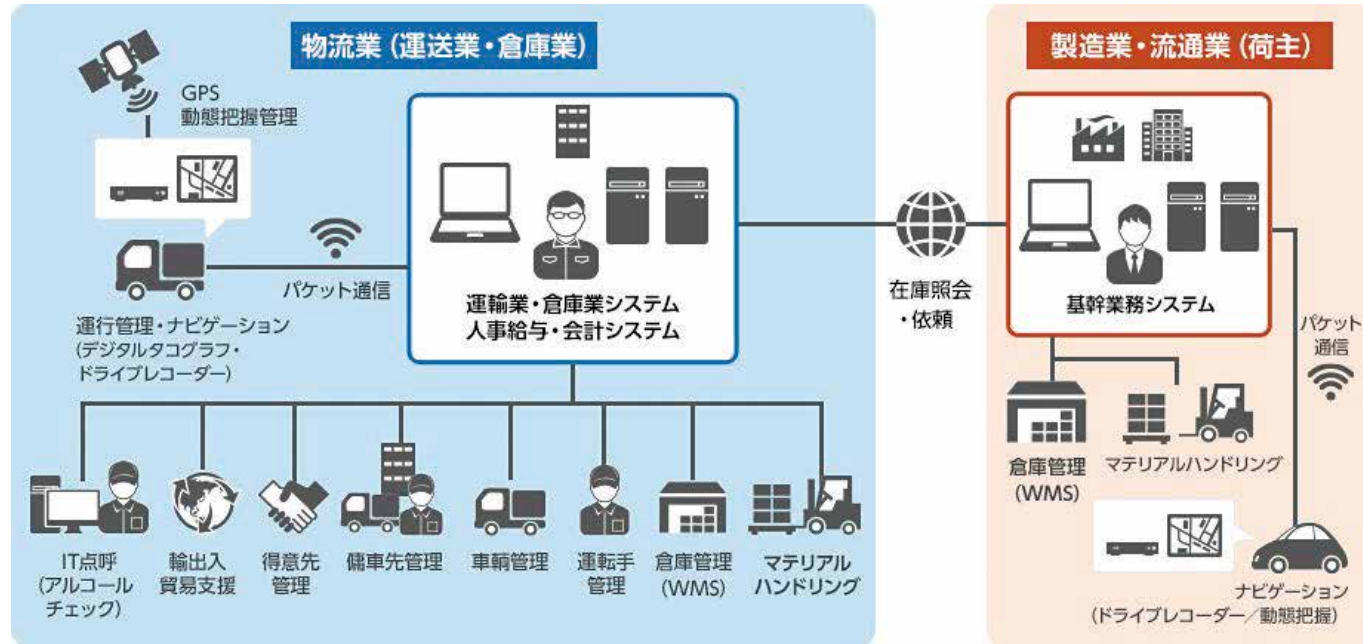
◎利用料金

- ①月額基本料金：5,000円（税別）
- ②月額利用者料金：500円（税別）×利用者数（LINEを利用するドライバーの人数）
- ①と②の合計が利用料です。※ご契約は6か月単位です。



働き方改革・生産性向上のためのソリューション 大塚商会のロジスティックソリューション

大塚商会では「働き方改革への対応」と「生産性向上」「品質やサービスの向上」を実現すべく、物流業界のIT化を推進し、お客様のご予算・ご要望・環境に適したソリューションのご相談を承ります。



2019年より順次施行された働き方改革関連法について、時間外労働の上限規制の猶予・除外対象だった運輸業においても、2024年4月からいよいよ適用が開始されます。

物流業界に大きな影響を与える2024年問題。最近業界専門外の一般ニュースや記事でも多く目にするようになってきました。この問題は物流業界にとって変革の大きな局面であり、物流のDX化でこの問題を改善し、持続可能な経営を実現するチャンスでもあります。物流業界が転換期を迎えていることは明らかです。じっと待っていたら勝手に過ぎ去るものではありません。2024年は物流業界が大変革する1年です。大塚商会がお手伝いいたします。

バックオフィス関連

運輸事業者向け販売管理システム SMILE V2 トラックスター

運輸業における日報管理・請求管理から実績管理まで、一連の業務を効率化。業界の慣習に対応し、運輸業の経営管理を強力にバックアップします。



- 視覚的に分かりやすい配車処理画面
- 豊富な経営資料
- ドライバーの労務管理機能
- 管理項目の追加や自由な帳票を作成

インボイス制度・電子帳簿保存法にも対応

バックオフィス関連

配送計画支援システム ULTRAFIX 配車・バース予約サービス

『輸配送コスト削減』『輸配送品質向上』『予実管理による業務改善』が可能になります



- スピーディーな配車業務
- 配送の効率化の推進
- トラック待ち行列の解消
- バース管理の効率化

ドライバーの運行を把握

デジタルタコグラフ

「時間外労働規制」への対応には、まずドライバーの運行の把握が重要です

デジタルタコグラフ DTG7	矢崎エナジーシステム製 ネットワーク型デジタルタコグラフ
DTS シリーズ	富士通製 ネットワーク型車載ステーション

- ドライバーと運行管理者の負荷を軽減
- 通信モジュール内蔵
- ドライブレコーダー一体型
- 豊富な労務管理機能

ドライバーの就業状況を把握

就業システム

「時間外労働規制」への対応には、ドライバーの就業状況の把握も重要です

次郎	日通システム製 勤怠管理システム	勤革時	NEC製 クラウド型勤怠管理システム
----	---------------------	-----	-----------------------

倉庫業務の効率化

WMS

庫内業務に負担をかけない、効率化を図ることが可能になります

ULTRAFIX/WMS	NEC製 WMS	ORBIS-VI 倉庫管理	NSW製 WMS
--------------	-------------	---------------	-------------

その他、物流業様向けソリューションを多数ご用意しております。是非、下記をご覧ください

ERPNAVI <https://www.otsuka-shokai.co.jp/erpnavi/>

ロジスティクスソリューション：<https://www.otsuka-shokai.co.jp/erpnavi/category/transportation/>

◆コラム連載中◆運輸・配送にかかわる企業が取り組むべきDXの具体策

運輸・配送にかかわる企業へのアプリケーション導入の現場から、問題提起と解決策をお伝えします。

執筆：株式会社 AppLogi 代表取締役 廣田 幹浩氏

<https://www.otsuka-shokai.co.jp/erpnavi/topics/column/logistics-dx/>



物流企業の経営者が押さえておくべき最新時流 物流企業の時流適応戦略2024年

延べ
1万人超
が閲覧

全国330社の物流企業の経営者が集まる経営研究会で
お伝えした内容をダイジェスト版(全40ページ)にして
無料特別公開!



船井総研ロジ株式会社 コンサルティング本部
本部長 河内谷 庸高



無料公開中

物流企業の時流適応戦略

先進物流企業の成功事例
採用・DX・運賃交渉

全40ページのPDF資料

- 右記の二次元コードから申込みフォームにアクセス
- メールアドレスを入力して、フォームを送信
- ご入力いただいたメールアドレスに資料に関する詳細メールが届きます

物流企業が直面する課題・2024年に注力すべき戦略が明確になった。焦りもあるが、今後は楽しみ!こんなに公開してしまって、本当にいいんですか?

すぐに実践したい内容が盛りだくさん。もっとスピード感をもたないか。この話を聞いていなければ、完全に後れを取っていたと思う。

運賃・条件交渉、営業・マーケティング、DX・デジタル化のリアルな成功事例を知ることができるのはここだけではないでしょうか。

毎年、この会に参加してから戦略を立てています。本当はもっとはやく開催してほしいくらいです(笑)来年も期待しています!

A物流株式会社
(年商380億円)
代表取締役社長

B運輸株式会社
(年商30億円)
代表取締役社長

株式会社C運送
(年商10億円)
代表取締役社長

株式会社D物流
(年商8億円)
代表取締役社長

船井総研ロジ 資料 検索

物流業界の最新動向が無料で手に入る! 時流レポート無料ダウンロード

安定して人を増やし続ける秘訣とは?
失敗しないドライバー採用戦略を大公開
ムダな求人コストをかけずに
ドライバー採用数を3倍にする方法

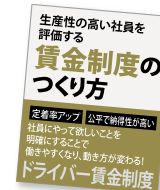


採用・定着 無料

「給与がいい」だけでは採用できない今の時代、採用媒体にお金を垂れ流しているだけでは、人は集まりません。求職者が企業に求めていることを理解し、それに対して適切なアプローチを続けることで、安定した採用が可能に。本当に効果があった採用手法をご紹介します。



労働時間だけで給与を決めない!
運送・物流企業の賃金制度構築手法
生産性の高い社員を評価する
賃金制度のつくり方

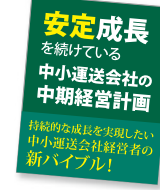


評価・賃金制度 無料

歩合給は時間給に比べて、割増賃金が少額で済むため、長時間労働になりがちな運送業が導入するメリットは非常に大きいです。一方で、労働時間を把握できていなかったり、残業代の取り決めをしないまま運用すると割増賃金の未払い訴訟につながるリスクがあります。ドライバーの新・賃金制度構築手法を



2024年問題とその先を見据えた
持続的な成長を実現する方法を解説
安定成長を続けている
運送会社の中期経営計画

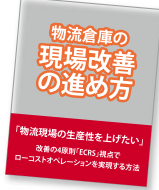


中期経営計画 無料

自社の経営計画をじっくり考える時間はどれくらいあるでしょうか。コロナ以降、これまでの常識や経営のあり方が一変しました。ぜひこのタイミングでこれからの事業計画や経営戦略を考え、持続的な成長を目指しましょう。



改善の4原則「ECRS」視点から見た
物流倉庫の現場改善事例
安定的に現場を運用するための
物流倉庫の現場改善の進め方



現場改善 無料

人員の確保が困難な環境でも安定的に現場を運営したい! 物流倉庫の現場で改善活動を行うために必要な視点や改善課題の抽出方法、現場改善による生産性向上でローコストオペレーションを実現する方法をくわしく解説。



DXによる事業変革で荷主企業や
景気に左右されない運送会社をつくる
経営効率を飛躍的にあげる
運送会社のDX・デジタル化事例集

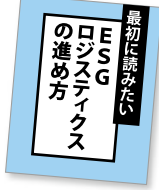


DX・デジタル化 無料

あらゆるコストが上がる予測困難な時代の中、業務体制や荷主構成を見直し、いかなる環境でも利益の出る企業体質にシフトしていく必要があります。DXを中心にどう事業を変革していくのか、持続的な成長を続けるポイントを解説。



物流業界が取り組むべき
ESG実行施策を徹底解説
ESGロジスティクスの
進め方



ESG・SDGs 無料

なぜ「ESG経営の実現」が求められるのか? 物流業界におけるESGとは、どんな取り組みがあるのか? ESGロジスティクスを実行するために今やるべきこと、物流企業に求められる役割について解説。



ドライバーの給与・雇用を維持していくために
荷主企業との交渉は不可欠です
成功率がグンとあがる!
荷主交渉資料の書き方

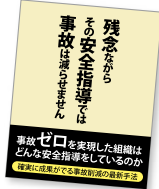


荷主交渉 無料

労働時間を削減しても、ドライバーの給与・雇用を維持していくには、運賃改定や条件改善など、荷主企業との交渉が不可欠です。荷主交渉の成功率を高める「交渉の進め方」「資料の作成方法」を実際に交渉に成功した会社の事例をもとに解説。



事故ゼロを実現した組織は
どんな安全指導をしているのか
残念ながらその安全指導では
事故は減らせません



安全・事故削減 無料

「事故発生後にドラレコ映像を確認し、今後の対策を立てている」「事故起因ドライバーを重点的に違反がないか確認している」残念ながら、その安全指導では事故は減りません。事故ゼロを実現した会社が行った事故を未然に防ぐ仕組みづくりを解説。



2024年問題	ESG・SDGs	DX・自動化	コスト削減
<p>業界動向</p> <p>物流専門のコンサルタントが最新の業界動向やコンサルティング現場での気づきをコラムやレポートにまとめて配信します。</p>	<p>成功事例</p> <p>当社が主催する研究会で共有される最新成功事例や物流先進企業の取り組みの一部を限定公開いたします。</p>	<p>セミナー情報</p> <p>物流に携わるみなさまに知っておいてほしい業界動向・改善ノウハウをお伝えする最新セミナーの情報をご案内します。</p>	

メールマガジン無料配信中!

物流専門コンサルタントならではの視点で
物流業界の最新動向や改善ノウハウをわかりやすく解説。

日本最大級の物流コンサルティング会社だからこそ配信できる最新業界動向です

いますぐ登録! QRコードから登録ください

①「船井総研ロジメルマガ」で検索
②メルマガ登録フォームから登録



詳しくはこちらからご覧ください
船井総研ロジ

トランクルームの押入れ産業

トランクルーム・レンタル収納スペース・文書保管の3事業を柱に、全国ネットワークを構築しています。

フランチャイズ加盟店大募集！！

1987年の創業以来培ってきた、トランクルーム事業のノウハウをもとに、より良いサービスをお客様へ提供したい...そのような想いで、共にトランクルーム事業に取り組んでいただけるパートナーを募集しています。まずはお気軽にお問い合わせください。



弊社歴史公開中！
ぜひご覧ください



FC加盟募集に関して
動画にまとめております



トランクルーム事業

●収納専用のコンテナを倉庫の中で保管するので安心

トランクルーム専用開発された防塵性・防カビ性の高いコンテナを倉庫の中で保管しています。コンテナは荷物に合わせて各種サイズをご用意しておりますので、大きなお荷物の保管にも便利です。倉庫は有人管理をしているのでとても安心です。



北陸

- 石川県 若松梱包運輸倉庫株式会社
- 福井県 祇王運送株式会社
- ” 株式会社アイシー物流

信越

- 新潟県 株式会社SRIロジテム
- 長野県 諏訪倉庫株式会社
- ” 倉島事業開発株式会社

関西

- 滋賀県 株式会社押入れ産業京滋
- 大阪府 浪速通運株式会社
- ” 杉浦実業株式会社
- ” 株式会社つばめ急便
- ” 摂津倉庫株式会社
- 兵庫県 シンエスサービス株式会社
- ” 和見運輸株式会社
- ” 株式会社浜田運送
- ” 寺本運輸倉庫株式会社
- ” 株式会社吉富運輸

中国

- 岡山県 株式会社日之出運輸
- ” 大永運輸倉庫株式会社
- 広島県 芸備倉庫株式会社
- ” 双葉運輸株式会社
- ” 合名会社福彦商店

四国

- 徳島県 共同港運株式会社
- 香川県 高松臨港倉庫株式会社
- 高知県 協和倉庫株式会社
- 愛媛県 大栄倉庫産業株式会社

九州

- 福岡県 株式会社博運社
- ” 福岡倉庫株式会社
- 佐賀県 鳥栖倉庫株式会社
- ” 株式会社ロジコム
- 大分県 大成倉庫株式会社
- 長崎県 株式会社村り運輸
- 熊本県 ひろせ梱包運輸株式会社
- 宮崎県 日豊輸送株式会社

東海

- 静岡県 清和海運株式会社
- ” 株式会社マリス
- ” 株式会社和泉運送
- 愛知県 東海倉庫株式会社
- ” マルハン倉庫株式会社
- ” 高浜共立運輸株式会社
- 岐阜県 岐阜倉庫運輸株式会社
- ” 多治見通運株式会社
- 三重県 生川倉庫株式会社
- ” 株式会社キャリアカーサービス

北海道

- 小樽倉庫株式会社
- 札幌三信倉庫株式会社

東北

- 青森県 日興運輸株式会社
- 秋田県 秋印株式会社
- 岩手県 株式会社イワベニ
- ” 徳清倉庫株式会社
- 山形県 株式会社エコー
- ” ベア・ロジコム株式会社
- 宮城県 東邦運輸倉庫株式会社
- ” 株式会社白石倉庫
- ” 株式会社丸山運送
- ” 株式会社大昇物流
- ” 有限会社富樫運輸
- 福島県 東日本倉庫株式会社
- ” 桑折商事倉庫株式会社
- ” 株式会社大善
- ” 丸力運送株式会社
- ” 大竹運送株式会社

関東

- 茨城県 ミヤト倉庫株式会社
- ” 前山倉庫株式会社
- 群馬県 上毛倉庫株式会社
- ” 関東エアーカーゴ株式会社
- 埼玉県 野口倉庫株式会社
- 東京都 株式会社タイワコーポレーション
- ” 多田製粉株式会社
- ” 東海運輸株式会社
- ” 結城運輸倉庫株式会社
- ” 共進倉庫株式会社
- ” 武蔵野運送株式会社
- ” 日塩株式会社
- ” 京北倉庫株式会社
- ” 西多摩運送株式会社
- ” 岩立運送株式会社
- ” SE僚和有限公司
- ” 株式会社フカサワ
- 東京都 志水倉庫株式会社
- ” 三信倉庫株式会社
- ” 日本流通倉庫株式会社
- ” 安田開発株式会社
- ” 永和不動産株式会社
- ” 帝都自動車交通株式会社
- ” 株式会社カクセイ
- ” 有限会社オリエンタルランド
- ” JR西日本プロパティーズ株式会社
- ” 株式会社マイダス
- ” 八大株式会社
- ” 株式会社越前興業
- 神奈川県 湘南倉庫運送株式会社
- ” 日本埠頭倉庫株式会社
- ” 合資会社あいざわ
- ” 株式会社久保寺商店

文書保管事業

●オフィスにある書類や医療情報を保管から廃棄まで、トータルでサポート
押入れ産業では、全国15か所の倉庫でISO27001 (ISMS) の認証取得し、お客様の大切な情報を安心・安全にお預かりしております。また、文書(書類)の集配～保管～廃棄まで文書のライフサイクルをトータル管理できる「WEBオーダーシステム」をご提供しておりますので、必要な情報をシステム上で簡単に管理することが可能です。



レンタル収納スペース

●自宅のクローゼットのように自由に使えるレンタル収納スペース
好きな時に出し入れでき、セキュリティや空調を完備した明るく清潔で安全にご利用いただける収納空間です。お客様のニーズに応えるさまざまな大きさのお部屋をご用意いたしました。



お問い合わせはこちらまで！

フリーダイヤル **0120-372-110** みんなのもつ ひやくとーばん



HP <https://www.oshiire.co.jp>
Mail info@oshiire.co.jp

押入れ産業 🔍検索

受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝・年末年始・夏期休業期間を除く)

加速する物流にトータルコーディネートでお応えします

NXキャリアロードの人材ソリューション

NXキャリアロード株式会社は、「業務請負」「人材派遣」「人材紹介」「外国人材」「シニア人材」「事務請負」より、お客様に最適なサービスを「トータルコーディネート」させて頂く、NIPPON EXPRESS ホールディングスグループの総合人材サービス企業です。

業務請負サービス

物流アウトソーシングで
コスト削減・品質向上

お客様の業務改善
を実現します！

人材派遣サービス

多くのお客様にご愛顧を
いただき、実稼働数は

1名から100名体制
に至るまで派遣
提案が可能です！

人材紹介サービス

仕事探しと人材探し

ベストマッチング
をサポート！

外国人材サービス

雇用実績を生かし、紹介・
受入れから定着まで

外国人材サービスを
ワンストップで
ご提供します！

シニア人材サービス

即戦力正社員採用に貢献する
のがシニア人材サービス

お客様のニーズに
合わせてご紹介！

事務請負サービス

ルーティン業務を私たちに
任せてみませんか？

お客様の業務改善
を実現します！

トータルコーディネートサービス

全国のネットワークからダイレクトにご返答&アドバイス
7つのサービスのメリットを最大化した提案をいたします

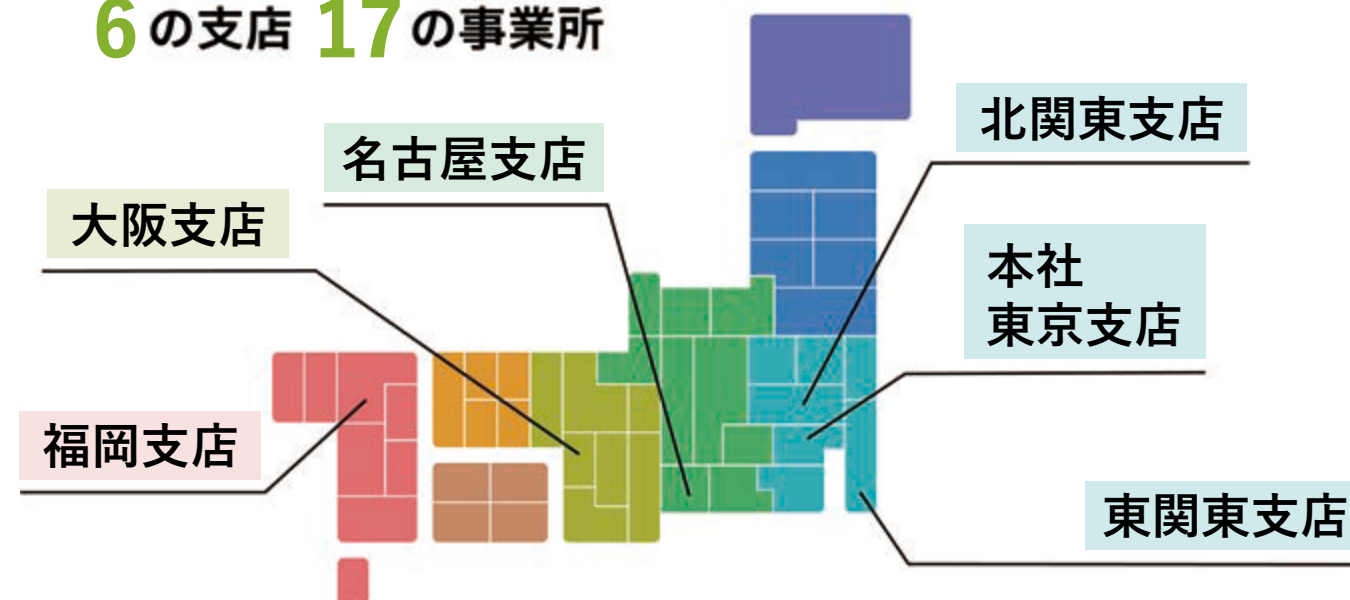
お客様の悩みをNXキャリアロードが解決！

EC通販ビジネスの構内作業の物流アウトソーシングをはじめ、人材派遣、職業紹介、外国人材、シニア人材を駆使し、お客様のニーズにお応えします。人材にお困りの企業と働くスタッフの双方に最適な環境を構築する「人と仕事を結ぶ会社」、それがNXキャリアロード株式会社です。



人と仕事を **結ぶ** 会社

6の支店 17の事業所



NEX NIPPON EXPRESS | NXキャリアロード株式会社

Asset@Hyway

安価にご利用頂ける物品貸出管理サービス「Asset@Hyway」はクラウドサービスのため、環境構築やインストール作業不要で使い始めることが可能です。また、登録した物品の貸出、返却の予約、ガントチャートでの貸出状態の確認を行うことができます。



安価に！ すぐに！

シンプルに！

複数拠点でも使える！

クラウド型物品管理ソリューション

- 物品（資産）登録
- 台帳管理
- 物品貸出予約
- 予約・督促メール
- ラベル発行
- 貸出・返却・棚卸（ハンディ）



シノジャングループ
株式会社ハイウェイテックジャパン

Hyway Technology (Japan) Corp.
<https://www.snjp.co.jp>

ハイウェイテックジャパン

当社は「@Hyway®」の開発メーカーです。

長年の物流業界の経験とお客様の声から、この度自社クラウドサービスとして物品管理サービス「Asset@Hyway」を開発・リリースしました。

クラウド型物品管理ソリューション

Asset@Hyway は、社内物品（資産）の情報を個体ごとに登録し、購入から物品登録・予約・貸出・返却・破棄までのライフサイクルに合わせた管理ができるクラウド型のソリューションです。

シンプルで直感的に使用でき、安価な点が特徴です。

また、QRコードラベルやRFIDタグによる入出庫と棚卸に対応しており、ヒューマンエラーを無くし作業負担を軽減できます。

◎機能

<p>物品（資産）登録 面倒な設定は不要で、簡単にすぐに登録できます。</p>	<p>台帳管理 カテゴリ、部署など関連付け、画像を確認しての管理が行えます。</p>
<p>物品貸出予約 まとめて登録、予約状況をガントチャートで確認できます。</p>	<p>貸出・返却・棚卸 ハンディーターミナル、スマートフォンを物品管理に活用できます。</p>
<p>予約・督促メール 予約メール、返却の督促メールを送信します。</p>	<p>ラベル発行 モバイルプリンタからシールを発行します。</p>

◎画面イメージ

WEB画面イメージ



HT画面イメージ



超高密度パレット自動倉庫 シャトルラック D³

シャトル台車式自動倉庫で、大ロット品の高密度保管と自動化を推進

シャトルラック D³ (ディースリー) は、パレット単位での超高密度保管を実現したディープストレージ型自動倉庫。食品・飲料メーカー倉庫、化成製品メーカー倉庫、大量輸入品の物流センターなど、従来は平置きや直積みしていた大ロットの製品や原料の効率保管に最適です。

入出庫の自動化により、商品を探し回ったり荷繰りする作業が不要となるため、フォークリフト作業を大幅に削減できます。これにより、作業場の労働環境が向上するほか、人手不足対策としても効果的です。

システム構成

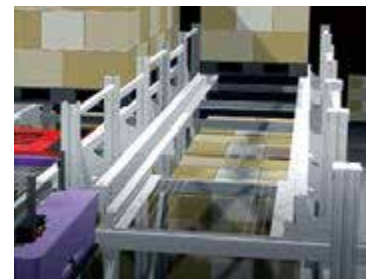
D³ システムは、入出庫コンベヤ、垂直リフター、各段に親子各1台のシャトル、保管レーンで構成され、1レーンにつき1ロットを保管します。シャトルへの通信は専用の無線 LAN を用い、制御 PC、親台車、子台車の相互間でリアルタイムに連携を取りながらスムーズに入出庫作業を行います。子台車はリチウムイオンバッテリーを搭載しており、残容量に応じ親台車上で自動充電します。



入出庫コンベヤ+垂直搬送リフター



親子台車

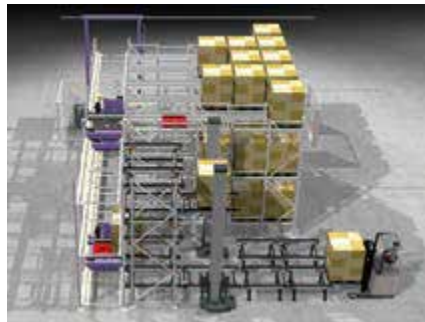


保管レーン

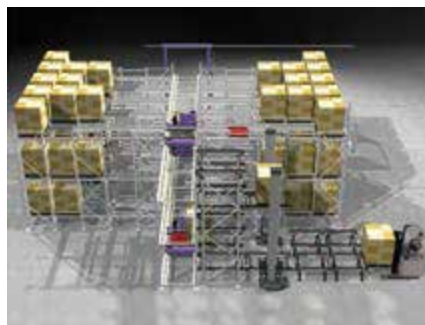
バリエーション

入出庫ステーションは、倉庫の形状・導線に合わせて柔軟にレイアウトができます。また、必要とする保管量や処理能力に応じ、ラックの高層化や走行レーン両側にラックを配置したシステムも構築が可能です。

FILO モデル (先入れ後出しモデル)



FILO 片側：台車走行レーンの片側にのみ保管レーンを配置する基本のレイアウト。



FILO 両側：台車が左右どちらの保管レーンにもアクセスする構成

FIFO モデル (先入れ先出しモデル)

保管棚の左右に台車通路を設けることで、生産ラインから入庫した荷物を、出荷バースへ FIFO 順に出庫することも可能です。生産ライン側に在庫専用コンベヤ・リフターも設置することで、サンプリングテストのための出庫や仕掛品 (WIP) を生産側へ戻すことも可能です。



納入実績 No.1 ダイフクのパレット自動倉庫 コンパクトシステム

パレット単位で製品や部品を保管するユニット式自動倉庫。既設建屋にも簡単に設置でき、製品倉庫や生産ラインサイドの一時保管システムとして、最新の FA 工場から倉庫・物流センター、また、仕様も冷凍・防爆仕様まで、あらゆる分野・環境で信頼性の高いシステムを構築できます。

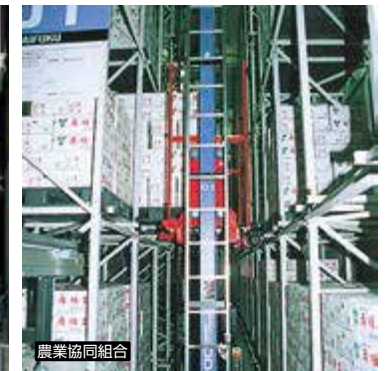
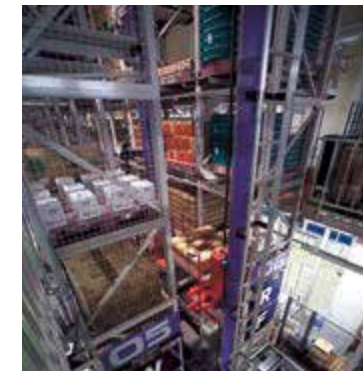
●基本仕様

荷姿	850~1500W×850~1500L(mm)
積載質量	Max.3000kg(パレット質量含む)
走行速度	80~200m / min.(インバータ制御)
昇降速度	10~50m / min.(インバータ制御)
フォーク速度	20~80m / min.(インバータ制御)
一次側電力	三相AC200 / 220V(50/60Hz) 5~26KVA

入出庫・在庫管理も簡単、“優れた操作性”を実現

誰でも簡単に操作ができ、入出庫・在庫管理も簡単。コンピュータとの連携まで、常にお客様指向で対応します。

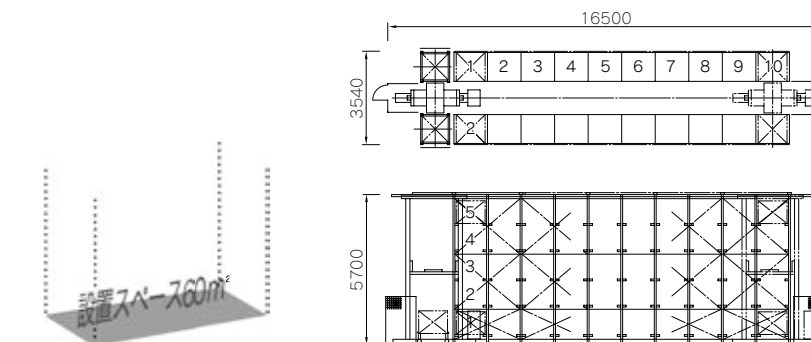
コンパクトシステム®



容易に導入できるコンパクトシステム 100パレットモデル

わずかなスペースで設置可能な在庫管理コンピュータ付き自動倉庫

「コンパクトシステム 100パレットモデル」は、自動倉庫の運用に便利な在庫管理コンピュータをパッケージ化。設置スペースもわずか 60m²程度なので、限られた空間でも容易に設置できます。



●基本仕様

荷姿	最大荷姿寸法	1100W × 1100L × 850H
	最大積載質量	1000kg / パレット
	平均積載質量	800kg / パレット
ラック	規模	2バンク × 10ベイ × 5レベル
	格納数	100/パレット

正確、高能力仕分けを実現する ダイフクの高速仕分け装置

サーフィンソーター

リードタイムの短縮がいつそう進む中、仕分けシステムにはさらなる高速化・高機能が求められています。サーフィンソーターは、一歩進んだスピードと正確さで、流通業、運輸・倉庫業などにおける次代の多品種高速配送を強力に支援します。



超高速・高能力

最高速度145m/分。10000個/時もの仕分け能力を備えています。

多様な荷姿に対応

アルミフラット採用により、不定形品・長尺ものなど、あらゆる荷姿に対応します。

●基本仕様

仕分け方式	スライドシュー方式
仕分け能力	10000個(荷物長さ450mm時の機械能力)
荷姿	100~700W × 230~1800L × 30~900L(mm)
機長	Max.150m
機幅	1450mm(最大荷物幅700mmの時) / 1250mm(最大荷物幅500mmの時)
機高	900mm以上

やさしく、確実な仕分け

ソフトタッチの水平スライドシュー方式で、荷積み心配がなく確実に仕分けします。

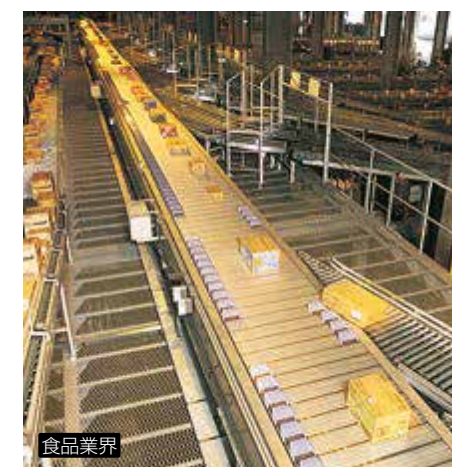
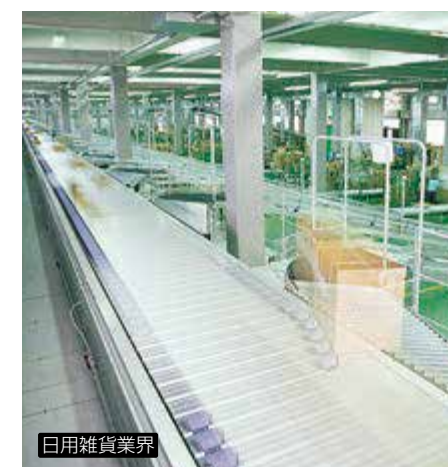
モニタリング機能

実績収集や仕分け数量の表示などで、不定形品・長尺ものなど、あらゆる荷姿に対応します。

サーフィンソーター®

豊富な経験と最新の技術から生まれた“超高速仕分けシステム”

あらゆる業界の仕分けニーズに、高いレベルでお応えします。



小物高速仕分け装置 サーフィンソーター ミニ

時間当たり最大 8000 ピースの仕分けが可能な小物高速仕分け装置。乾電池、消しゴム、アパレルフラット品など、超小物から薄物まで、あらゆる商品に対応します。

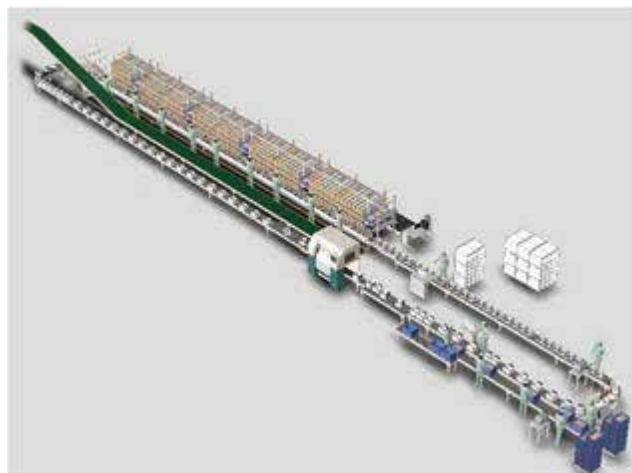


eye-navi

新開発の無線表示器により、生産性とピッキング精度が大幅に向上します。

◎特長1 ローラーコンベヤを採用 ⇒ 約15%生産性向上

- ①作業が遅れたゾーンのみコンベヤ停止、ライン生産性が大幅に向上します。
- ②集品箱を隙間なく搬送することで、ピッカー当たりのヒット率をアップさせます。



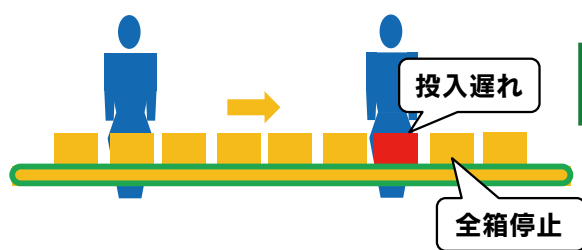
◎特長2 視認性に優れた無線表示器・集品箱一体搬送方式

- ①集品箱の中央に投入指示ランプを配置し、正確な作業を実現します。
- ②投入指示ランプを表示器下部のLEDバーに替え、さらに強調することも可能です。

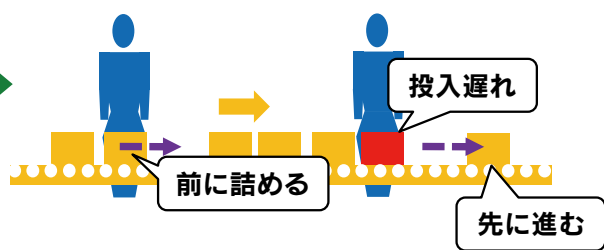
◎特長3 シンプルなコンベヤ構成でメンテナンスコスト削減

- ①従来方式の切り出し装置、集品ベルトコンベヤが不要です（ローラーコンベヤで構成）。
- ②集品箱はRFIDで位置認識を行うため、複雑なトラッキング制御が不要です。

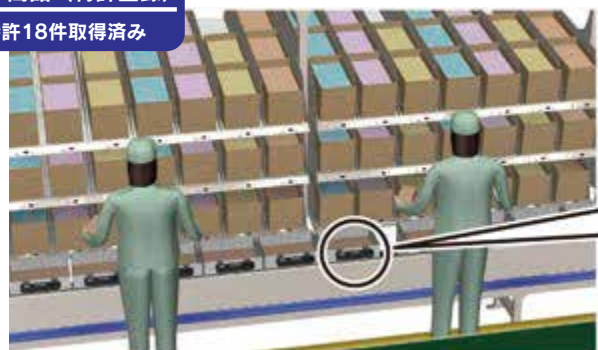
ベルコン方式



ローラー方式



Only 1 商品 (特許登録)
関連特許18件取得済み



ジャングルカート

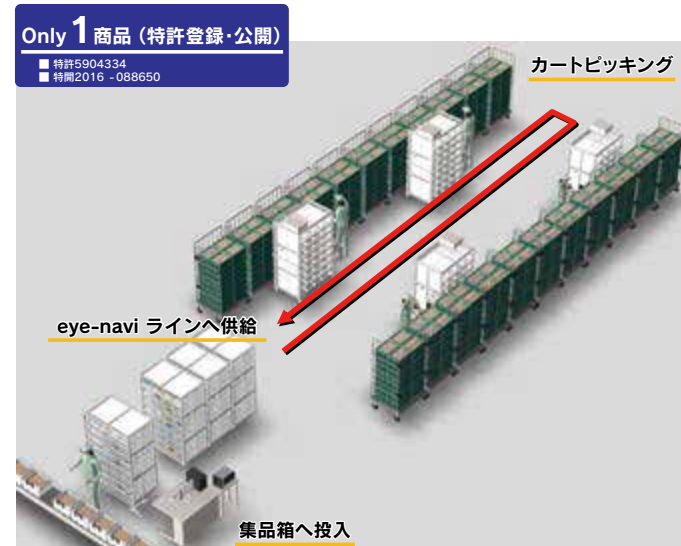
「eye-navi」の低頻度商品向けカート集品システム

◎特長1 両面マルチオーダー集約ピックで生産性向上

- ①カートは両面使用でマルチオーダーの集約ピックが可能です。
- ②マルチオーダーの集約ピックで歩行距離を削減、生産性が向上します。

◎特長2 アイテムフリー・少量多品種に対応

- ①集品間口表示器が不要なため、アイテム増に柔軟に対応可能です。
- ②1システムで複数ライン対応が可能、低頻度商品の集約ができます。



ドッキング方式



ハンディ方式



ウェアラブル方式



出荷精度向上・作業改善システム

映像検索システム

ピッキングシステムと連動し、確認したい録画シーンを一発検索

◎特長1 誤出荷防止

作業動画を確認し、出荷精度（ミスピック）と生産性（作業性）を向上

◎特長2 異物混入監視

作業エリアの動作や状況を高画質で録画し、異物混入などを追跡

◎特長3 防犯対策

作業エリアを24時間監視し、動きのあるシーンのみ録画（モーション検知）

Only 1 商品 (特許公開)
特許2015-078047



ライブ映像イメージ



映像検索イメージ

映像とデータを同時表示

TRTS

積み降ろしは自動化の時代へ、32枚のパレットを一括移載



紹介動画をご覧ください。

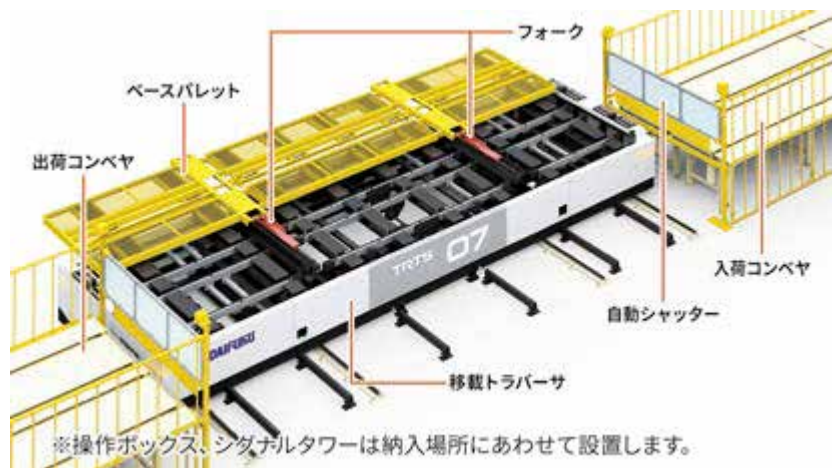
トラックのウイングを開けてからわずか10分。パレットの荷積み・荷降ろしは、ボタンの操作だけで完了します。「TRTS（トータス）」は、日本の自動車部品業界で使用されることが多いウイングボディトラック専用の装置*で、トラックの側面から一括で荷物を積み降ろしするシステムは世界初*です。フォークリフトを使わずに荷積み・荷降ろしが可能になり、ドライバーの負担を軽減。作業時間短縮、トラック台数削減が期待できます。

*トラックには、ベースパレットを載せるためにガイドレール・ストッパーなどの設置が必要。
*ダイフク調べ

TRTSの構成は、トラバサ（重量物を水平移動させる装置）、出荷コンベヤ、入荷コンベヤなど。トラックの荷台床面とほぼ同サイズのベースパレットを用いて、通い箱となる標準パレットを移載します。

10tトラック向けシステムの場合、積載荷姿は幅9,700mm×奥行き2,400mm×高さ2,500mmです。

TRTSは、独自のセンシング技術やパレット構造により、トラックに荷物を移載する際に生じる荷台の浮き沈みの問題を解決。積み荷が荷崩れしないように、ベースパレットを水平に保ちながら搬送します。



TRTSの主な構成

導入の効果

TRTSは、フォークリフト作業を不要にするとともに、積み降ろし時間を大幅に短縮することで、トラックの停車時間を短縮します。トラックの稼働率向上や、トラックの運行台数・ドライバーの人数の最適化にもつながります。

物流現場での人手不足やドライバー不足は大きな課題となっており、自動化のニーズはさらに高まると考えられます。ダイフクは、幅広い業界からの要望にお応えし、システムをご提供できるように取り組んでまいります。

導入前：フォークリフトを使った従来の積み降ろし

積み降ろし時間 40分

荷降ろし場所でトラックのウイングを開け、通い箱を積載したパレット32枚*（16枚×2段積み）をフォークリフトで降ろす。ウイングを閉じて荷積み場所に移動し、再度トラックのウイングを開けて出荷品をフォークリフトで荷積みする。トラックの到着から出発までの所要時間は40分。納入先3件に対し、トラック5台で運用していた。

*10tトラック、パレットサイズ1,100mm×1,100mmの場合。



導入後：フォークリフト作業が不要に、積み降ろし時間を大幅に短縮

積み降ろし時間 10分

トラックのウイングを開け、作業者がボタンを操作すると、TRTSがセンサでトラックの停止位置・荷台の高さを検知。トラバサがトラックの真横まで移動し、通い箱を積載したパレット32枚が載ったベースパレットをフォークで引き出し、トラバサ上に引き受け、入荷コンベヤに払い出し、荷降ろしが完了。次に、出荷コンベヤに待機していた出荷品のパレットを、入荷と逆の流れで積み込む。

積み降ろし作業が1カ所で行えるようになり、所要時間は10分に短縮。フォークリフト作業が不要になったことに加え、トラックは従来より1台減の4台で運用が可能になった。



① 入荷パレットをトラックから一括で、自動荷降ろし。



② 入荷パレットをコンベヤへ払い出した後、出荷パレットを搬入。



③ 荷降ろしと逆の動きで、自動で出荷パレットをトラックへ積み込み。

オカムラの物流システム機器

豊富なノウハウとアイテムを活かし、物流システムをトータルにサポート。ロジスティクスの合理化を追求しつづけるオカムラは、様々なお客様とともに実践を通して、つねに新しい物流システム機器を開発しご提供しています。より「早く」「正確に」「安全な」物流作業を実現し、経営メリットを生み出すための物流システム改善のご提案から、ソフトウェアの開発、機器導入、運用支援、アフターサービスまで、トータルにお手伝いいたします。

◎自動倉庫（ロータリーラック・シリーズ）



ロータリーラック V2
多用途の垂直回転棚。

ロータリーラック H（自動入出庫タイプ）
多品種・高頻度に対応する、高速入出庫タイプの水平回転棚。

◎自動倉庫（スタッカークレーン・シリーズ）



バケットスタッカー
高速スタッカークレーンを使用した、バケットタイプの立体自動倉庫。



カートンスタッカー
多様なサイズのカートンケースに対応した自動倉庫。



パレットスタッカー
パレット品の定番立体自動倉庫。

◎ロボットストレージシステム



オートストア
グリッド上のロボットが高密度に積み上げられたピン（コンテナ）の入出庫を行うロボットストレージシステム。

◎パレットストレージシステム



サイビスター
ラック内のレーンを走行し、パレットの高密度保管、入出庫の効率化を行うパレットストレージシステム。

◎搬送機器



ゼノロールコンベヤ
清潔・静か・自由自在・ユニークな駆動方法のローラーコンベヤ。



パワーロールコンベヤ
モーターローラー駆動の省エネコンベヤ。



ラピロールライトコンベヤ
アキュムレーションタイプと高速搬送（120m/分）タイプを品揃え。



ライトローラー
設置・移動が簡単。簡易制御機能付コンベヤ。



OCS
（オーバーヘッド・コンベヤ・システム）
独自機構による天井搬送システム。クリーンで静かな搬送を実現。



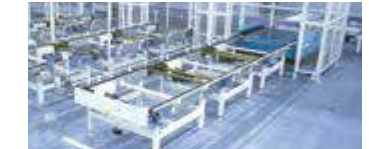
ORV
（自律移動ロボット カゴ車搬送タイプ）
カゴ車を自動で把持し、自らルートを生成してガイドレスで搬送。



バッチカルコンベヤ
多層間を垂直に連続搬送。



パレットトラバーサー
パレットタイプの高速搬送システム。



チェーンコンベヤ
重量物の移動搬送コンベヤ。

◎仕分け機器



ラインベルトソーター
信頼性を追求した高品質のケース用ソーター。能力やレイアウトに合わせて3タイプを品揃え。



クロスベルトソーター
小物から中物まで高速仕分け。

◎ピッキングシステム



ライトピック
独自のグリッパーとAIによるマスターフリーで幅広い商品をピッキング。

ロボットストレージシステム

AutoStore

オートストア

究極のスペース活用。そして人にやさしく、省力化。

オートストアは、格子状に組み立てられたグリッド内に、ピンと呼ばれる専用コンテナを高密度に保管。グリッド上をロボットが走行し、作業者が待つポートまでピンを搬送します。保管効率と生産性を高め、5つにモジュール化されたシンプルな構造で、既存倉庫への導入のほか、保管量の増加や要求能力に応じた拡張にもフレキシブルに対応します。

◎システム概要

ロボット

前後左右に自在に走行し、複数のロボットが連携してピン(専用コンテナ)の入出庫を行います。

グリッド

前後左右に自在に走行し、複数のロボットが連携してピン(専用コンテナ)の入出庫を行います。

ピン(専用コンテナ)

220、330、425mmと高さ違いで品揃えしている専用コンテナです。

ポート(ワークステーション)

入出庫作業を行うワークステーション。要求能力や用途に応じたラインナップがあります。

コントローラー

ピンのロケーション管理・ロボットへの入出庫指示を行うコマンドセンターです。



オートストアの詳細はこちら

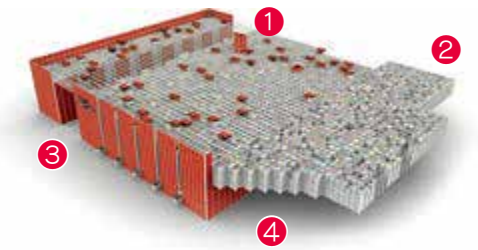
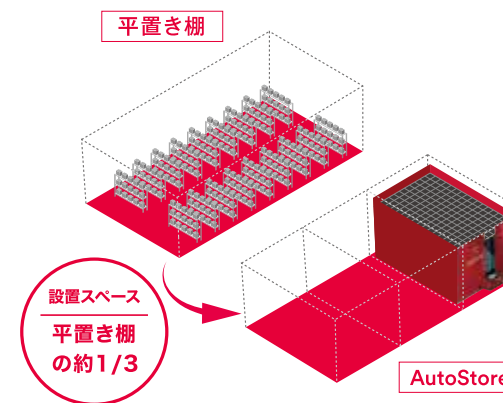


◎オートストアのメリット

高密度保管と自由なレイアウト

ピンを隙間なく積み上げて収納する構造のため、通路スペースが不要で、上部空間も有効活用できます。

また、柱まわりなどのデッドスペースを極限まで減らし、建屋の形状に合わせた、無駄のないレイアウトを構築できます。



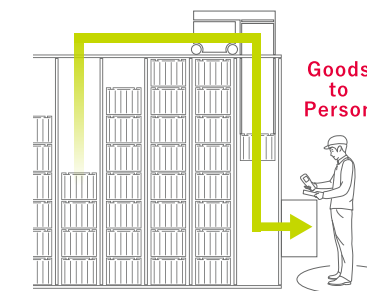
レイアウト例

- 1 柱を囲んだレイアウト
- 2 張り出しレイアウト
- 3 トンネル状のレイアウト
- 4 多角形や床の段差があるレイアウト

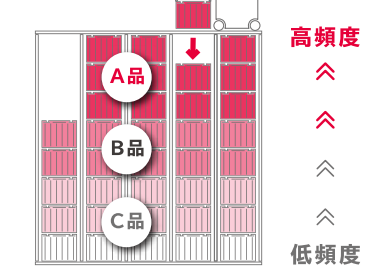
作業・稼働効率を向上させ生産性を大幅にアップ

作業者は定点で負担なく、ピッキングできます。探索・歩行時間がなくなり、作業効率が大幅に向上します。

さらに入出庫を繰り返していくことで、高頻度品はグリッドの上層へ集積されていき、出庫時間が自然と短縮。ロケーション管理も不要です。



ピッキング後は最上段に戻る



◎ケーススタディ

国内最多の納入実績

オカムラは、2016年よりオートストアの正規販売店として国内への導入を開始。人手不足やスペース不足など、さまざまな業種・業態の課題改善に貢献しています。オカムラは、豊富な国内納入実績のもと、オートストアのスペシャリストとしてお客さまに最適なご提案をいたします。



3次元ピッキングシステム

Skypod

スカイポッド

Skypod ロボットは、倉庫内を前後・左右・上下と縦横無尽に移動する3次元走行ピッキングシステム。最大高さ12mのラックからビン（専用コンテナ）を自動で取り出し、短時間でピッカーのいるステーションへ搬送します。保管されているすべての商品をコントロールし、Web注文で瞬時にロボットへと指示を出します。指示を受け取ったロボットは速やかに商品を取り出します。Goods to Person方式を採用、ピッカーはステーションから動くことなく、作業に集中できます。これにより約5倍もの速度で荷詰め作業を行えるようになりました。



◎Skypodの基本機能

①ビンへの荷物の補充

ビンへのアイテム補充は、ピッキングステーションまで搬送されてきた空ビンにアイテムを入れるだけ。在庫管理はソフトウェアの「Astar」が行います。

②ビンから荷物の取り出し

Skypod ロボットがピッキングステーションまでビンを自動搬送してくるため、ピッカーは移動することなくピッキング作業を行うことができます。

③モニターにピッキング情報が表示

モニターにピッキング情報が表示されますので、ピッカーはモニターの指示通りにピッキングを行うだけで完了します。



◎Skypodのメリット

●設備スペースの削減

平棚倉庫は荷物を格納する棚の高さが人の手の届く範囲となるため、天井にデッドスペースがありました。Skypodではロボットが自動で棚を昇降、荷物を取り出すので、高さ10mまで商品を格納することができ、デッドスペースを削減することができます。

●歩行距離や時間を短縮

Skypodで歩く時間、商品を取り出す時間が大幅に短縮され、作業者はロボットが運んでくる商品の確認をする業務だけで済むため、作業のスピードアップと効率化が実現します。少人数で従来の作業量が可能になるため、人件費削減にもつながります。

●物流業務の可視化

ロボットに指示・管理するソフトウェアで「Astar」は最大100台まで、Skypodロボットに指示・管理ができます。在庫管理だけでなく、出荷用の空きコンテナの供給・ピッキング完了コンテナの供給・排出を自動化でき、物流業務の可視化が実現します。

●生産性アップが可能

Skypodのピッキング速度は、1ステーションあたり1時間で最大毎時400行。複数商品を区分けして運ぶことができ、ビンの最大積載量は30kで、毎分240mで走行することが可能です。Skypodを導入することで、人力とは比べ物にならないほどの作業効率が向上します。

●業ミスの抑止/物流品質の向上

従来はピッキングリストに記載されている商品名と数量を何回も確認し、倉庫内から商品を探すにはとても時間がかかるうえ、手作業のため正確さやスピードはすべて作業者に依存していました。Skypod導入で作業の標準化ができるため、ピッカーのスキルに依存しない環境を構築できます。

●優れる拡張性

Skypodロボットの台数やシステム規模は、倉庫サイズに応じて柔軟に変更できます。将来の増設設計にも容易に対応するなど、お客様の事業規模拡大・事業成長に合わせて進化する拡張性を備えています。

●ロボットによる自動急速充電

Skypodロボットは1時間に一度、ブースター（急速充電ステーション）へ自ら向かい、急速充電を行います。ピッカーによる充電作業の手間が省け、作業の効率化を実現します。

●ピッキングロボットとの組み合わせ

Skypodはピースピッキング・ロボットとの組み合わせも可能です。これによりさらなる省人化・効率化が実現できます。

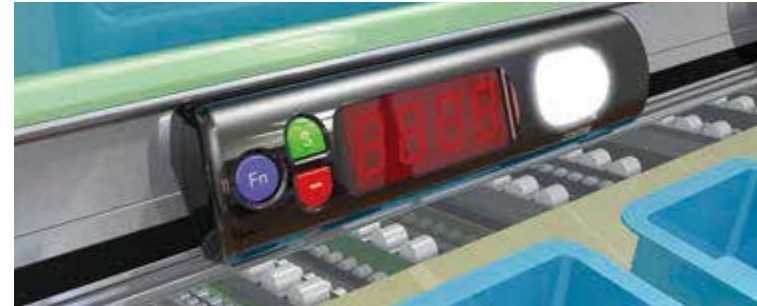


デジタルピッキングシステム

表示器を利用したピッキング支援システムです。作業者は、ペーパーレスとハンズフリーで光っている表示器を目指して作業対象口ケーションを確認し、作業を行います。

MWU シリーズ

脱着用フックにより、頻繁に間口レイアウト変更がある場合、カバーが無く、また着脱が簡単な為、位置変更が簡単にできます。取付ベースを変えることでアルミベースで連結取付、平棚取付、パイプ取付と3種類の取付方式に対応します。



- 仕切りが無く間口間の移動が簡単
- 防滴構造（表面のみ）

※アルミベース



※平棚取付



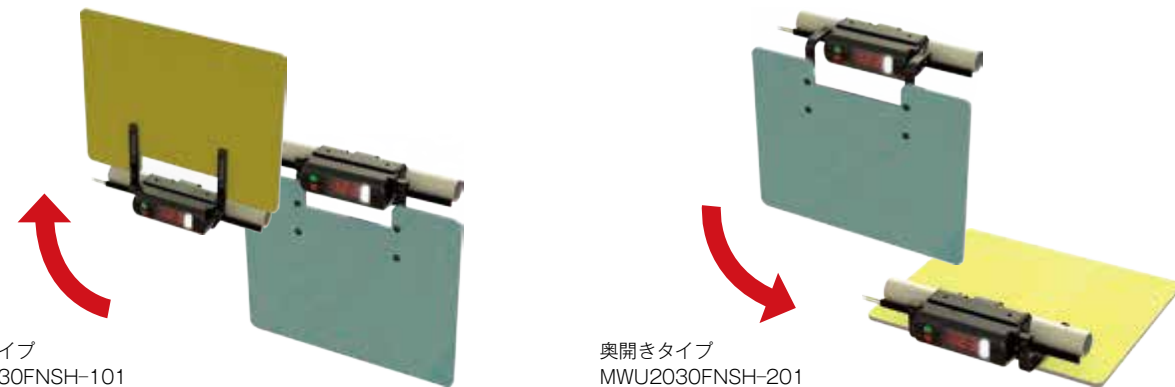
※パイプ取付

※電子ペーパー センサー付

※拡張センサーユニット

MWU ポカヨケゲート表示器

ピッキング指示をシャッターとランプで知らせます。開いたところに指示数の商品を投入する為仕分けミスを取り除き“ゼロ”に近づけることができます。種まき・摘み取りどちらでも対応可能です。NFC 通信でアドレス設定や開閉角度・速度・遮断時間等の調整ができる最新機能を搭載しています。（スマートフォン・HHT 対応）



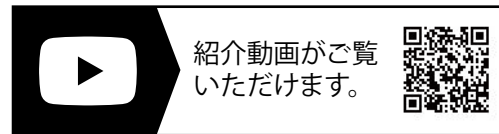
前開きタイプ
MWU2030FNH-101

奥開きタイプ
MWU2030FNH-201

SAS (シャッターアソートシステム)



SAS (シャッターアソートシステム) はポカヨケゲート表示器を活用し仕分けミスゼロを目指し、種まき・摘み取りどちらでも対応可能な小口仕分けシステムです。



紹介動画がご覧いただけます。

JW シリーズ

ロングセラー製品で豊富な種類があります。廃棄焼却に有害ガスが発生しない素材を使用しており、汎用性が高いサイクルダクトタイプです。



- 平棚、パイプラックいずれにも設置可能
- 信頼性の高い豊富なラインアップ
- 簡単に分離でき資源のリサイクルが可能
- プラスチックダクトは廃棄焼却時に有害ガスが発生しない素材を使用

MW シリーズ

脱着用フックにより、頻繁に間口レイアウト変更がある場合、カバーが無く、また着脱が簡単な為、位置変更が簡単にできます。



- 仕切りが無く間口間の移動が簡単
- 防滴構造（表面のみ）

NW シリーズ

自由に設置したい、ケーブルを無くしたいという要望に対応した無線型表示器です。コンテナ、カート、カーゴテナーなどに装着して移動が可能です。

- 5人同時作業が可能なタイプ有
- 固定の必要なく自由に設置可能



NEW
NW2974N/NS



NW2978

NW2979

SW シリーズ

小物に適したコンパクトタイプのライトモジュールです。視認性も高く小物などの小さい間口でもミスのないピッキング作業を支援します。



- 平棚、パイプラックいずれにも設置可能
- 小物に適したコンパクトタイプ
- 簡単に分離でき資源のリサイクルが可能
- プラスチックダクトは廃棄焼却時に有害ガスが発生しない素材を使用

UHF RFID リーダー搭載表示器

RFIDの読み取りが可能の為、ピッキング・仕分け作業における物品管理や作業者がID TAGを使用することで、作業者特定による人の管理が可能となり、トレーサビリティを構築でき、品質の向上につながります。



- CONFIRM ボタン押下動作の簡略化（ピッキング・仕分け作業のみでボタンを押す工程が不要となる）
- ID TAG を使用し間口のポカヨケを実現（作業ミスを削減）
- RFID TAG 付商品の場合、表示器に内蔵されたRFIDリーダーで商品のカウントが可能

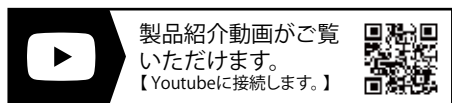
見えるRFID

Smart Tag/Smart Card

NFC（非接触近接通信）搭載で必要な表示情報を非接触で自由に書き換え可能。バーコード、QRコード等の二次元コードも表示可能で、スマートタグ・スマートカードを情報媒体とし、生産管理システム、物流システム、製造業では工程管理、カンバンなど必要な情報を提示、ネットワークを介して、様々な情報を共有し、作業の見える化、DX化のマストアイテムとして普及が進んでいます。

IoTのメディアとして

書き換える時だけ微弱電力が必要で書き換え後は電力なしで表示できる電子ペーパーを使用した「見えるRFID」です。非接触近接通信（NFC）によりテキスト、グラフィック、バーコード等の表示内容を書き換えることができ、バーコードは市販のスクリーンで読めるので既存のシステムにもすぐに導入可能です。UHF帯対応のスマートカードは遠距離からのID読み取りが可能で複数枚のID同時読み取りも可能です。



製造・物流現場のさまざまなシーンで活用できる表示付きRFID



NEW SmartTag (ST1129U) SmartCard (SC1029U/1029L)

高速に文字の書き換えが可能
転送時間に特化した最新SmartTag



- 防水防塵対応 :IP55準拠
- 画素数 :296×128pixels
- UHF通信距離 :最大読取距離約2m
- 外形寸法 :W99×H63×D8mm

用途
高速書き換えが可能で、コンベア等マテハン機器との組み合わせに最適



堅牢なプラスチック製で
防塵防水、薄型タイプ



- 防水防塵対応 :IP56準拠
- 画素数 :300×200pixels
- UHF通信距離 :最大読取距離約3m
- 外形寸法2.9L :W85.6×H54×D3.65mm
- 外形寸法2.9U :W95.2×H60.9×D3.95mm

用途
テキストだけでなくバーコード、QRコードなども表現でき、コンテナラベルにも最適。プラスチック製で製造指図書・電子化が可能。工程管理にも運用できます。



アイオイ独自の省配線ネットワーク

AI-NET

省配線ネットワークは、導入にかかる時間・費用・労力を抑え、導入後のメンテナンスやレイアウト変更のコストを抑えることができます。さまざまなデバイスをマルチドロップで接続できるので、システム構築の観点からも汎用性の高いネットワークシステムです。

AI-NET チップ

2線で電力とデータを送ることができる通信チップ AI-NET チップを開発しました。このチップには、2線のトランシーバー・レギュレーター回路・リセット回路・ゲートアレイ・マイコン・ウォッチドッグ等がひとつに収められています。

2線で電力とデータを送ることが可能

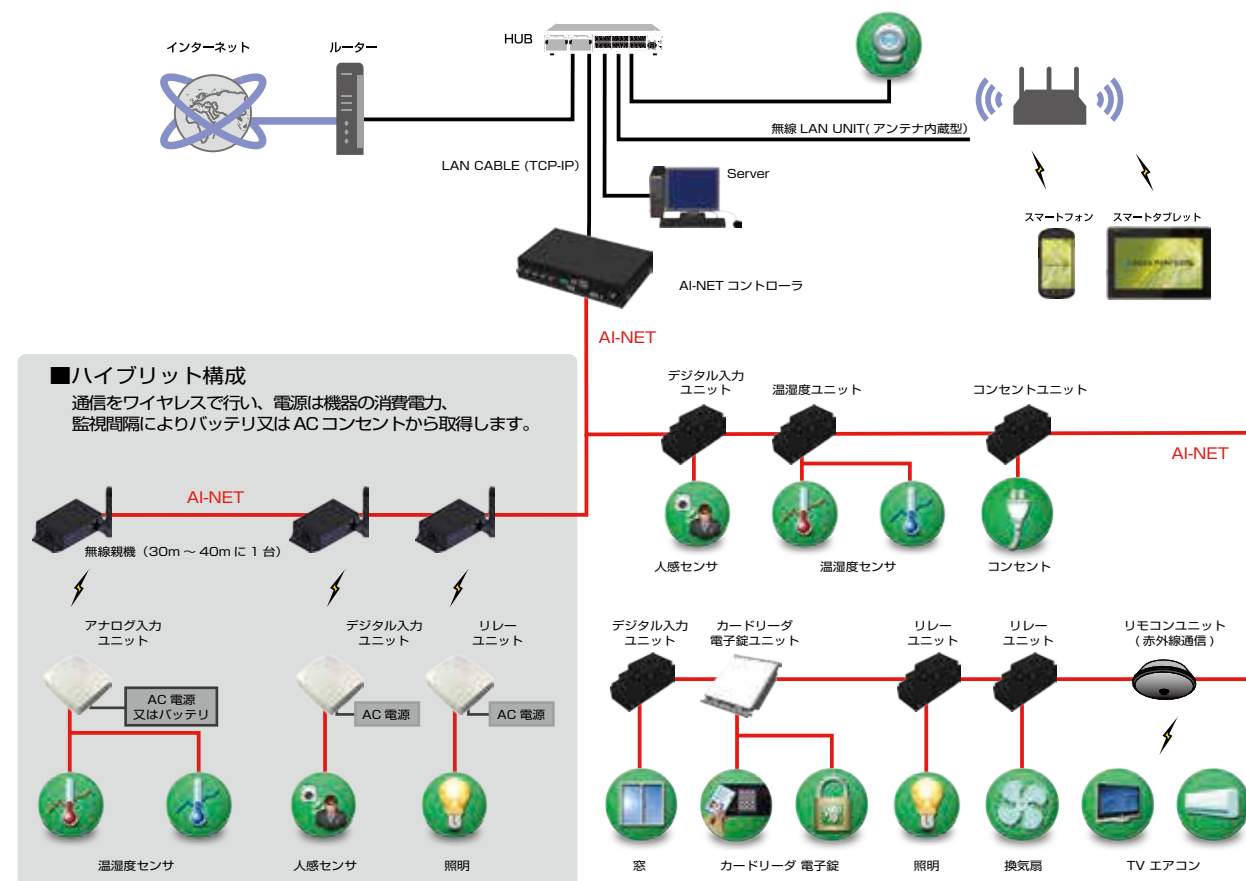
AI-NET チップを搭載したユニットは、すべて2線で電力とデータを送ることができます。これにより従来の2分の1以下の配線量で各ユニットを接続できるようになりました。また、2線には極性がないため、接続時に極性ミスすることなく、誰でも安全・スピーディに機器の接続ができます。



	RS-422、RS-485等	AI-NET	AI-NETのユーザーメリット
芯数	4芯（電源、GND、S+、S-）	2芯（電力、データ）	配線が1/2になるため施工コストを低減できる
極性	あり	なし	ライトモジュールの接続が簡単。逆さまに取付しても壊れない
電源	直流	交流	ノイズ（雷、静電気等）に強い

AI-NETを使用したデバイスネットワークシステム [施設・設備運用管理システム SmartAI]

SmartAIは、省配線ネットワーク「AI-NET」を使用した汎用デバイスネットワークシステムです。各種センサーやアクチュエータと接続し、照明のON/OFFやドア・窓の開閉、空調などをサーバー（またはクラウド）で統合管理。スマートフォンまたはタブレットPCで監視・制御することができます。



プロジェクションピッキングシステム®

プロジェクターを活用したピッキングシステム。間口が小さく表示器が設置できない保管棚やロケーションが頻繁に変更される保管棚等はもちろんFAの運用にも最適。組み立て作業支援としても活用できます。また、センサ・画像認識技術でボカヨケを実現。多様な情報表示が可能です。



FA/DA/調剤薬局など様々な分野で利用されています



光ったところからピッキング



画像認識技術でボカミス防止

床面照射型 F-PPS

棚がない通過型配送センター等、何も無い床面にピッキングや仕分け指示を投影することが可能。プロジェクターを天井に埋め込みや外カバーでの対応で、冷凍エリアでも結露の心配なく、プロジェクターが使用可能。何も無い床面で作業をするため、作業後の清掃が簡単で、いつも清潔な環境を維持することが可能。



ピッキングや仕分け指示を投影
何も無い床面で作業が可能



プロジェクターによる投影
工事が簡単・配線が不要



現場に合わせて投影情報を
自由にカスタマイズ可能

深度が測れる 3D センサ型 3D-PPS

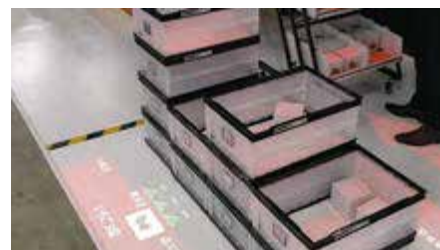
検知したい対象物に複数のセンサやカメラ設置の必要があったが、上部に設置するだけのシンプル構造。深度を測定できることから、対象物との距離の計測が自動で可能。棚や平置き問わずで使用ができ、傾斜のある投入先でもボカヨケ設定が可能。



プロジェクターで作業指示を照射



床面照射に3Dセンサを組合わせた
ピッキング・仕分け作業システム



高さの違う仕分け場所でも
3Dセンサ技術でボカミス防止

GTPソリューション

ボカミス防止、人手不足と作業負担軽減、作業時間短縮等常に抱えている問題を解決するためには、他のシステムと連携することでより一層の効果が得られます。リフトアップAGVで目的の棚を搬送し、運ばれてきた棚にプロジェクションピッキングシステム®PPSとシャッターアソートシステムSASで作業を行うAGV連動型仕分けソリューションをご紹介します。



PPS・SAS
連動型ソリューション

AGVが自動搬送するため作業者の歩くという労力を
軽減でき、商品棚を覚えて探す必要もありません。



● AGV
(無人搬送車)
ピッキング棚を所定の位置、ピッキングステーションに移動させます。



● PPS
(プロジェクションピッキングシステム®)
移動してきた棚のピッキング箇所を照射します。ピッキングミスは棚全体が赤く光りエラーを教えてください。



● SAS
(シャッターアソートシステム)
PPSで商品をピッキングすると、仕分け間口の表示器が点灯しシャッターが開きます。

こんな現場に・・・

- 小ロット生産により作業手順の教育に課題を抱えている現場に
- 誤品欠品など品質に課題を抱えている現場に
- 作業ステーションをコンパクトにしたいと思っている現場に

DPS デジタルピッキングシステム

アイオイ・システム製デジタルピッキングシステム（DPS）は、商品・部品などを取り扱う作業支援システムなど、さまざまなシステムに活用されています。ここでは、各種のピッキング作業支援システムとして採用されている DPS の導入事例を紹介します。DPS ではリスト作業に比べ、平均して作業スピード約 2 倍、精度では約 10 倍の向上結果を得ています。



◎健康飲料の会員販売向け物流センター
パレット単位でのケースピッキングを DPS によって効率化



◎アパレル品のスーパー向け物流センター
ハンディターミナルシステムと連動して商品のロケーション登録をしている様子



◎システムキッチンの部材・部品
マンションや家屋の建設計画に同期して出荷するために DPS を導入。戸建やマンションの建設現場への JIT が可能



◎菓子・加食・文具・雑貨の店舗向け物流センター
各作業ゾーンの中央部にバーコードスキャナとタッチパネルターミナルをセットした検品架台を設置。該当商品をピッキングしながらバーコード検品し店舗配送用コンテナに投入するピックアンドチェックシステムを採用

DAS デジタルアソートシステム

アイオイ・システム製デジタルアソートシステム（DAS）は、商品・部品などを取扱う作業支援システムなど、さまざまなシステムに活用されています。ここでは、各種の仕分作業支援システムとして採用されている DAS の導入事例を紹介します。DAS ではリスト作業に比べて平均して作業スピード約 1.5 倍、精度では約 20 倍の向上結果を得ています。



◎アパレル品のスーパー向け物流センター
商品の JAN コードをスキャンするだけでランプと数字で仕分けを指示。さらに梱包毎の内容明細をデータ化すると同時に、それを内容明細ラベル（SCM ラベル）に出力。これにより、店舗での検品が不要となり、流通過程での大幅な省力化が実現



◎ハンガーアパレル品のスーパー向け物流センター
海外製のハンガーアパレル品の店舗向け通関物流センターでも採用。リサイクルハンガーに RFID を装着することで、さらに効率化することも可能



◎チルド食品のスーパー向け物流センター
+5℃の冷蔵倉庫にも対応するエルピックシステムを利用して、和日配、洋日配、デリカ日配の 3 カテゴリーを店舗別に仕分け



◎家電・PC パーツおよびソフトウェア関連量販店向けの店舗別仕分けライン
コンテナ満杯ボタンを押下すると SCM ラベルが出力され、物流 EDI（ASN）に対応

バス・トラックの物流業務をサポートする デジタルタコグラフ・ドライブレコーダー 一体型 YDX-8 クラウド型新運行管理システム ESTRA-Web2

運輸業界の安全と省エネ運転を実現する商品として、1999年3月に国内初となるデジタルタコグラフの型式を取得し、今日までに約60万台を販売してきました。

『YDX-8』は、安全・省エネ運転を目的とした運行管理、車両管理、連続運転や休憩時間等の労務管理機能に加え、ドライブレコーダー機能として最大10カメラの接続、高画質での映像記録を可能にしました。さらに、AIを利用した独自技術による画像認識機能を実装し、お客様の危険運転防止をサポートし、安全管理面を強化しています。

また、『ESTRA-Web2』は、デジタルタコグラフ・ドライブレコーダーで取得したデータをクラウド上で管理し、状況をウェブブラウザでいつでも閲覧いただくと共に、従来の『ESTRA-Web』に実装された各種機能のアップデートに加え、新たにIT点呼システムを実装しました。さらにAPI実装によりこれまで以上に外部システムとの接続性が向上し、物流業界・旅客業界を取り巻く環境変化に対するお客様の労務・安全管理、業務効率の改善をサポートします。

◎『YDX-8』の主な特長



1 選択可能な運用方式

運用方式を車両単位で、SDカード/LTE通信/無線LAN※から選択可能です。お客様の条件に合った最適なコストで運用いただけます。※無線LAN方式は順次対応予定です。

2 カメラ数最大10個・高画質映像記録

前方のメインカメラ(240万画素)1台、オプションのデジタルカメラ(120万画素)が最大4台、アナログカメラ(30万画素)最大5台の合計で10台のカメラを接続できます。

3 ドライブレコーダーのカメラを利用した画像認識、安全運転サポート

従来の車間・車線認識や道路上の路面標識(制限速度、横断歩道予告、一時停止(止まれ))の画像認識機能に加え、信号機検知(赤信号侵入)やスマホ通話検知(運転中の通話)の機能を新たに実装しました。乗務員様の運転中の危険挙動を事務所へ通知することで管理者様がこれまで気づくことができなかった運転状況を把握することが可能です。

4 正確な車両位置情報をリアルタイムに把握可能

デッドレコニング(自律航法)対応のGPSモジュールの搭載により車両位置情報の精度が向上しました。また、事務所への車両位置情報の送信頻度を1分または5分から選択できます(1分設定は有償オプション機能)。車両の走行軌跡や位置情報の正確性、リアルタイム性が向上し、より早く運行状況の把握ができるようになります。

5 多様な拡張性・外部連携機器

豊富なインターフェースを搭載し、衝突防止補助機器、タイヤ空気圧検知機器、庫内温度の管理機器など、従来製品よりも多くの機器と接続でき、お客様の多様なニーズに応じた運用が可能となります。

◎『ESTRA-Web2』の主な特長



1 ウェブブラウザで利用可能

ログインID・パスワードを入力すればウェブブラウザ上で閲覧可能なため場所を問わず、パソコンやタブレット、スマートフォンなどの端末でデータを確認できます。

2 快適に使えるフレキシブルな閲覧・管理画面

カスタム設定可能なダッシュボードデザインを採用し、お客様がよく利用する機能・メニューを使いやすいレイアウトで配置することが可能です。危険運転や異常発生時のアラートコンテンツなどの重要性の高い情報を自在に配置でき、リアルタイムな情報管理を実現します。

3 利便性を高める機能の実装

従来システム『ESTRA-Web』に実装済みの各種帳票出力、運行解析、映像解析、動態管理の各機能に加え、下記の機能を新規に実装・強化しました。

- ・お客様の組織構造(最大10階層)に応じて、階層別のデータ閲覧・分析可能
- ・運行データの検索機能を強化し、運行データ、映像データの閲覧スピードが向上
- ・運転評価項目を自由に設定でき、お客様独自の安全運転評価で重点管理が可能
- ・ドライブレコーダーのリクエスト機能(記録された映像の取得)を強化し、操作性・閲覧スピードが向上

矢崎のフォークリフト向けドライブレコーダー YLD1 LTE版

LTE通信による効率的な運用で、フォークリフト業務の安全と安心を守る

過去に発売した「YLD1 無線LAN版」に加え、あらゆる現場で使用できるLTE通信を採用したフォークリフト向けドライブレコーダー「YLD1 LTE版」を2021年3月22日から全国で一斉発売しています。

YLD1 LTE版は、無線LAN環境の構築が困難な現場でも利用できるLTE通信を採用しました。その結果、YLD1 無線LAN版の機能に加え、LTE通信ならではのスピーディなデータ提供が可能となりました。今回のラインアップ追加により、お客様の運用環境に合わせてLTE版と無線LAN版が選択でき、より多くのお客様にご活用いただけると考えています。



◎主な特長

1 通信環境の構築が不要

車載器本体にLTE通信モジュールが内蔵されているため、無線LAN環境がない、または構築することが困難なフォークリフトの運用現場に、新たに通信環境を構築することなくご利用できます。

※車載器を運用する構内にLTE通信強度が確保されていることが必要です。

2 記録映像のスピーディな取得が可能(LTE版限定の新機能)

稼働中の車両のSDカードに常時記録されている映像を、お客様の事務所PCから選択して閲覧できます。この機能により、有事の際や緊急性が高い状況においても、遠隔操作で記録映像をスピーディに確認できます。

※ご利用の際は月額料金とは別で費用が発生します。

3 簡単操作

車載器本体のLTE通信により、車載器本体に挿入されたSDカードのデータが、専用サーバーに自動でアップロードされます。そのため、運転者は面倒な操作をする必要はありません。また、ビーコン(オプション)を使用することで乗車時に運転者を自動的に認識し、運転者別のデータ管理が可能です。

4 画像認識機能による危険警告

外付けカメラ(オプション)による画像認識により積荷の揺れを検知した場合に警告します。また、記録映像からフォークリフトの稼働状況及び、作業の安全状況を確認・解析できます。それにより、フォークリフトの事故防止等の安全管理と、万が一事故が発生した際の解析が可能になります。

5 自動レポート作成

サーバーにアップロードされたデータに基づき安全・効率・管理に関するレポートを自動作成できます。また、運転者・車両ごとの“ヒヤリハット”発生件数を一覧で確認できるほか、事業所内で情報を共有することで会社全体の安全運転教育等に活用できます。

◎全体構成イメージ図



導入平均実績 事故40%削減 燃費8%改善 FULL HDカメラとクラウドデータ管理 SR-WEB解析システムでさらに安全性・利便性向上!

SR Advance

セイフティレコーダ アドバンス

事故率40%削減、燃費8%（導入企業様平均値）の実績を持つ、セイフティレコーダの安全運転診断技術をより安全・カンタンに活用できる、新たなデジタルシステム。

FULL HDカメラの採用により、信号やナンバープレート、標識等の認識性向上。万一の際に必要な映像記録も高詳細に解析が行え、日常の安全指導へも活用できます。

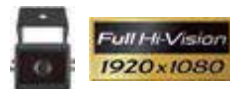


各種助成申請対象機器
国交省認定（自 TD II-99）

◎映像関連機能の強化

高精細フルハイビジョンカメラに対応

約200万画素の高画質、リアルタイム映像確認が実現しました。



高画質な映像記録

内蔵メモリに最大150時間記録可能です

高画質映像で文字も鮮明です。

リアルタイム・イベント映像の取得

車両を指定して、映像をリクエストします。

1回のリクエストに対し、最大120秒間の映像で確認することができます。

指定日時映像の確認と保存

映像は、高画質な動画で再生されます。

指定した日時で、過去の映像を参照し、保存することができます。

◎SR-WEB解析システム

日々の運行を詳細に振り返り、安全運転に導きます。

分かりやすい仕組みで、簡単に運行を振り返ることができ、事故に遭いにくい運転を実現します！

1日の運用を振り返ります

事業所、ドライバー、日付を指定して運行データを参照します

点をクリックすると、地図が開きます。発生場所がわかります！

運転に対するコメントが自動で表示されます。

バック運転状況の振り返り

バックギアを入れてから動き出すまでしっかり安全確認をしているかチェックします

安全確認を十分にしているかわかります。

運輸日報

運輸日報を自動印刷できます。

◎車載器側の操作と機能

ドライバーに負担のない簡単操作

ドライバーの操作を簡単に、最低限にすることで、運転に集中出来る環境をご提供します。

運行開始時の操作

運行開始時は、運転者カードをリーダー部にかざしていただくだけです！

運行中

長時間運転しています。そろそろ休憩してください。停車から10分経過しました。

運行中は、本体の表示部と音声ガイダンスがドライバーをサポートします。

画像分析により不注意状態をお知らせ！

居眠り、わき見、ながら運転を検知し、音声警告し、管理者へメール通知

スマホでも映像確認が可能です。

運転診断ができるフォークリフト用ドライブレコーダー

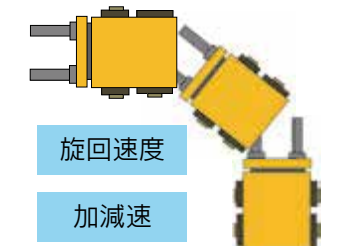
SR ForkLift N

セイフティレコーダ フォークリフト エヌ



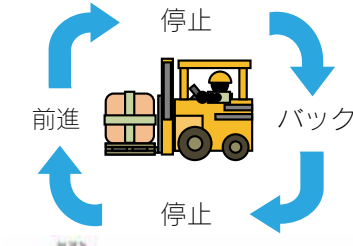
◎特長

①旋回中の加減速挙動を検出



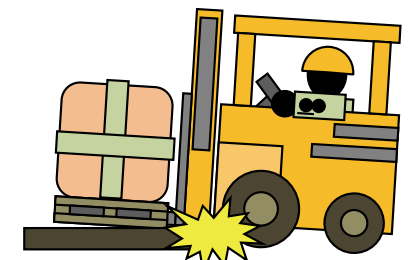
旋回中に行う加減速を検出して表示。散布図をクリックすると発生当時の映像を見ることが可能

②スイッチバック挙動を検出



前進からバック、バックから前進に切り替える時、十分に停止し、安全確認を行っているか、その停止時間をヒストグラムで表示

③段差判定機能を実現



鉄板の上などを走行するときの段差は危険挙動として検出ししない。指導すべき運転操作のみピックアップ

SRAdvanceとSRForkLiftNは2週間お試し実施中です！
詳しくは(株)データ・テックまで！ TEL: 03-5703-7060



改善基準告示の改正に対応する時間管理を自動計算！

改善基準の達人Ⅱクラウド

休憩時間の確保 NG を予防！

各運転者の次回出社可能時間を一覧で表示

違反予防ラインで違反を未然に防止！

運転者 A 270H
運転者 B 150H

予防ライン 違反ライン

残業時間は即時グラフ化！

残業時間を見比べて仕事を分配検討できる

運転者 A 80H
運転者 B 30H

次回出社可能リスト

運転者	出社可能時間
安全太郎	当 19:56
安全次郎	当 20:00
安全三郎	04/14 01:24

拘束時間リスト

運転者	月間拘束時間	年累計
安全太郎	293:40	293:40
安全次郎	288:25	288:25
安全三郎	261:43	261:43

残業時間リスト

運転者	月間時間外時間	年累計
安全太郎	65:21	65:21
安全次郎	55:30	55:30
安全三郎	37:56	37:56

違反発生リスト

違反発生日	運転者	違反種別
2023/03/16	違反太郎	休息期間違反
2023/04/20	違反次郎	延長拘束時間違反
2023/04/21	違反三郎	休息期間違反

違反予防リスト

運転者	回数
予防太郎	3
予防次郎	1
予防三郎	2

ダッシュボード画面

※画面はイメージです。

違反が発生した運行をピックアップ

違反手前の運行が含まれている運転者をピックアップ

営業所内の状況を一目で把握！

※当社デジタルタコグラフ（SR Advance）と連動します。



物流2024年問題を解決したいです！

新しいサービスを考えているのですが、アドバイス頂けませんか。

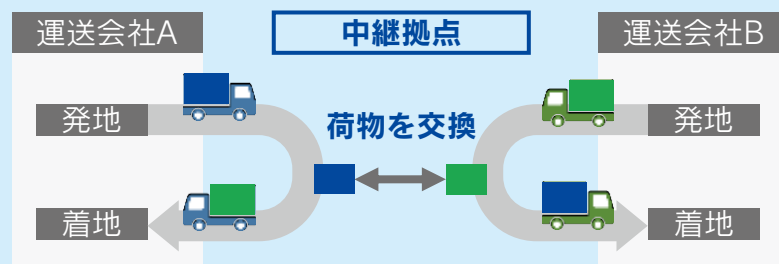
幹線輸送から保管・荷役・流通加工・二次配送

物流を変革し安心できる輸送が必要です。



など一貫したソリューション提案をしているので、その経験を活かした内容であれば！

長距離輸送が難しくなっていくなか、中間地点で荷物積み替えを行い、人手・トラック不足をカバーできる仕組みの中継輸送を考えています。



サーラ物流さんはどのような積み替えを想定していますか？

パレット物やカゴ台車など十分対応可能だと思うよ。

どが積み替え方式には向いているけど、ケース物など一般的な商品でも個数によってはこのように輸送実績から最適な物流を提供できるよ。

ドラ基地の中継拠点として使わせてもらってもいいですか？

どうぞ！サーラの営業拠点は、大阪と東京のほぼ中間

位置である愛知西部～静岡東部に4拠点、多種多様な車両で2次配送も対応できます。

ありがとうございます。
中継輸送を実現できるサービスを開発しました。
詳しくはこちらをご覧ください！



主な保有車両

ウイング	小・中型	42
	大型	69
ユニック	小・中型	21
	大型	4
平ボディ	小・中型	30
	大型	24
パワーゲート	小・中型	159
トレーラー	大型	7
ローリー車	小・中型	53
	大型	55
シュレッダー搭載車	小・中型	2



品質と信頼で未来につなぐ

求荷求車情報ネットワークWebKIT

WebKITは、トラック運送事業者がインターネット上の情報ネットワークを介して、相互に荷物や車両などの輸送情報を提供し、帰り荷や備車を効率的に確保することを目的としています。

輸送情報ネットワーク取引で最も重要なことは、会員相互の信頼関係と輸送の品質です。この点で、日本貨物運送協同組合連合会が運営するWebKITは、全ての会員が協同組合の組合員であり、かつトラック協会会員であることを条件としています。このため、会員間の信頼性や取引品質が高く、安心・安価で安定的な利用が可能な業界最大規模のネットワークです。

◎特長

導入効果 その1	安定的な輸送力の確保のために ▶ 大事なお客様からの急な輸送オーダーに対応 ▶ ネットワーク会員同士で輸送力を相互補完
導入効果 その2	安心のネットワーク取引のために ▶ 組合決済で運賃回収の不安なし ▶ 貨物保険・取引信用保険を標準で付保
導入効果 その3	輸送効率化のために ▶ 閑散期の荷物確保と繁忙期の車両確保 ▶ 帰り荷確保（実車率アップ） ▶ 積合せ荷の確保（積載率アップ）
導入効果 その4	配車業務の効率化のために ▶ 配車業務のシステム化 ▶ 配車担当者のスキル向上 ▶ 書面化による輸送トラブル解消

生産性向上

取引・事業の拡大に WebKIT2 がお応えします!

 実車率の向上 (帰り荷の確保)	 積載率の向上 (積合せの徹底)	 実動率の向上 (時間のフル活用)
---	---	---



WebKIT2プラスの新機能

- 標準的な運賃が見える **①標準的な運賃の自動表示機能**
希望金額入力時に標準的な運賃を自動的に参照表示
- 輸送プロセスが見える **②備車追跡機能**
ドライバー専用アプリで備車の輸送プロセスをリアルタイムに表示
- 取引相手の顔が見える **③テレビ会議機能**
専用テレビ会議システムを搭載

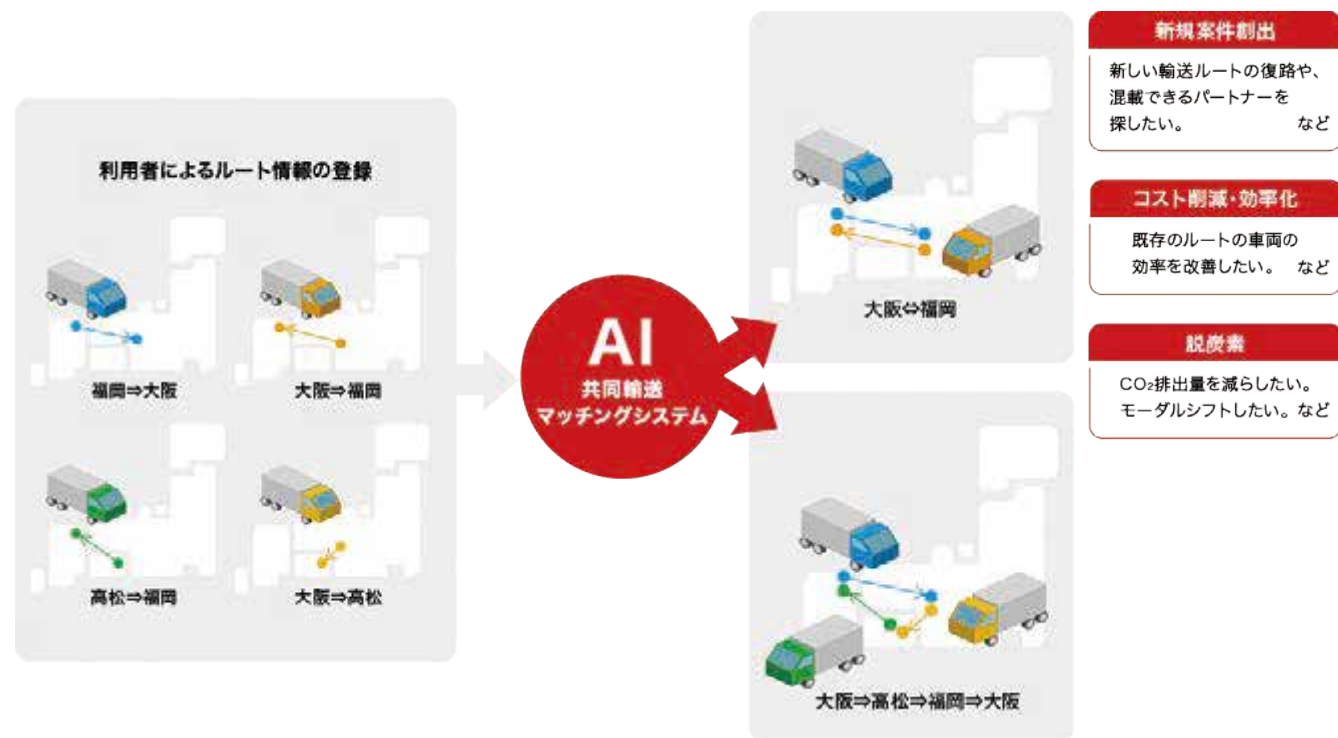
備車追跡機能のイメージ

ドライバーのスマートフォンに専用のアプリをインストールすることで、現在の位置情報のほか、運行開始や積込中、遅延などの配送状況をWebKITサーバへ送信できます。これらの情報は、WebKITの成約者同士でリアルタイムに共有できるため、緊急対応や荷主報告などの円滑な対応が可能となります。



ドライバー専用アプリ





マッチング候補の
平均実車率
約 **93%**
※2

帰り便・混載便の最適な相手を AI がマッチング

AIが経路、想定運賃や荷量の需給・季節変動なども考慮したマッチングを可能にします。また、往路・復路の組み合わせだけでなく、3つの経路を結ぶマッチングや同一経路で混載を行う相手を探すマッチングなどの機能を実装しています。※1

※1 TranOptは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成事業「Connected Industries 推進のための協調領域データ共有・AIシステム開発促進事業」により研究開発されたシステムをベースにしています。

※2 2021年8月までに実施した無償トライアル利用において、利用者に候補表示されたマッチング候補の平均実車率

ルートのデータベース化 企業のマッチングで物流の効率化を実現

TranOptは、多数の企業の輸送経路などをデータベース化し、膨大な物流データからAIによって業界を跨いだ荷主企業同士をマッチングすることで、共同輸送を可能にするサービスです。

メーカー（荷主）をはじめ、メーカーなどから一定の荷物を定期便として請け負っている運送会社にも荷主としてご利用いただけます。共同輸送によって実車率や積載率の向上、CO₂排出量の削減をはかり、飛躍的な物流の効率化を実現します。

多様な業種の企業の利用が 共同輸送の機会をつくる

TranOptは、23業種180社以上の企業が利用しています。多様な業種が参加していることによって、これまで知り合う機会がなかった地域や業種の企業のマッチングが可能になります。

23業種 180社

マッチングの例

- 埼玉⇒群馬（家電・鉄鋼製品）
- 東京⇒沖縄（家具・家電）
- 福岡⇒埼玉（日用品）
- 三重⇒福岡（加工食品）
- 埼玉⇒千葉（新聞・鉄鋼製品）

システムと対話で 共同輸送を促進するコミュニティ

共同輸送を始めるためには、積み込みから納品の運用手順や、どちらの会社のトラックを使うか、さらには運賃の決定に至るまで多くの調整事項が発生します。

JPRでは、TranOptを使って共同輸送を検討しているお客さま企業同士が対話する場である「コミュニティ」を企画、運営し、「システム」と「対話」の力で共同輸送の実現をサポートしています。



導入事例公開中/
TranOpt 製品ホームページ



<https://lp.tranopt.jpr.jp/>

トラック運送事業者累計会員数 20,000 以上！

トラボックス



国内最大級の求荷求車サービス

トラボックスなら 荷物や空きトラックが 見つかる！ 決まる！

トラボックスが選ばれる理由



案件が見つかる



成約が早い



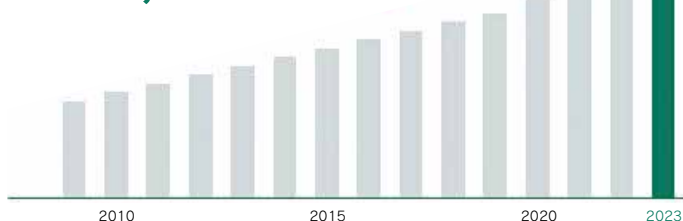
安心な取引

圧倒的な会員数と情報数

累計会員数

20,000突破！

20,000突破



年間荷物情報数 ※2022年実績
2,800,000件以上

年間トラック情報数 ※2022年実績
130,000件以上

年間成約数 ※2022年実績
700,000便以上

業界屈指のコストパフォーマンスの良さ

項目	トラボックス	A社	B社
月間トータルコスト例	9,000円 (税別)	38,980円	25,000円
成約手数料	0円	3%	3%
月額	9,000円	14,980円	1,000円
初期費用	0円	17,800円	0円

「トラボックス」14日間無料お試しはこちら

トラボックス 検索

自社の課題解決

こんなお悩みありませんか？

情報収集する
時間がない

どの製品がいいか
わからない



乗務員が
足りない

倉庫が
見つからない

運送関連の製品やサービスを探すなら



物流一括窓口サービス

～Web版トラック関連展示会～

製品・サービス一覧

一括でお問い合わせや資料請求が手軽に無料でご利用いただけます

運行・動態管理	勤怠管理	倉庫関連	中古トラック
採用	金融・M&A	物流メディア	その他

製品・サービスを見つけるまでのステップ



どんな製品・サービスが掲載されているか
まずはホームページでご確認ください！

※掲載をご希望される企業様もお気軽にお問い合わせください。

ホームページ

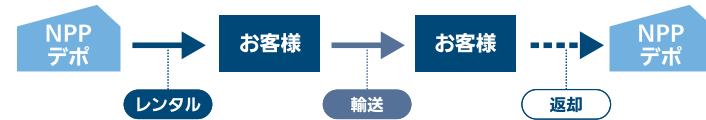


物流の未来を とともに考える。

NPPはパレット化による物流の効率化で
物流の未来をお客様とともに考えます。

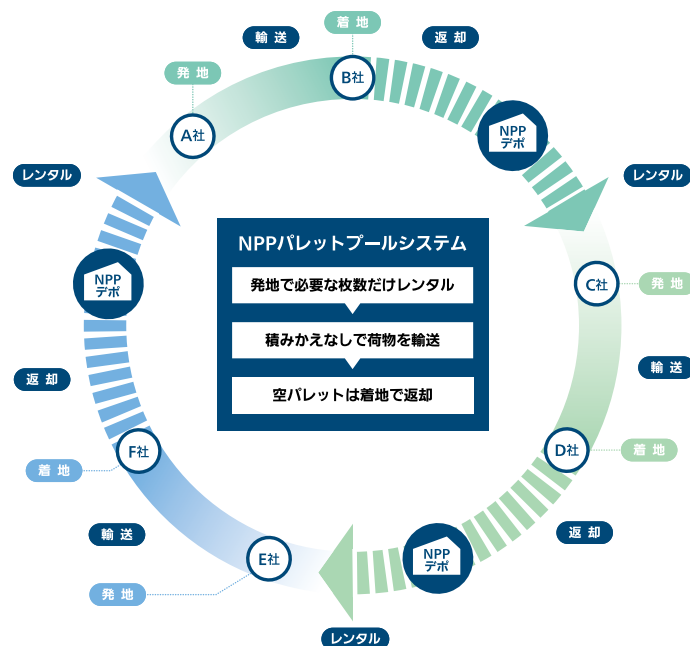
◎一貫パレチゼーションシステム

発地のNPPデポで必要な枚数をレンタルしていただき、
目的地まで積み替えなしで輸送。
着地で不要となった空パレットを着地のNPPデポで返却。



◎NPPパレットプールシステム

同一のパレットを多くのお客様が共同・循環利用していただくことで、物流の効率化を図るシステムです。



パレットプールシステムのメリット

- 空パレットの返送不要**
使用済みのパレットは最寄りのNPPデポへ返却。経費と手間を大幅カット。
- 余分パレットの保管解消**
発地でレンタル、着地で返却なので余分なパレットを持つ必要なし。
- 季節変動による遊休パレット解消**
季節変動に合わせて、必要数だけをレンタル。保管スペースも有効に利用できる。
- パレットの品質管理**
新しいデポから貸し出されるパレットの品質はNPPが一括管理。
- コスト負担の分割可能**
発荷主と着荷主の負担を明確化。

賢く、確実に 捉える。

パレット位置情報管理システム

フクLOW



- 1 受信成功率 **90%以上**
- 2 バッテリー寿命5年以上 メンテナンスフリー
- 3 防水、防振、危険エリア「II」に対応した「**防爆仕様**」
- 4 個々にID番号をQRコードで刻印(個体管理が可能)

NPPは物流の「**効率化**」と「**改善**」にトータルでサポートしています。

FOLD DECK

フォールド・デッキ

- 積載量を増やす
- 輸送効率をあげる

ASSIST SUIT DARWING Hakobelude

アシストスーツ[ダーウィン ハコベルデ]

高反発ゴムで重量物の持ち上げをアシスト!

- 柔軟
- 軽量
- 無電力

ホームページはこちらから

日本パレットプール 検索 <https://www.npp-web.co.jp>



uprの解決ソリューション

ドライバー不足による“運びたくても運べない”状況に対して、ユーピーアールでは荷役時間短縮・トラック待機時間削減ソリューションから、パレット管理業務を改善するソリューションまでご提案します。

「物流の2024年問題」とは？

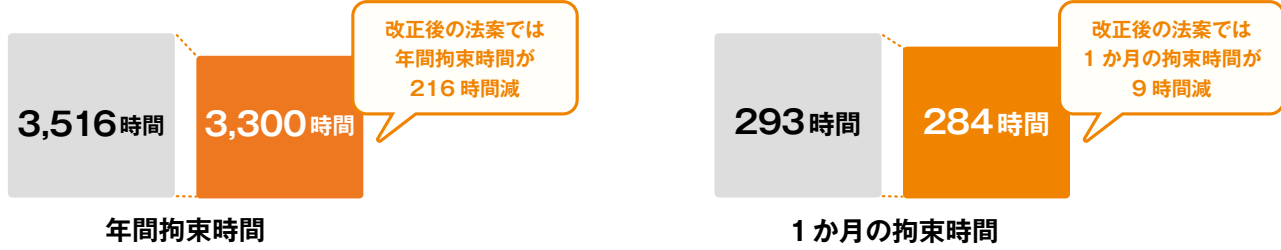
働き方改革関連法により

時間外労働時間が年960時間に制限されることで生じる諸問題のこと

法改正によりトラックドライバーの残業時間に制限が設けられました。

ドライバーが稼働できる時間が短縮され、輸送能力の維持が難しくなる可能性があります。

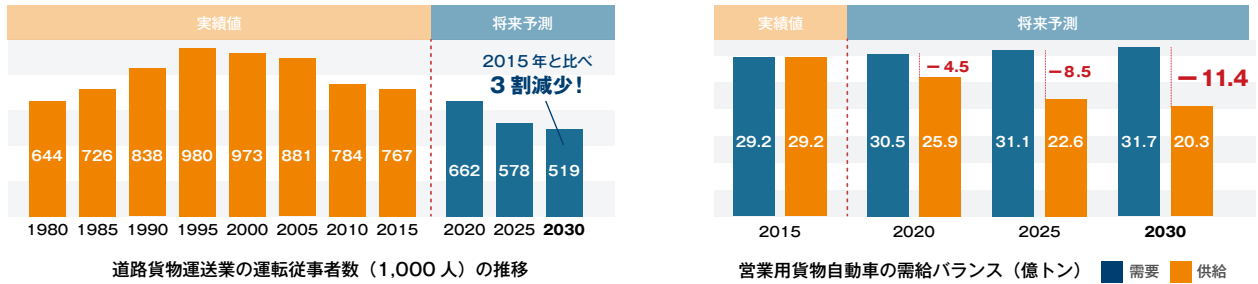
出典：厚生労働省「改善基準告示の見直しの方向性について（トラック）」（2023年5月20日に利用）



課題1 輸送需要量に対する供給量の不足

輸送需要量が増加傾向にある一方、年々深刻化しているドライバー不足に加え、ドライバーの労働時間が短縮されることで供給量はさらに減少する可能性があります。2030年には11.4億トンが運べなくなる見通しです。

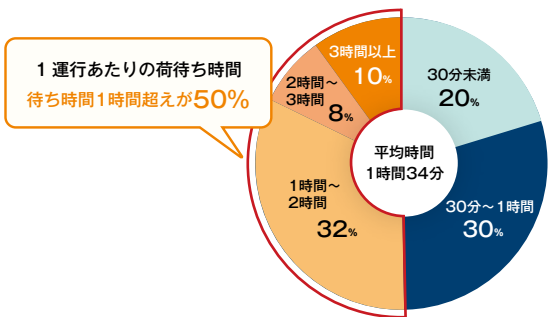
（出典）JILS「ロジスティクスコンセプト2030」



課題2 トラック荷待ち時間の発生

国土交通省の「トラック輸送状況の実態調査結果」によると1運行あたりの荷待ち時間は平均で1時間34分となっており輸送現場では待ち時間でのロスタイムが大きな課題となっています。

（出典）国土交通省「トラック輸送状況の実態調査結果」



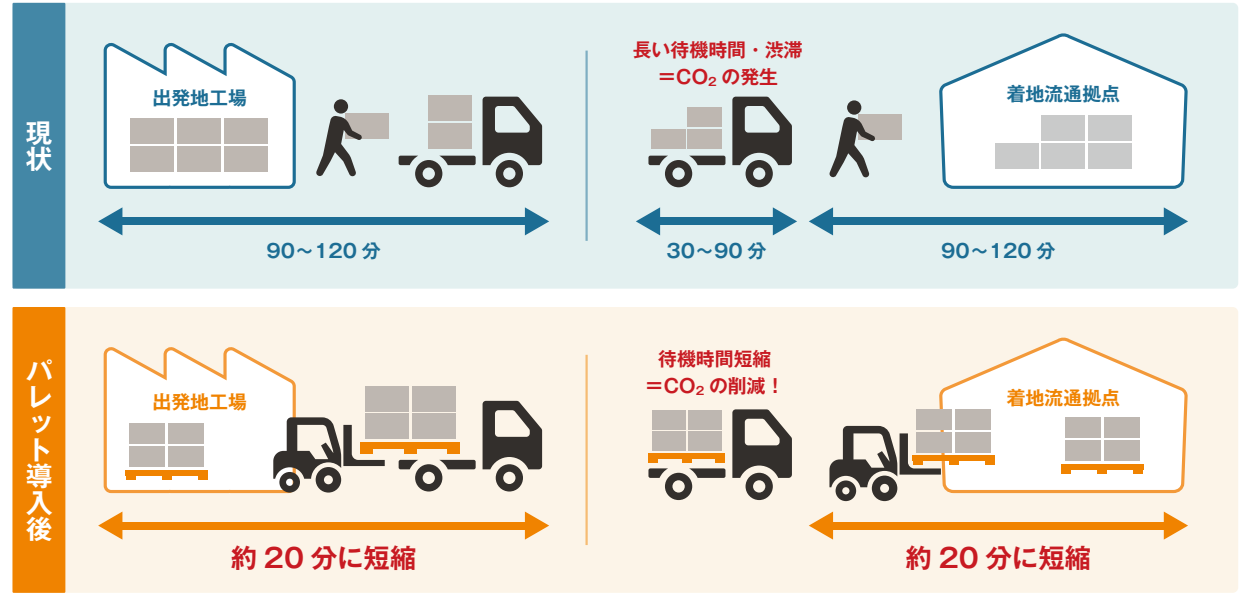
政府が推奨していることもあり
物流の問題の解決策として
パレットの活用が注目されています！

uprでは荷役やトラック待機時間を削減するパレット輸送をご提案します

パレットを使用することのメリット

- ☑ 荷役時間を短縮
- ☑ トラック待機時間削減

パレットによる積み下ろしへ切り替えることで安定的な製品配送に繋がります。



レンタルパレット

レンタルパレットの大きなメリットである「使いたいときに使いたい分だけ」という手軽さと、お客様の都合に合わせた利用ができるレンタルサービスをご提供します。

パレットをレンタルするメリット

- 閑散期で使用しないパレットの保管、管理の必要がない
- 輸送先からの回収コストを削減
- CO₂ 排出量削減

uprのレンタルパレットの特徴

- 各業界に合わせた豊富なパレットラインナップ
- 供給、回収ともに充実したネットワーク
- パレット保有枚数 497万枚 ※ 2023年11月時点



スマートパレット

パレットの動きを見える化するシステム

- ☑ パレット入出庫・在庫管理自動化
- ☑ パレット紛失対策

在庫・入出庫管理の自動化により、煩雑な紙伝票による管理がなくなると同時に、パレット紛失対策にもつながります。導入により、効率的なパレット輸送を可能にします。



パレットファインダー

パレットをスマートフォンのカメラでカウントできる専用アプリ

- ☑ パレット管理工数の削減
- ☑ 目視や手作業によるミスの減少

目視で行っていたパレット管理を自動化することでトラックの待機時間削減や人的ミスの減少に繋がります。パレットの情報はクラウドで一元管理できます。

バッテリー式フォークリフトの
さらなる効率化や課題解決を実現



高性能

高効率

カウンターバランスタイプバッテリーフォークリフト

ALESIS

リチウムイオン電池搭載フォークリフト

Ecology 地球にやさしいフォークリフト

Li-ION

充実の安心・安全サポートオプション PICK UP! >>

ALESIS専用オプション

S-Assist

安全&快適作業を実現する2つのアシスト機能

- ASSIST 1** 速度キープアシスト 三菱ロジスネクストオリジナル
加速・減速中に軽くアクセルを踏み込んだ状態にすることで、その時点での速度を簡単に維持して走行できる機能。
- ASSIST 2** 坂道停止アシスト
坂道発進時にずり下がらずに、ブレーキを軽く踏むだけで、その場で一時停止。安全に再発進することができる機能。



バッテリーフォークリフトの主流である鉛蓄電池にはこんな課題が…

充電時間が長い

長時間連続稼働には
不向き

補水などの
メンテナンスが必要

リチウムイオン電池で課題を解決!!

POINT 1 別置き急速充電器との
組み合わせで充電時間を短縮

別置き急速充電器を活用すれば充電時間を約1時間に短縮できる上、予備バッテリーへの交換作業による負担やタイムロスを減らします。

POINT 2 短時間補充電により
長時間連続稼働に対応

休憩時間などの短時間の補充電で連続稼働に対応できるため、繁忙期の急な作業追加などにも柔軟に対応できます。

POINT 3 メンテナンス不要で
コストと環境リスクを低減

精製水の補水作業などが不要でコストが低減でき、カドミウムや鉛などの環境負荷物質を使用しないため環境リスクも低減します。

リチウムイオン
バッテリー



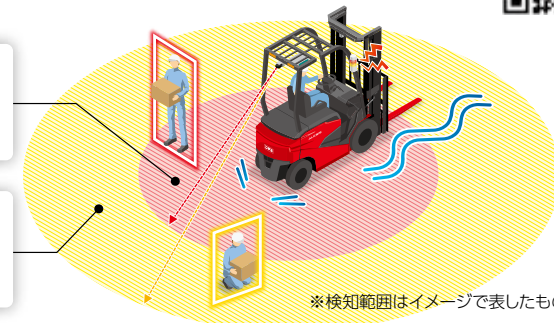
人検知警報システムOmniEye®×回生ブレーキ制御
衝突事故防止サポートシステム

半球カメラとAIにより人を検知するOmniEye®と回生ブレーキ制御の連携により、現場の安全性向上を実現



レッドゾーンで「人」を検出した場合
回生ブレーキにより、徐々に減速をしながら自動停止

イエローゾーンで「人」を検出した場合
回生ブレーキが働き、あらかじめ設定した速度まで減速



Rinova AGF

リノバ エージーエフ

自動運転リーチ式フォークリフト



Rinova AGFは、リーチタイプフォークリフトをベースとした搭乗兼用タイプ自動運転フォークリフトです。現場状況に応じて無人・有人運転の切り替えが可能で、作業に合わせた効率的な荷役・搬送作業を実現します。さらに、運転制御方式は、従来の磁気誘導方式に加え、レーザーSLAM式、レーザーリフレクタ方式をラインアップ。さまざまな物流現場で省人化と効率化を実現します。



Rinova
AGF
Automated Guided Forklift
搭乗兼用タイプ

お客様ニーズに対応する 運転制御方式をラインアップ

磁気誘導方式

磁気ガイド線を床面工事により埋め込み、誘導するタイプです。経路上の各マークにて実行される動作を、あらかじめ設定できるため、細かな荷役動作が必要な現場に最適です。

磁気ガイド線を埋め込むための床面工事が必要となります

レーザーSLAM方式

レーザーレンジファインダー(LRF)から取得した周辺物までの距離データと、あらかじめ取得した地図データにより、機台位置を推定するシステムです。磁気ガイドや反射板などの工事が不要なため、長距離搬送を伴う現場に最適です。

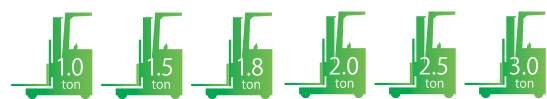
機台上部に設置したレーザーレンジファインダー(LRF)により、機台を制御するため、床面工事は不要です

レーザーリフレクタ方式

作業エリアに設置された反射板(リフレクタ)の位置をレーザーキャナで検出することにより、機台が高精度に自己位置を検知するシステムです。床面工事が不要のため、賃貸倉庫など床面工事ができない現場でも導入が可能です。

現場に設置したレーザーリフレクタを機台のキャナが検知し機台を制御します

搭乗兼用型 1.0 ~ 3.0 ton 充実のフルラインアップで お客様の作業をバックアップ



通路幅を最小限に抑え、最大6.0mの高揚高マストで保管量の大幅な向上に貢献します。

	1.0ton	1.2ton	1.5ton
搭乗兼用モデル	○	○	○

ラック・ストッカー
ラインアップ

Rinova AGFの 導入における適正条件

Rinova AGFの導入には、下記のような条件を満たすことが必要です(※5)。導入にあたっては、現場の改修工事を要する場合がございます。

- ※1: 棟間搬送がある場所では屋根等の防水対策が必要です
- ※2: 連続入庫60分が限度です
- ※3: 荷重中心500mmの場合、ラックストッカーの場合は1,500kgです
- ※4: ラックストッカーの場合は6,000mm以下です
- ※5: 下記は導入条件の一例であり、すべて適合する場合でも、スペース等の都合により導入できない場合がございます



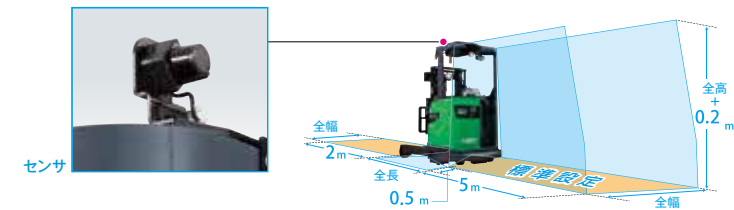
安全支援機能

センサ検出範囲(前方/後方)

前方と後方の障害物を検出するセンサを標準設定しました。

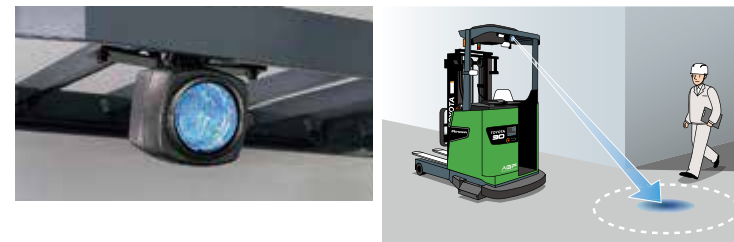
センサ検出範囲(側方/後方垂直方向) OPTION

側方と後方垂直方向の障害物を検出するセンサもオプションで設定可能です。



LEDブルーライト OPTION

フォークリフト後方の床面に、青色のライトを照射。周囲の作業者にフォークリフトの存在を気づかせます。



自動充電

自動充電(下方充電/側方充電) OPTION

従来の充電方法に加えて、自動充電ステーションや一時待機場所での停止を利用した、自動充電が可能。24時間の稼働に貢献します。



復旧操作・メンテナンス

簡単な復旧操作

異常時の復旧操作を車両のカラータッチパネルで簡単に行うことが可能。復旧時間の短縮を実現します。

異常復旧ガイダンス機能

5.7インチのカラータッチパネルを搭載。異常発生時、車両の状態や復旧方法をわかりやすく表示します。

車両上でのメンテナンス

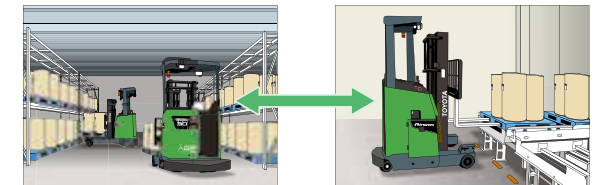
車両に設置されたカラータッチパネルで、一部の作業メンテナンスの操作が可能。地上制御盤までの移動が不要です。

システム投入位置番号

搭乗運転で復旧ポイントまで移動させたら、ルート情報が設定されたシステム投入位置番号を入力し、作業再開が可能です。



活用事例



工程間搬送



製品保管兼入出庫



出荷荷揃え
(段積み・段バラシ)

導入事例

QRコードを読み込むとAGF導入事例動画がご覧いただけます。

食品製造業

1名の省人化と作業の均一化を実現し、資材のトレーサビリティを確保

ゴールドバック株式会社
恵庭工場様

運輸業

時間帯・作業内容に応じたRinova AGFの活用で倉庫内作業を自動化

日本通運株式会社
新札幌物流センター様

カスタマーズセンター東京・大阪では AGFを常設展示



CC東京 ⇒ 1F



CC大阪 ⇒ 2F

カスタマーズセンター東京ページ

カスタマーズセンター大阪ページ



CC東京・CC大阪とも

開館日・時間

開館時間/10:00~17:00 休館日/日・月・祝・年末年始

<http://www.if-customers.com/access/>

予約方法

HPで空き状況確認のうえ、電話予約 <http://www.if-customers.com/apply/>

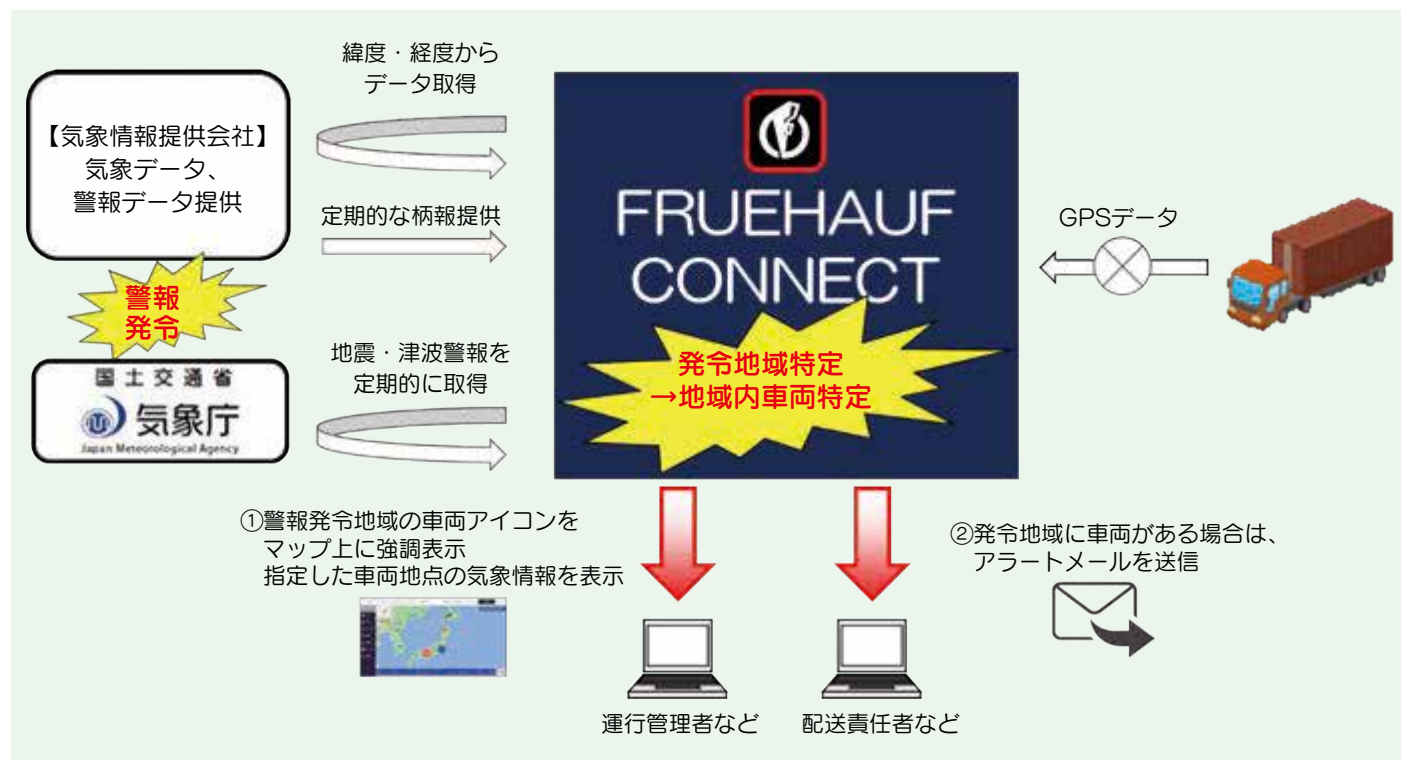
CC東京 tel 047-327-3500 CC大阪 tel 06-7167-2950

トレーラ位置管理システム FRUEHAUF CONNECT

トレーラ位置情報を活用し、物流の効率化、メンテナンスのサポートサービスを提供

FRUEHAUF CONNECT は、昨今、物流業界が抱えている「ドライバー不足」や「働き方改革」といった社会課題に対し、センシングやコネクテッド技術を活用することにより課題解決に貢献するサービスです。
今回、第一弾となる「トレーラ位置管理システム」では、気象庁などから提供される災害データを取得し、発令地域および地域内車両を特定してお客様へ通知することにより、位置情報管理だけでなく、安否・安全確認ツールとして活用できます。

◎サービス概要



本製品は、LTE 回線にてクラウドサーバーに位置情報などのデータを上げ、インターネット回線を通じて PC・スマホにてデータの閲覧およびダウンロードを可能としたシステムです。

◎車両搭載用機器



◎システム機能一覧

システム機能	
WEBシステム	1 リアルタイム位置情報
	2 移動トレース表示
	3 データCSV出力
	4 車両管理情報
スマホアプリ	5 現在位置簡単検索
	6 車検証QRコード読み
Eメール通知	7 稼働状況お知らせメール
	8 長期停車アラート
	9 点検/車検お知らせメール
	10 バッテリー残量低下お知らせメール バッテリー切れ直前メール
	11 速度超過アラート
	12 気象・災害警報アラート

◎WEB システム

1. リアルタイム位置情報

最後に位置情報を取得した場所を表示します。



警報地域車両表示：ON

気象警報発令地域にある車両のアイコンがアラートアイコンに変化します。

また、気象警報内容を画面下部でテロップ表示します。



気象表示：ON

マップ上でクリックした地点の7日分の天気予報を表示します。



最大震度 5 以上の地震発生時

下の画面を表示して地震発生情報をお知らせします。

※表示期間は地震発表から 1 時間です。



※マップ上の震度および車両情報上の震度は右表の配色となります。
基本的には気象庁震度階級に準じており、配色を合わせています。

マップ上	
震度 5 弱	黄 5-
震度 5 強	橙 5+
震度 6 弱	赤 6-
震度 6 強	茶 6+
震度 7	紫 7

2. 移動トレース表示

指定した期間の移動履歴を表示します。



警報地域車両表示 ボタンは表示されません。

気象表示：ON

マップ上でクリックした地点の7日分の天気予報を表示します。

※過去の天気を表示することは出来ません。

3. データ CSV 出力

指定した条件の元、トレーラから発信されたデータを CSV 形式で出力します。

4. 車両管理情報

トレーラの各種情報を入力することで、定期点検や車検時期の管理が可能です。

これらの情報を基に、お客様へお知らせメールを送信することも可能です。

5. 現在位置簡単検索

スマホにアプリをインストールすることで、トレーラ位置情報をアプリ内表示することが可能です。



6. 車検証 QR コード読み

車検証の QR コードをスマホで読み込むことで、本システムの車両管理機能の項目に反映させることが出来ます。

7. 稼働状況お知らせメール

車両の稼働状況を集計し、毎月二回、定時メールにてお伝えします。

8. 長期停車アラート

指定した日数を超えて同じ場所に停車しているトレーラを長期停車車両としてお知らせします。

9. 点検/車検お知らせメール

車両管理機能に入力したデータを基に、指定した日数前に点検や車検の期日をお知らせします。

10. バッテリー残量低下お知らせメール/バッテリー切れ直前メール

車両の運用状況によりデータ取得間隔を変更します。また、電源調整器のバッテリー電圧が低下した場合に、スモールランプ ON のお願いをアラートとしてお伝えします。

11. 速度超過アラート

90km/h 以上で走行した可能性のある車両を毎週定時に通知します。

12. 気象・災害警報アラート

下記の警報が発令されている地域にある車両を通知します。
◇過去 30 分以内に震度 5 以上を観測した地域
◇気象警報 (警報または特別警報) が発令されている地域
毎時 00 分・20 分・40 分の 20 分毎に 1 回、警報の有無を確認し、警報がある場合はメール配信します。

業界最短の3分55秒洗車、水使用量を半減 トラック・バス用の大型洗車機

カミオン カスタム

◎洗車の機械化で“430 運行”に貢献、トラックの走行距離の寿命をのばすことも可能

大型洗車機「カミオン カスタム」は、車両の大きさ、形状を把握するセンシング機能の向上やブラシ動作の改良により、洗車時間はわずか3分55秒。拭き上げ時間を含めてわずか数十分で洗車を終えることができます。

4時間走行したら30分の休憩を取るという“430 運行”などにより、ドライバーの時間管理が徹底される中、「洗車の機械化」で業務時間を短縮。労働環境の改善が図れます。ドライバーは、より運転に専念してもらうことで、安全運転、経営の効率化にもつながります。

また、最新のウォーターコントロール技術で、節水性能は業界トップクラスの水準を達成しており、大幅な節水で水道料金の削減が図れます。

さらに、下部洗浄装置により冬場、道路にまかれる融雪剤を簡単に洗い流すことができます。定期的に下部洗浄を行うことで、トラックの走行距離の寿命をのばすことが可能です。



専用ページで紹介動画をご覧いただけます。

◎特徴・導入効果

●従来比20%短縮の3分55秒で洗車可能

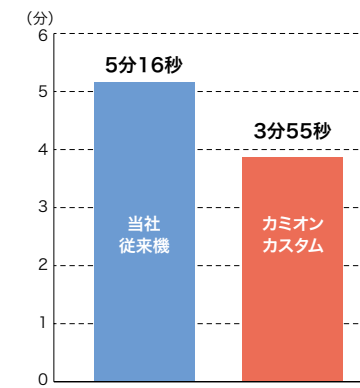
センシング能力の向上とブラシ動作の最適化により、洗車スピードが大幅に向上しました。洗車時間は当社従来機種と比べて約20%短縮。業界最短の3分55秒*で洗車できます。

1時間程度かかっていた手洗い洗車と比べると、洗車時間を90%以上短縮できます。

*10t・12m ボディのトラックを1往復水洗い洗車した場合の時間



ブラシ動作の最適化などで洗車スピードを向上させた。



●水使用量を半減しランニングコスト削減

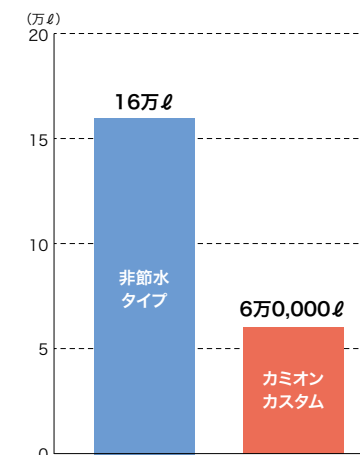
最新のウォーターコントロール技術により、洗浄部分に合わせた水噴射を実現し、使用する水を大幅に削減しました。水使用量は業界トップクラスの約150ℓ*。節水機能を搭載していない非節水タイプ大型洗車機と比べて半以下の水準です。

例えば、100台の10tトラックを保有する運送事業者の場合、月4回の洗車を想定すると水使用量はこれまでの月間16万ℓから6万0,000ℓへ削減することが可能です。

*10t・12m ボディのトラックを1往復水洗い洗車した場合の水量



最新のウォーターコントロール技術で水量を調整。

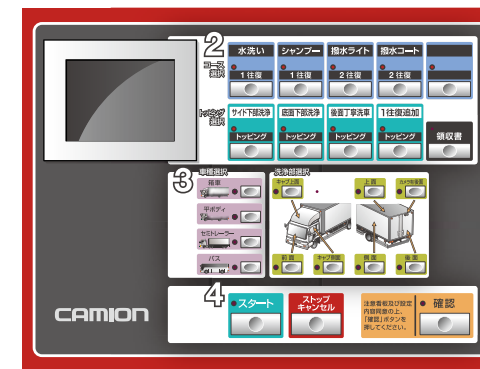


●下部洗浄で走行距離の寿命をのばすことが可能

下部洗浄装置により冬場、道路にまかれる融雪剤を簡単に洗い流すことができます。融雪剤には、塩化カルシウムが含まれているので、洗い落とさないとさびを誘発。地域の気候や冬場の運送頻度によって違いがあるので一概にはいえませんが、定期的に下部洗浄を行うことで、走行距離の寿命をのばすことが可能です。



固定式下部洗浄装置



操作パネル。本体搭載の実績管理システムで、洗車記録を管理することも可能

Sea & Rail SERIES モーダルコンビネーション型輸送サービス



鉄道輸送と海上輸送を融合させた国内複合一貫輸送サービス。
NXの総合力で、持続可能なロジスティクスを実現します。



物流の2024年問題

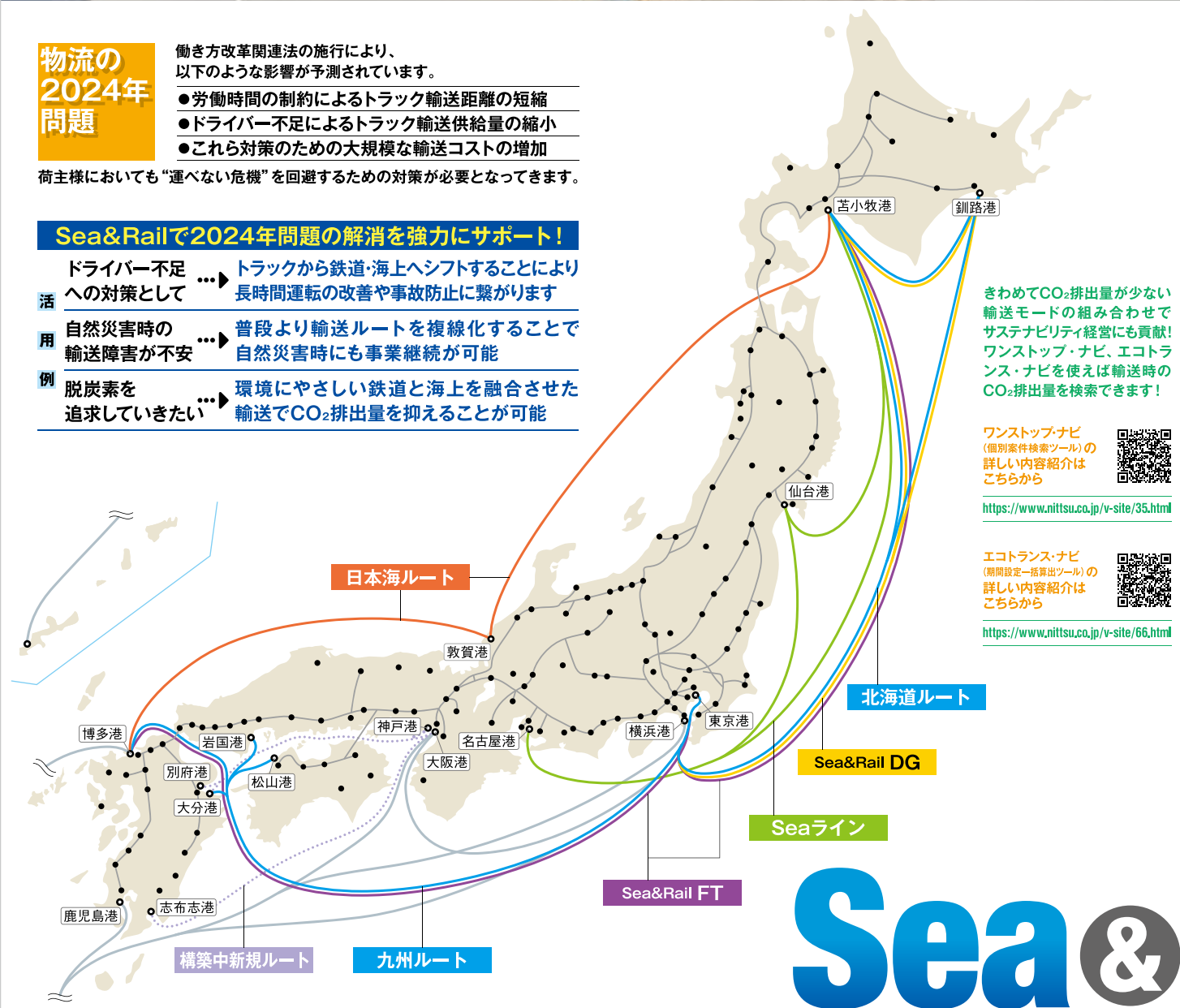
働き方改革関連法の施行により、以下のような影響が予測されています。

- 労働時間の制約によるトラック輸送距離の短縮
- ドライバー不足によるトラック輸送供給量の縮小
- これら対策のための大規模な輸送コストの増加

荷主様においても“運べない危機”を回避するための対策が必要となってきます。

Sea&Railで2024年問題の解消を強力にサポート！

- 活用** ドライバー不足への対策として → トラックから鉄道・海上へシフトすることにより長時間運転の改善や事故防止に繋がります
- 用途** 自然災害時の輸送障害が不安 → 普段より輸送ルートを複数化することで自然災害時にも事業継続が可能
- 例** 脱炭素を追求していきたい → 環境にやさしい鉄道と海上を融合させた輸送でCO₂排出量を抑えることが可能



きわめてCO₂排出量が少ない輸送モードの組み合わせでサステナビリティ経営にも貢献！
ワンストップ・ナビ、エコトランス・ナビを使えば輸送時のCO₂排出量を検索できます！

ワンストップ・ナビ
(個別案件検索ツール)の詳しい内容紹介はこちら
<https://www.nittsu.co.jp/v-site/35.html>

エコトランス・ナビ
(期間設定一括抽出ツール)の詳しい内容紹介はこちら
<https://www.nittsu.co.jp/v-site/66.html>

Sea & Rail

北海道ルート

九州ルート



日本海ルート



Seaライン



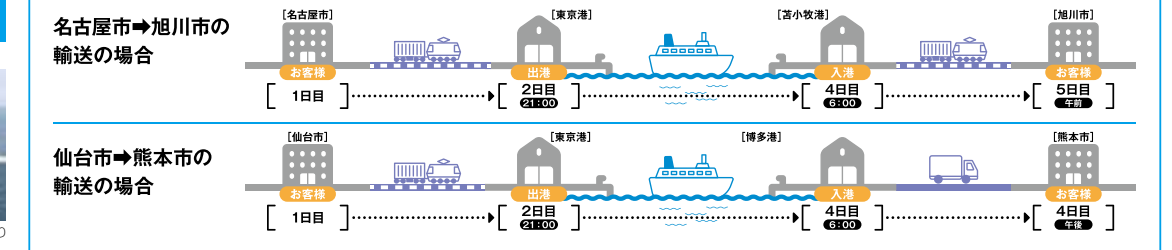
Sea&Rail DG

危険品輸送

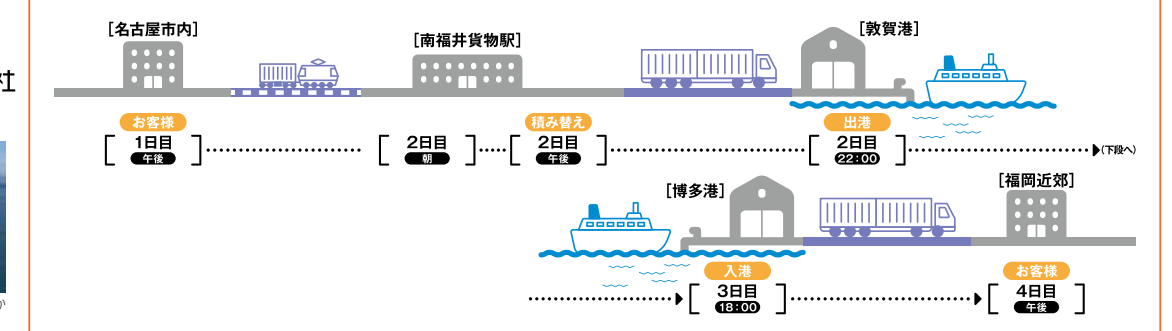
Sea&Rail FT

国内中継輸送

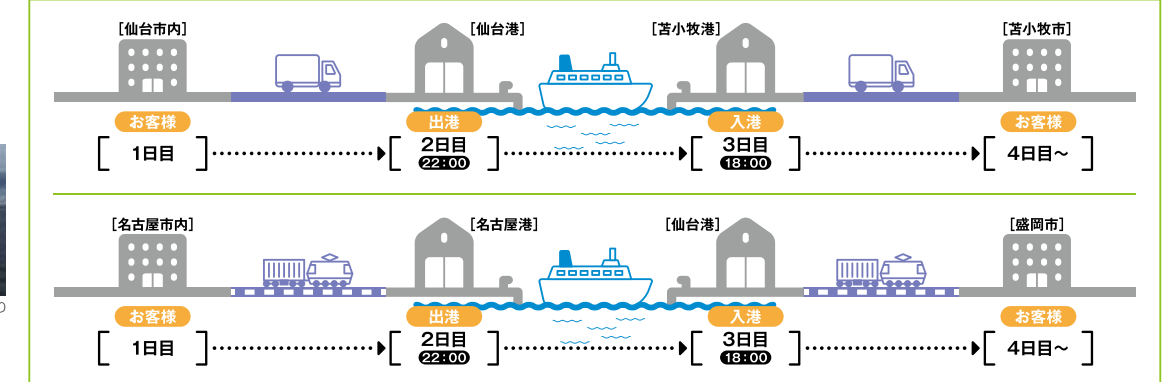
【北海道⇄東京/東京⇄九州】を結ぶルート



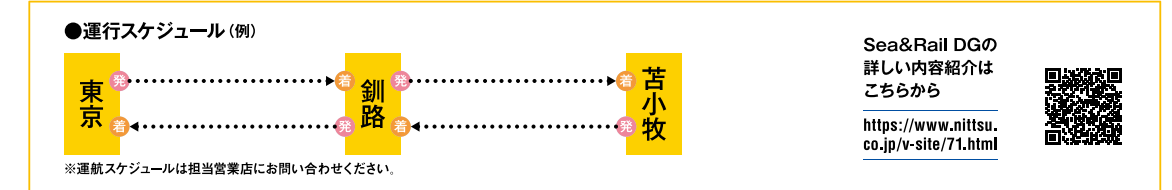
日本海沿岸【博多⇄敦賀⇄苫小牧】を結ぶルート



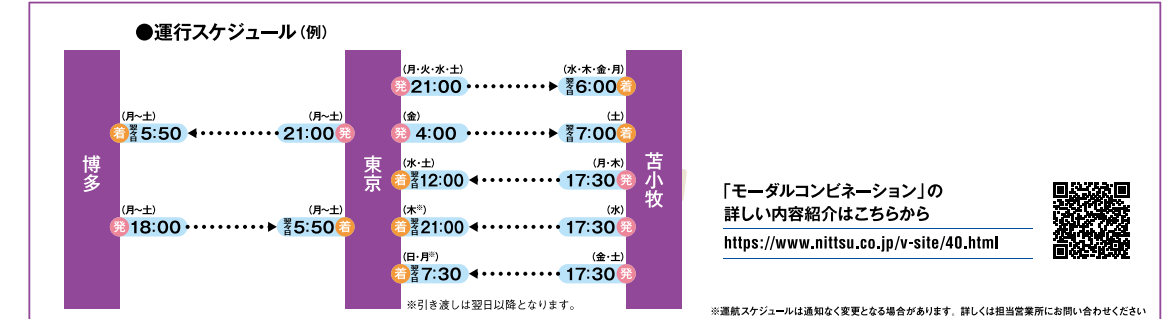
太平洋沿岸【名古屋⇄仙台⇄苫小牧】を結ぶルート



北海道発着の危険品も「Sea&Rail」で輸送可能！



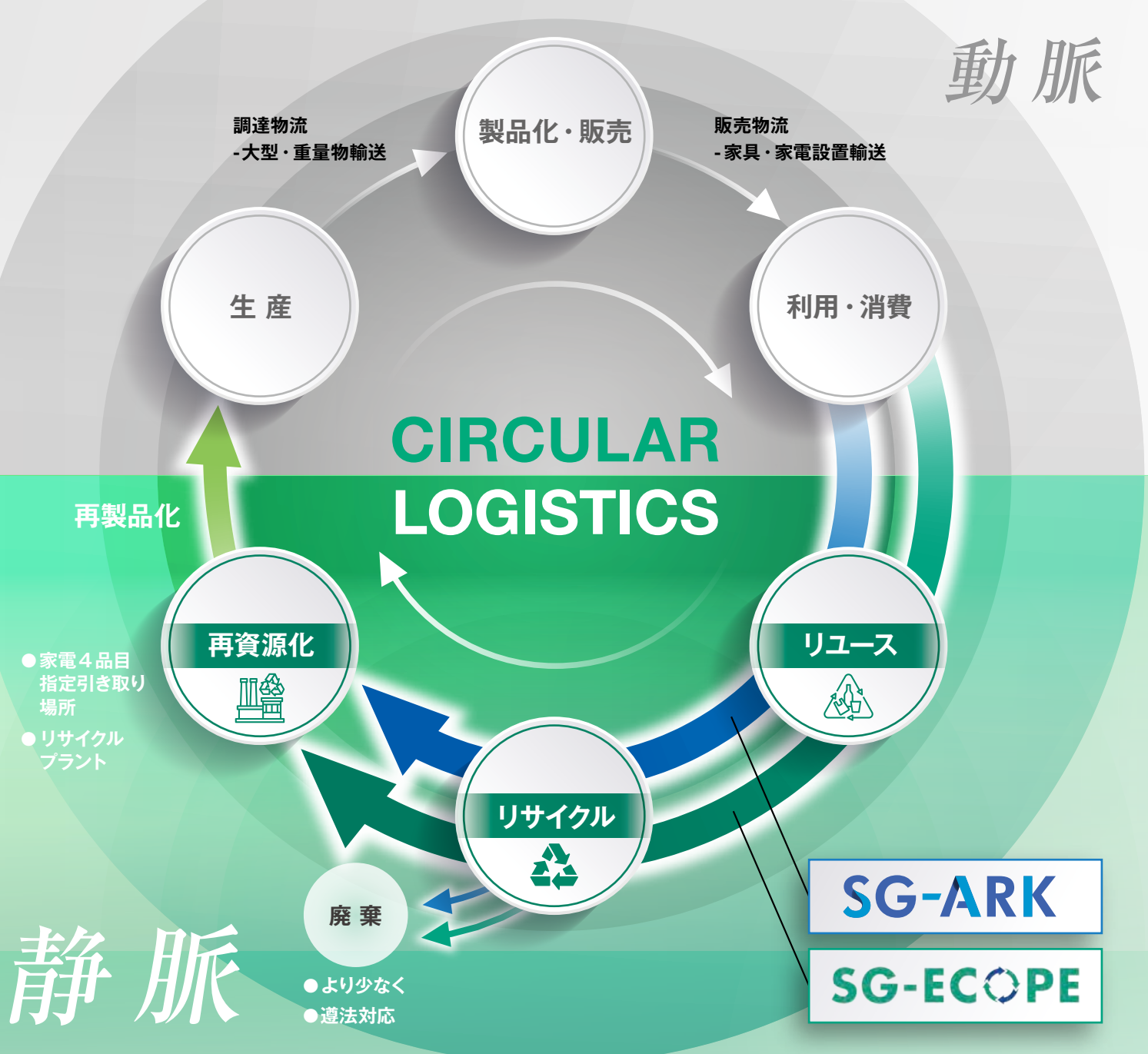
日本から、海外へ。⇄ 海外から、日本へ。



循環型社会を実現する物流ソリューション サーキュラーロジスティクス

生産者から消費者へと届けられる「動脈物流」と、廃棄物の回収など消費者から生産者へ届けられる「静脈物流」。この2つをつなぐことで、物流の領域から循環型社会の実現を目指す。それがSGムービングの新たな挑戦、「サーキュラーロジスティクス」です。

動脈



サーキュラーロジスティクスは「提案型」のソリューションです

調達・販売に関わる物流と同じく、お客さまのお悩みを伺い、潜在的な課題を発見してソリューションをご提案するのが「サーキュラーロジスティクス」の強みです。

- 消費者からのリサイクル回収サービスを始めたいが、遵法性に不安がある
- 自社で複数の収集運搬業者や廃棄物処理業者を管理することに限界を感じる
- 廃棄物処理の手続きがアナログなので、全体像が把握できない
- SCM全体でどれだけの削減効果があったのか、しっかりと数値化したい

サーキュラーロジスティクスを形作る、2つの静脈物流ソリューション

SG-ARK

家電4品目のリサイクル回収トータルサポート

詳細はこちらからご覧ください



収集運搬業者の検索・手配から運搬状況トレース、事務手続きなど、家電4品目のリサイクル回収をトータルサポートするプラットフォームサービスです。大型家具家電の設置輸送サービスと、家電リサイクル業務を効率化するサービスを一括提供します。SG-ARKのご利用で、運搬、回収、管理が驚くほど簡単に運用できます。

家電リサイクル法による小売業者の4つの義務

- 1 排出者からの引き取り義務*
- 2 製造業者などへの引渡義務* (指定引き取り場所への持ち込み)
- 3 収集運搬料金の公表義務並びに収集運搬料金及びリサイクル料金の応答義務
- 4 家電リサイクル券の交付・管理・保管義務 (3年)

*引き取り・引渡を委託する場合、委託先は廃棄物処理法上の必要な許可をもっている必要があります。引き取り・引渡義務が遵守されない場合は、経済産業大臣・環境大臣による勧告・行政処分、刑事罰の対象となり得ます。

SG-ARKは、これら4つの義務に対応したサービスです。コンプライアンスと業務効率化の両立を実現します。

SG-ARKの強み

- 業務負担軽減**
 - 運搬業者との電子承認
 - 効率的なイエロー券の導入
 - 会計処理の一括管理
- 業務フロー圧縮**
 - 業者選定やリサイクル券管理、会計処理などが不要になることで、業務フローを大幅に圧縮
- 管理コスト削減**
 - 電子化により、収入印紙代や郵送代、契約書管理の諸経費や人件費などを大幅に削減可能
- コンプライアンス**
 - 家電リサイクル法の遵守を前提としたサービス設計により、法令違反のリスクがなくなる

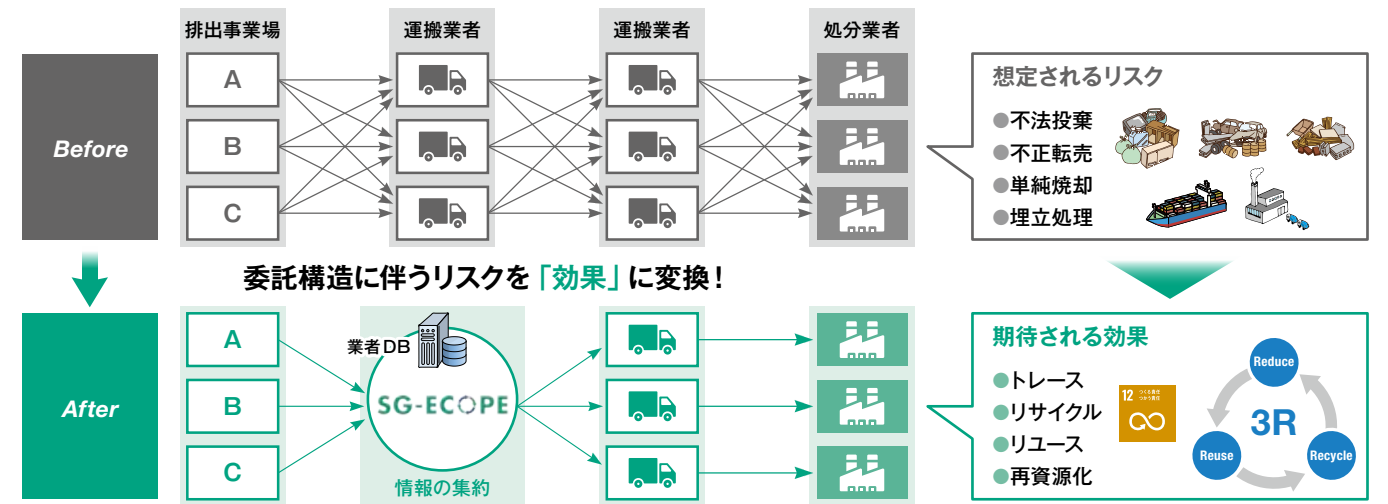
SG-ECOPE

廃棄物処理を一元管理するDXプラットフォーム

詳細はこちらからご覧ください



廃棄物処理に関する業者選定、契約などを一元管理し、排出企業の業務負担を軽減。廃棄物処理法に則ったチェック・通知機能により、企業のコンプライアンス向上を実現します。循環型社会の形成に貢献するクラウドシステムです。



イーソーコグループ

未来をつくる Z 世代の人財育成と輩出を強化
物流不動産ビジネスで収益多様化を図る



◎「シン・物流（物流不動産ビジネス）」の業界化元年

イーソーコグループは、物流を基軸に不動産、建築、金融、IT、教育、人財などを掛け合わせて事業領域を広げる「シン・物流（物流+αの物流不動産ビジネス）」で、ネットワークを拡大してきました。

2024 年は、「シン・物流」の業界化元年と位置づけています。キーワードは「チャンス！チャレンジ！チェンジ！」

変化が迫られる激動の時代だからこそ、変化を利用し味方につけ、ピンチをチャンスに変える「シン・物流」躍進の年にします。

◎注目される物流の 2024 年問題

昨年末「物流の 2024 年問題」をテーマに開催した 2 つのセミナーは、多くの方にご参加いただき、一大関心事であること、中小物流企業にとって業務改革が喫緊の課題であることを再認識しました。

●JALPA セミナー（2023/10/17） 170 名参加

国土交通省、NX 総合研究所、プロロジス、トラボックスの有識者



●物流不動産協同組合セミナー（2023/12/5） 180 名参加

今村 雅弘氏（自由民主党 物流調査会会長）、黒川 久幸氏（東京海洋大学 教授）、大谷 巖一氏（物流不動産協同組合 理事長）、鈴木 清氏（物流不動産協同組合 賛助会会長）



大谷のセミナー動画

「激動をチャンスに変える中小物流会社の戦略ビジョン」

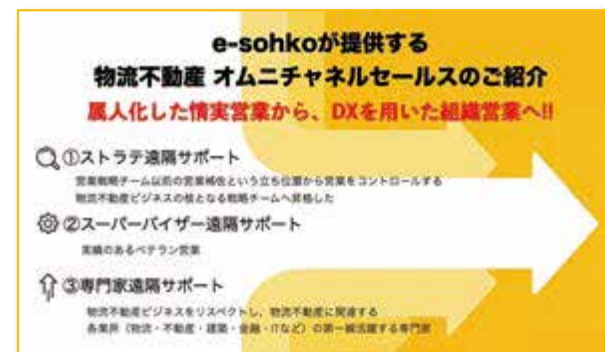


◎独自の「オムニチャネル営業」で業務改革を推進

2024 年問題は、物流+α の多様な収益を目指す「シン・物流」を始める絶好の機会にもなり得ます。イーソーコグループでは、業務改革の手法として、DX を用いた独自の「オムニチャネル営業」の仕組みを構築しました。

営業担当者が、いつでもどこでもストラテジー（本社営業サポートチーム）や物流不動産の各種専門家のアドバイスを受けられる仕組みで、若手社員も成果を挙げやすくなります。

●早わかり！独自の「オムニチャネル営業」とは？



◎物流不動産ユーティリティープレイヤー

物流不動産ビジネスの鍵を握る“人”を大切にしています。2018 年に新卒採用を始めて以降、ジョブローテーションで多動力を備えた「物流不動産ユーティリティープレイヤー」の育成に注力してきました。女性営業が中心となって Tiktok を始めたほか、各種 SNS の発信も Z 世代の若手中心に創意工夫しながら発信しています。

マルチに活躍できる物流不動産ユーティリティープレイヤーのニーズはますます高まっています。今年は採用 HP を開設し、より多くの学生にシン・物流（物流不動産ビジネス）の魅力を発信していきます。

◆若手社員の奮闘記「JOURNAL」

◆公式 SNS
Facebook Instagram Tiktok X (旧・Twitter)



グループの出資会社は 59 社になりました。異業種との協業によるシナジーで、協業の数だけ物流不動産ビジネスの領域が広がっています。

◎今後の展開

イーソーコドットコム代表の早崎幸太郎は、ハワイ州ホノルルで行われた太平洋電気通信協議会（PTC）主催のフォーラムで、英語で物流不動産ビジネスを紹介しました。これを機にグローバル展開も見据えています。倉庫・物流施設情報ポータルサイト「イーソーコ.com」の英語版への問合せも増えており、海外から日本へ進出する企業向けに倉庫マッチングサービスを提供する会社「Logistics-On」の設立を予定しています。

今年は攻めの一年。物流不動産ビジネス 1Day セミナーを開催するなど発信力を強化して、熱意のある全国の物流企業と提携を進めてまいります。

物流団体

企業が結集する物流団体は ある時は政策・制度について提言し あるいは政府にモノを申し 課題を克服するために調査・研究を行い 事業の発展を期して実証・支援事業を行い またある時は認知度向上を目的に広報活動を展開しています。

そして何よりも 教育・研修活動に注力しています。最近では 学生をはじめ次世代を担う人たちに 向けた寄付講座などにも積極的に関与しています。

「等身大の物流」と物流業の魅力を伝える活動

物流連は1991年7月に設立され、今年、創立32年を迎える。設立の目的は、「陸海空の物流事業者が広く結束し、物流業に係わる横断的課題について施策を確立し、推進すること」（定款より抜粋）。この「横断的課題」をひと言で表すなら、「物流を広く社会・一般から等身大で見ていただく」ことだろう。等身大の物流が社会一般から理解されるならば、その維持と強化のために多くの協力者や人材が集まり、業界の発展、社会インフラとしての機能強化にも繋がる。事実、ここ数年頻発する台風や豪雨、さらに2020年の新型コロナウイルス感染症により、生活を支え、社会の重要インフラである物流の理解は浸透しつつある。物流連と会員団体が協力し、多くの若い世代に対して物流業の社会的重要性や先進性伝える活動の一端を紹介する。

◎大学寄附講座

当連合会でも最も歴史ある取組みのひとつでもあり、1995年に開始して以降、毎年2~4大学で、毎回100~300名強の学生が受講している。「物流」をテーマにした講座を開講し、物流の認知度向上を図るとともに、業界への優秀な人材確保にもつながっている。講義は物流連会員企業の幹部社員がそれぞれのテーマで講義を行う。会員には若手社員の聴講を認めており、毎回5名前後が参加している。コロナ禍ではオンライン開催もあったが、2023年からは対面で実施し、講義後の質問と回答を後日一覧にまとめ閲覧可能とするなど、理解を深めるための配慮もしている。



大学寄附講座 青山学院大学

◎物流見学ネットワークで物流見学施設を斡旋して紹介

小学生・中学生・高校生・大学生および学校関係者に対し、物流業に対して広く認識を深めて頂くため、2007年から全国各地の物流施設の見学を物流連のホームページで斡旋・紹介している。コロナの影響で一定期間中止をせざるを得なかったが、コロナ終息に伴い、登録されている物流施設を更新・拡充し、掲載数58拠点で2023年9月29日より再開した。



物流見学ネットワーク

◎小中高生の職場体験・物流学習への協力

毎年、中学校の職場体験の受入れは広く行っている。要請に応じて都内各地から当連合会を訪れ、物流の基礎的な説明とともに電話の取り方、名刺の渡し方等ビジネスの場面を体感し、物流博物館や貨物ターミナルの見学施設を訪問するなど、3日程度のカリキュラムを作っている。最近、「働くとは」というテーマで、討議形式で勤労の大切さやその社会的な意味などを考える講義も取り混ぜ、最終日には手作りの修了証を授与するなど、体験した側にとって満足度の高いものとなるよう工夫もしている。また、首都圏の小中高生および、全国各地より修学旅行で上京する中高生の自主研究として半日程度、当連合会を訪問することもある。そこで、物流業に対して広く認識を深めて頂くために物流学習として講義を行い、物流の基礎知識を学ぶ場を提供している。毎年、2~3校の実績がある。ご要望によっては、関東近郊への出張授業も行っている。



職場体験



物流学習

◎会員企業合同での「物流業界インターンシップ」

当連合会の人材関連の活動で、会員と共に最も人手をかけている取組みだろう。2014年から毎年夏から秋口に、会員企業30社程が合同で行うインターンシップで、「合同説明会」及び「企業訪問（3日間）」、まとめとしての「インターンシップ総括」の3部構成で連続5日間実施している。コロナ禍では、対面実施が厳しくなったことから、オンライン開催なども取り入れ、状況に合わせて運営内容を変更している。2023年は第10回を迎え、オンラインと対面のハイブリッド形式で実施し、参加企業は合計30社1団体、参加学生数は合計335名となった。



物流業界インターンシップ（講演会）

◎合同企業説明会「物流業界研究セミナー」

現在、当連合会の活動で最も多くの参加者を集めるイベントがこのセミナーと言え、2015年1月に第1回を東京で合同説明会を開催した。2019年からは大阪でも実施し、2020年より、オンライン開催も実施した。最大で1300名の学生が参加した年もある。内容は1dayの完結型で、就職解禁前に物流業界に興味ある学生を集めて各社がブースでプレゼンを30分刻みで10クール程度行うというものだ。その他にも、特別プログラムとして、若手社員によるパネルディスカッションやタウンホールミーティングなど学生の満足度を高めるイベントを盛り込んでいる。最大で47社（物流連の企業会員は現在84社）と会員の半数強が参加する看板イベントとなり、今年もオンライン開催2回、大阪、東京会場で実施する。



物流業界研究セミナー



パネルディスカッション

◎実行部隊は「ロジスティクスPRグループ『物流いいところみつけ隊』」

インターンシップや業界研究セミナーなど大きなイベントを取り仕切るのは、連合会の事務局とともに、「みつけ隊」と略称される若手のプロジェクトチームである。現在26社35名程度の20代が中心の会員有志で構成され、発足10年で既に第4、第5代目に引き継がれている企業もある。発足時より「一社ではできないが物流連ならできる活動」を種々提案し、最初に実行したのがこの2つの取組みだ。年齢も近いため、学生の気持ちや状況も良く分かり、手作り感満載の一連の取組みをいつも支えてくれている。物流の魅力を自らの言葉で伝え、次の世代を作っていく流れが、地道に続ける中から生まれてきているのかも知れない。



物流いいところみつけ隊全体会合（オンライン併用）

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 産業界に役立つ価値を創造し、提供を続ける 「ロジスティクスのナショナルセンター」へ

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）は、持続可能な物流・ロジスティクスを目指し、調査・研究・開発、普及など、さまざまな活動を進めています。トラックドライバーの働き方改革を推進する法律の施行にともない、物流の停滞が懸念される状況のなか、政府においても、「物流革新に向けた政策パッケージ」ならびに「物流革新緊急パッケージ」が策定されるなど、対策が喫緊の課題とされています。新型コロナウイルスに関わる制限緩和以降、国内外において経済活動が活発化しているなか、新型コロナウイルスに関わる制限緩和以降、国内外において経済活動が活発化しているなか、物流需要の増加に対応しつつ、物流を持続可能なものにするためには、サプライチェーンに関わるあらゆるプレイヤーが、商慣行の見直し、物流の効率化、そして行動変容を進めていくことが重要です。

◎ロジスティクスコンセプト 2030

JILSでは、産業界・社会に対し、「2030年に向かって我々がこれから目指すべきロジスティクスのすがたを描くこと」を目的として、「ロジスティクスコンセプト 2030」を作成し、発表しています。

本冊子では、次世代の産業と社会を築くためにこれから我々が行うべき7つの提言としてまとめております。なお本冊子（PDF）は、以下 URL よりダウンロードすることができます。

<https://www1.logistics.or.jp/news/detail.html?itemid=402&dispmid=703>



◎JILS 会員アンケート調査

JILSでは会員を対象に、ロジスティクスの現状や課題、今後の事業展開に向けたニーズ、JILS 活動の評価確認を主な目的として、アンケート調査を実施しています。現在、2023 年末に実施した本調査の集計結果概要を公表しております。会員各位よりお寄せいただいた貴重なご意見をもとに、JILS は今後も事業を展開してまいります。

アンケート結果概要は、以下 URL よりご覧いただけます。

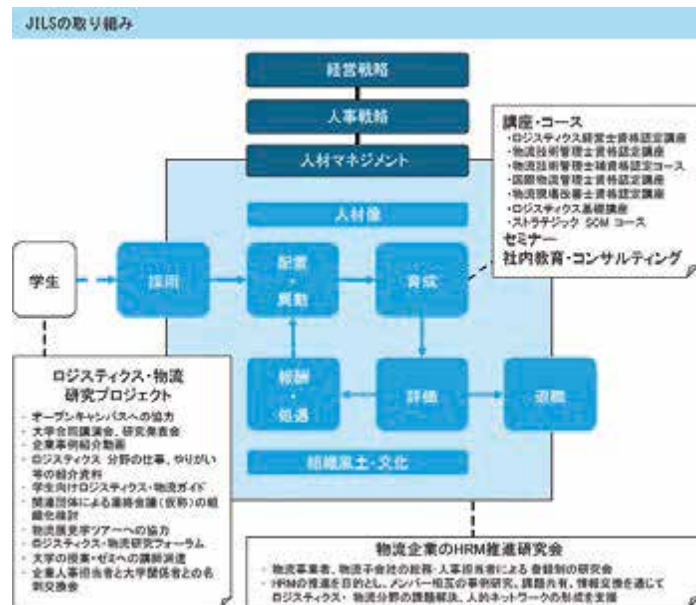
https://www1.logistics.or.jp/Portals/0/pdf/2023Surveyresults_JILSmembers.pdf



◎人材育成支援ガイド

JILS は、「ロジスティクスの高度化と普及推進を通じた、わが国産業界の発展と国民生活の向上、国際社会への貢献」をミッションとして、企業の生産性向上に寄与するとともに、多くの企業の連携・協働によって社会共有価値を創出し、持続可能な発展を目指します。

JILS ではこのための活動として、ロジスティクスに関する調査及び研究、企画の立案および推進、人材の育成及び指導等を実施しております。



「人材育成支援ガイド」は、人材育成の手引きと事業の開催予定をまとめた冊子です。物流やロジスティクス、SCM に関する人材育成の課題に本ガイドをご活用ください。

https://www1.logistics.or.jp/Portals/0/jinzai_guide/jinzai_ikusei_guide_2024s.pdf

同時に、我々は、国連が 2030 年をゴールと定めた SDGs に掲げられているような持続可能な社会を実現することを求められています。そのために、企業においては、活動の方向性を定める指標として、これまでの財務指標に加えて、非財務指標が重視されるようになってきました。近年 JILS は、「ロジスティクスコンセプト 2030」や「メタ・ロジスティクス」において、企業価値の向上と社会課題の解決を目標とするロジスティクスの重要性を訴えてきました。産業構造の変容と企業連携の見地から重ねて言及してきたことをふまえて、JILS は、「次代の物流システム構築と持続可能な社会の実現」「人的資本経営の推進と企業価値向上」「LX (Logistic Transformation) による全体最適の実現」の 3 つを 2024 年の活動方針として掲げ、活動してまいります。

◎JILS 活動のご紹介

①国際物流総合展 2024 (展示会)

国際物流総合展は、アジア最大級のロジスティクス・物流専門展示会として、1994 年に当協会の前身となる団体が主催していた二つの展示会を統合し現在の形となりました。この度、本年 9 月に、「国際物流総合展 2024 (以下、本展)」が、9 月 10 日 (火) から 13 日 (金) までの 4 日間、東京ビッグサイト (東京国際展示場) 東展示棟で開催されます。本展は、「持続可能な道、物流の明日を育む」をテーマに、過去最大の規模 (来場登録予定者数: 70,000 名、展示予定規模: 550 社/2,800 ブース) での開催を予定しております。また、山積する様々な課題解決のヒントを得る場として、併催企画の実施も予定しております。本展は、ロジスティクスの高度化・効率化に関わる最新の物流システム機器や ICT ソリューションが展示され、多数の国内外のロジスティクス関係者が、一堂に会する貴重な場となります。今回も、ロジスティクス・物流の課題解決に向け、来場者、出展者双方にとって有意義なイベントとなるよう準備を進めております。

本展の開催概要は、以下の HP よりご覧いただけます。
<https://www.logis-tech-tokyo.gr.jp/lt/index.html>



国際物流総合展 過去開催の様子

②物流コスト調査

物流コストの適正化は、マクロ的には物価の安定に寄与するとともに、ミクロ的には企業経営の根本課題として認識され、きわめて重要な意義をもっています。しかし、物流コストの全容に関して公にされたデータは限られており、有価証券報告書に記載された支払運賃など、物流にかかわる費用の一部を集計した不完全な資料にとどまっているのが現状です。

本調査は、このような状況のもと、通商産業省 (現 経済産業省) の『物流コスト算定活用マニュアル』に準拠して物流コストの実態把握を行うとともに、文献調査や国際比較など、多面的な調査により日本の物流コストに関する総合的な基礎データを蓄積すること、物流コスト管理に資する情報提供を行うことなどを目的として実施しております。

●売上高物流コスト比率の傾向と、2023 年度調査結果 (速報値)

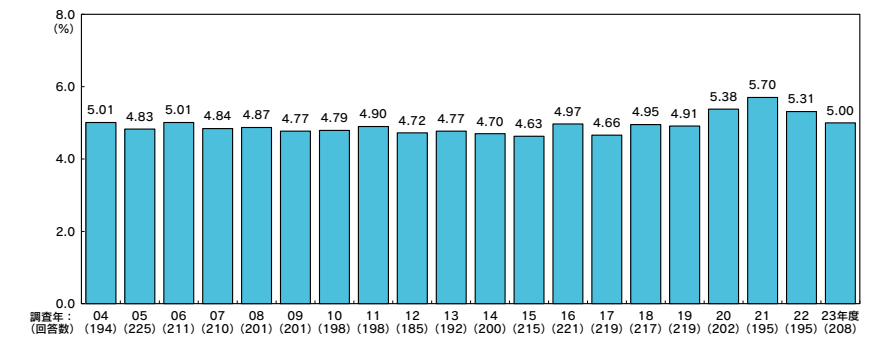
売上高物流コスト比率とは、各企業の物流コスト金額を売上高で除した値です。当調査では、回答企業の売上高物流コスト比率を相加平均し、それを日本における全産業の物流コストの指標として分析いたしました。

図表は、売上高物流コスト比率の推移 (全業種) を示したものです。2023 年度調査 (有効回答 208 社) の売上高物流コスト比率は 5.00 % (全業種平均) となりました。前年度からの減少幅は 0.31 ポイントとなっております。近年、物流事業者からの値上げ要請などを理由に売上高物流コスト比率は、長期的な上昇傾向にあると考えられます。実際に、前々回の 2021 年度調査においては過去 20 年間の調査と比較しても最も高い、5.70 % を記録しました。

一方、2022 年度調査 (前回) および 2023 年度調査 (今回) では、揺り戻しとも見える結果となりました。指数による分析からは、物流単価は上昇傾向にあるものの、それ以上に物流量に対する売上高 (販売単価) の伸びが大きいことが明らかになりました。昨今のサプライチェーンの混乱や円安などの状況から、仕入価格や製造原価、販売管理費の上昇分が荷主企業の販売価格に転嫁され始めていることが推測される反面、荷主企業は値上げ要請には応じつつあるものの、物流事業者から荷主企業への物流コストの価格転嫁が追い付いていないという可能性もあります。なお調査結果の速報版やこれまでの調査結果の概要などは、以下 URL にてご確認いただけます。

<https://www1.logistics.or.jp/news/detail.html?itemid=1052&dispmid=703>

売上高物流コスト比率の推移 (全業種)



公益社団法人全国通運連盟 通運事業の役割をPR

公益社団法人全国通運連盟は、鉄道で運ばれる荷物の集荷・配達業務が「通運事業」と呼ばれていた1952年（昭和27年）2月に、全国の通運事業者によって「全国通運業連盟」として組織されたのち、1971年（昭和46年）6月に社団法人「全国通運連盟」、そして2013年（平成25年）4月には内閣総理大臣より「公益社団法人」としての認定を受け、現在に至っています。

◎各種委員会活動

当連盟は、事業の運営方針や事業計画を決定する「企画政策委員会」、大型高規格コンテナの導入助成事業、利子補給事業といった基本的事業のあり方について検討する「業務財務委員会」、環境対策や安全対策、そして輸送品質向上に向けた取り組みについて検討する「安全環境委員会」、一般の方々向けの広報活動や会員事業者への情報発信のあり方を検討する「広報情報委員会」、講習会や教材開発のあり方などを検討する「人材確保育成委員会」という5つの委員会を設置（次年度から委員会体制を見直し予定）し、鉄道コンテナ輸送ネットワークの維持、利用運送事業の発展等について、会員事業者と連携して事業を運営しています。

その他、平成27年度から青函トンネルでの北海道新幹線と貨物列車の共用走行問題に対する「青函特別委員会」を設けて、鉄道コンテナ輸送の重要性を検討してきました。

当連盟においては、生産性の向上を図りつつ鉄道へのモーダルシフトを促進するとともに、最近の利用運送事業を取り巻く課題に対応するべく活動していくこととしています。

◎鉄道へのモーダルシフト促進策の展開

当連盟は、鉄道コンテナ輸送の利用拡大のため「鉄道コンテナお試し輸送キャンペーン」を実施してきました。この制度は、当連盟の会員事業者を通して鉄道コンテナ輸送に係る発送料、鉄道運賃料金、到着料の8割を助成するものです。

令和3年度以降は、「新規獲得の推進」「パレット化の推進」「ラウンドユースの推進」「輸送品質の改善」「新規区間拡大」を助成の対象として実施してきました。次年度からは新たなモーダルシフト促進を展開していきます。

◎31ftコンテナの導入支援

当連盟の31ftコンテナの導入支援は、グリーン物流の推進による地球温暖化防止に向けたCO₂排出量削減を目的として、平成16年度に「私有大型高規格コンテナ導入促進助成金制度」を創設、平成18年度より「グリーン物流推進支援事業」として実施し、会員事業者の私有（大型）高規格コンテナ（31ftサイズ以上）、情報機器等の取得を支援してきました。

次年度は、当制度は終了し、別の枠組みで31ftコンテナ等の導入支援を実施していく予定です。

◎輸送障害時対応の強化

通運業界においては、お客様の期待に応えるために、大規模災害時の代行輸送体制等の強化、集配効率の向上、コンテナのラウンドユースといった生産性の向上、そして輸送品質の改善を一層推進していく必要があります。

代行輸送体制の強化については、当連盟は輸送障害時の発代替輸送助成を実施してきました。

次年度は、国、JR貨物と協調しながら輸送障害時対応を強化していきます。

◎輸送品質改善のための取り組み

輸送品質向上に向けた取り組みとして、当連盟は主に「養生資材購入費の助成」と「コンテナ輸送品質向上キャンペーン」等を展開してきました。

平成23年度からJR貨物、(公社)鉄道貨物協会と当連盟が共催で毎年実施している「コンテナ輸送品質向上キャンペーン」も本年度で13回を迎え、さらなる輸送品質向上に向けた取り組みを次年度以降も継続して実施していきます。

また、鉄道コンテナ輸送の安全対策については、JR貨物と協力して貨物の偏積防止対策につとめるとともに、タンクコンテナ等の点検、危険品取扱いの適正化等、事故防止に向けた取り組みを徹底しています。

◎広報活動の展開

当連盟は、鉄道コンテナ輸送と通運サービスの利点やモーダルシフトの必要性、効果の周知および認知度向上等を目的とする「鉄道コンテナ利用キャンペーン」を実施しています。全国の大型・小型イベント等への出展とともに、鉄道コンテナ輸送と通運事業の認知度向上及び利用促進に向けた広報・宣伝活動として、専門誌・新聞への広告掲載を実施しています。

当連盟は、会員事業者の「安全や環境保全の推進」、「輸送の効率化に向けた取り組み」、「人材の育成」を支援するとともに、「“環境に優しい”鉄道コンテナ輸送の広報活動」の一環として、JR貨物と協力してモーダルシフトを積極的に推進しています。

これからも当連盟は、鉄道に係る貨物利用運送事業（通運事業）の健全な発展と経営の近代化への貢献、並びに社会公共の福祉の増進に寄与することを目的として、活動して参ります。

本年度も引き続き、JR貨物と共催し、国土交通省の後援、一般社団法人日本物流団体連合会および公益社団法人鉄道貨物協会の協賛のもとで「鉄道コンテナ利用キャンペーン」を実施してきました。

令和5年度は、大型ブースとしては、エコプロ2023（東京都：12月6日（水）～8日（金））へ出展しました。展示ブースは今年度リニューアルし、俳優の六角精児さんによるプレゼンテーション動画「六角精児さんが語らざるにはいられない『鉄道コンテナ輸送』の魅力」のシアター形式による放映、パネル展示、12ftコンテナの2段階実物展示等により、鉄道コンテナ輸送の仕組み、長距離トラックドライバー対策としての有効性、青函トンネルの重要性、2024年問題への対応等について、来場者に理解を深めて頂きました。

また、地方においても、北九州市、神戸市、東京都、福井市で開催された産業展などのイベントに小型ブースを出展し、コンテナ実物、ジオラマやパネル展示等で鉄道コンテナ輸送の仕組み、通運サービスをPRした他、札幌夕駅、仙台夕駅、吹田夕駅でのコンテナ見学会を支援するなどの取組みも実施しています。

専門誌・新聞への広報活動として、物流業界向けに「運輸新聞」「輸送経済新聞」「カーゴニュース」等の特集号や「日刊工業新聞」等へ広告を掲載しています。一般層からビジネスマン・経営幹部層へターゲットをシフトさせ、「鉄道コンテナ輸送で実現するSDGs」「青函ルート問題」をテーマとした広告を掲載し、鉄道コンテナ輸送および通運サービスの認知度向上に努めました。

また専門書籍では、公益社団法人鉄道貨物協会発行の「貨物時刻表」や一般社団法人日本物流団体連合会発行の「数字でみる物流」に広告を掲載しました。

◎流通経済大学寄付講座

当連盟は毎年、鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフトを促進する人材の育成に取り組んでおり、その一環として流通経済大学に寄付講座を開設し、これからの我が国の経済・社会を担う学生に鉄道利用運送事業および鉄道コンテナ輸送についての知識を習得して頂くこととしています。

同講座では、学識経験者、鉄道利用運送事業者、JR貨物、荷主企業の皆様から地球環境問題から見た鉄道へのモーダルシフトの必要性、鉄道コンテナ輸送のメリット、通運サービスの内容等について講義して頂いています。

◎鉄道利用運送事業教育研修（基礎コース・応用コース）

鉄道利用運送に携わる実務教育講座として、年1回開催しています。令和5年度で、基礎コースは20回、応用コースは19回を迎えました。また、平成24年度からは、一般の方も受講できるように当連盟ホームページでご案内しています。

全国から多くの方々一堂に会って、講義を受けながら親睦を深めることで知識の研鑽とともに業界全体の交流に大いに役立っています。

次年度は荷主企業の参加を積極的に受け入れ、より充実した研修をしていきます。

◎第5回通運事業フォーラム in 福岡

コンテナのラウンドユース、共同集配等による通運事業の生産性向上、荷主への提案力強化のため、令和5年10月25日にホテルニューオータニ博多にて「第5回通運事業フォーラム in 福岡」を開催し、会員事業者間の連携や共同化の促進を図りました。会員事業者、地方運輸局、JR貨物を含めて多くの関係者に参加して頂きました。

◎第17回鉄道利用運送推進全国大会

モーダルシフト等の経済社会ニーズへの今後の戦略的対応の推進、JR貨物との連携強化等を図り、国のモーダルシフト施策等を踏まえて、当連盟の今後の取り組み方針を決議することを目的として「第17回鉄道利用運送推進全国大会」を令和6年2月8日にパレスホテル東京で開催します。



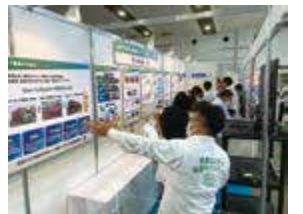
エコプロ



エコプロ



エコテクノ 2023



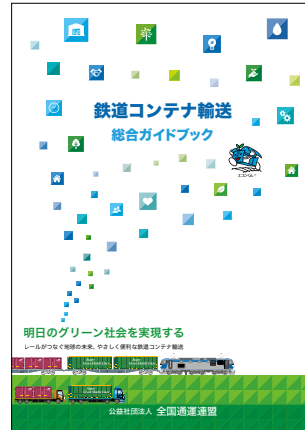
テクノフェア 2023



国際フロンティア産業メッセ 2023



国際物流総合展 2023



公益社団法人鉄道貨物協会 鉄道貨物輸送の利用促進に取り組む

鉄道貨物協会は、終戦の混乱の残る1950年、戦後復興を支える重要な輸送機関である鉄道貨物輸送に関する実証的な調査・研究を行う団体として荷主企業、通運事業者、鉄道事業者等により社団法人として設立されました。2011年11月には「二酸化炭素排出量が少なく環境にやさしい鉄道貨物輸送の利用促進を通じた地球環境の保全と国民生活に不可欠な物資の安定供給のための調査研究、普及啓発」を行う団体として内閣府より公益社団法人としての認定を受け現在に至っています。

調査・研究

◎本部委員会

鉄道貨物協会本部に「利用促進委員会」と「輸送品質向上委員会」の二つの本部委員会を設置し、鉄道貨物輸送に関する調査・研究活動を行っています。本部委員会では、鉄道貨物輸送をご利用になっている荷主企業や利用運送事業者へのヒアリング・アンケート調査や輸送品質に関わる研究などを実施し、より多くの皆様にご利用いただける、より高品質な鉄道貨物輸送の実現に向けた審議、提言等を行っています。本部委員会の調査・研究成果については、毎年、「本部委員会報告書」として編纂し、行政関係機関や主要図書館、鉄道貨物輸送関連機関など約1500箇所へ寄贈しています。また、当該報告書は、鉄道貨物協会ウェブサイトから過去9年分の閲覧が可能となっています。



現地調査

普及・啓発

◎会誌「MONTHLYかもつ」の発行

鉄道貨物協会の日頃の活動状況や、鉄道貨物輸送に対する理解を深めていただくための媒体として、会誌「MONTHLYかもつ」を編集・発行し、会員の皆さまにお届けするとともに、ウェブサイト上での公開も行い、当協会の活動についての情報発信を行っています。



研究発表

◎「貨物時刻表」の発行

鉄道貨物協会が発行する「貨物時刻表」では、貨物列車の時刻表だけでなく、巻頭カラー特集において、普段なかなか目にすることができない鉄道貨物輸送の内側を解説し、広く一般の方に親しみを持っていただくための記事を多数掲載しています。「貨物列車の総合ガイドブック」として、本誌を通して安全・安定的かつ環境にやさしい鉄道貨物輸送についての理解を深めていただけるよう、普及・啓発活動に取り組んでいます。



巻頭カラー特集

「エコレールマーク」普及活動

◎「エコレールマーク」とは

2005年度に国土交通省で創設された「エコレールマーク」は、CO₂排出量が他輸送機関と比較して格段に少なく、地球環境にやさしい輸送手段である鉄道によって商品や原料が輸送され、「エコ物流をしている企業・商品」として認定された場合に、その商品や企業の広告等に使用できる環境ラベリング制度のことです。「エコレールマーク」を通して、消費者の方々が商品を購入する際等に、物流の面から地球環境に対して貢献している企業や商品について知っていただき、消費者と企業が一体となった取り組みを進めることを目指しています。



有識者による講演会

環境面から語られることの多かった鉄道貨物輸送へのモーダルシフトですが、トラックドライバー等の担い手不足により懸念される物流危機や働き方改革の要請とも相まって、国民生活・経済活動に不可欠の物資を安全に安定的に運ぶ中・長距離貨物輸送の受け皿として鉄道貨物輸送が真に必要な輸送モードとなってきました。

◎「エコレールマーク」の認定

各企業からのお申し込みに基づき、鉄道貨物協会が事務局となってエコレールマーク運営・審査委員会を開催しています。エコレールマーク運営・審査委員会では、学識経験者・国土交通省・物流業界団体・鉄道事業者からなる審査委員により、お申し込み内容を認定基準に沿って審査し、エコレールマークの認定を行っています。



エコレールマーク運営・審査委員会

◎「エコレールマーク」の周知

人・社会・地域・環境に配慮した消費行動、いわゆる「エシカル消費」の傾向はますます高まっています。エコレールマークがより多くの消費者に認知されるよう、鉄道貨物協会では定期的にスーパーや貨物駅イベント、環境フェア等を通じて、啓発活動を展開しています。



環境展



小売店舗



貨物駅公開

◎「出張型教室」の開催

次世代を担う子どもたちに鉄道貨物輸送と地球環境問題を啓発する機会として、「出張型教室」を各支部と連携し各地の小学校で開催しています。それぞれの地域の産業や貨物駅の情報だけでなく、「SDGs」の要素を盛り込むなどの工夫を凝らしながら授業を行っています。

支部活動

鉄道貨物協会では全国に18の支部を置き、各地域において、鉄道貨物輸送の利用促進及びエコレールマークの認知度向上のための活動の他、講演会、企業見学会等の幅広い活動を行っています。また、本部委員会と連携した「利用促進会議」も各支部で開催し、会員への情報提供・会員相互の情報交換も活発に行っています。



小学校での授業



企業見学会



利用促進会議

わが国と海外を結ぶ国際複合運送業務

国際物流において、コンテナリゼーションの発達と相俟って、船舶・鉄道・航空機・トラックなどの各種輸送手段を合理的に組み合わせ、一貫した責任と運賃で貨物を輸送する「国際複合一貫輸送」の需要は、年々増大しています。この時代的ニーズに適合する国際輸送の担い手として、当協会はインターナショナルフレイトフォワーディング事業の発展・安定化を図り、広く公益に貢献することを基本理念として、幅広い事業活動を推し進めています。

◎講座

●国際複合輸送士資格認定講座

教育委員会では、会員のための教育啓蒙活動の一環として1985年から「国際複合輸送士資格認定講座」を開催して、国際輸送の専門的な知識・ノウハウを持つ人材育成に取り組んでいます。毎年、東京・大阪または名古屋の2地区で開催、国際複合輸送関連業務3年以上の経験を持ち、国際複合輸送の専門者を目指す方や中堅社員の方、また会員外でも国際複合輸送の専門知識を体系的に学びたい方々の受講を受け付けています。

延べ10日間30講座を受講し、認定試験合格後「国際複合輸送士」の資格が得られ、2023年までに6,509名の「国際複合輸送士」が誕生しています。



「国際複合輸送士資格認定講座」講義風景
(左：東京開催 右：大阪開催)

●実用英語通信文講座

1988年からスタートした実用英語通信文講座は山田雅重先生、2020年から野澤雅春先生と共に30年以上続いている長寿講座で昨年度までに1,038名の修了者を輩出しています。英語でのメールのコミュニケーションは必須アイテムです。相手にすぐに理解してもらえ、短時間で業務を遂行することは、小さい積み重ねですが、非常に重要です。相手の内容を理解して、本人が作成する頻度の高い物流英文の基礎、基本を徹底的に学び、受講後に即業務へ実践的に使用できる実用英語を習得し、修了試験を経て修了証書を授与した受講生にとっては非常に輝かしい財産となっております。



山田雅重先生



会場風景



野澤雅春先生

●中国語講座

1999年からスタートした樊婷婷先生の初級・中級中国語講座です。毎回、アグレッシブで楽しい時間で、あっという間に時間が過ぎていきます。基礎的な中国語(発声・文法・書取り・初歩的な会話等)を軸に、中でも会話を中心に、丁寧に何度も繰り返し教える先生は受講生にとって信頼があり、昨年度までに332名の修了者を輩出しました。

●タイ語セミナー、インドネシア語セミナー

タイ語は中島マリン先生のもと、タイの文化や歴史を交えて、セミナーを2017年から毎年開催、インドネシア語は、ホラスユミコ先生のもと、一番新しい言葉を民族統一の理念のもと出来上がりました。その経緯なども説明頂きながら通算で5回を数えました。2020年からはオンラインで行っております。すべて無料で開催し、少人数精鋭で内容の濃いセミナーとなっております。

●「JIFFA 運送約款基礎講座」eラーニングの開催

JIFFA 運送約款の全項目について解説し、その基礎を学ぶ講座を2020年度よりeラーニング形式でオンライン開催しています。昨年度は232名の方に受講頂いています。

本年度は合計3回、200名程度の参加を予定しています。オンライン化により地方在住の会員の参加も容易になり、また感染対策としても有効なことから毎回好評で、多数の会員の参加を頂いています。



eラーニング講座

◎研修会

●新入社員研修会

会員社の新入社員およびフォワーディング業務を初めて行う社員を対象として国際輸送業務を分かり易く説明する内容で、2日間の日程で実施しています。1日目は座学(5講座)、2日目は東京港近辺の物流施設の見学を行い、多くの会員の皆様にご参加頂いています。



新入社員研修会(左：座学風景 右：施設見学風景)

●中堅社員研修会

10日間30講座からなる、「国際複合輸送士資格認定講座」に日程の都合で参加出来ない中堅社員の方を対象に基礎の強化と専門知識の習得を目的とした6講座からなる2日間の集中講座を実施しています。



中堅社員研修会(会場内風景)

●物流見学会

次代を担う子供たちにフォワーディング業務の概要を広く知ってもらうため、JIFFA 会員各社の社員の児童を対象とした「物流見学会」を2007年から毎年各地域で開催し、児童と保護者を合わせて、これまで600名程の皆様に参加頂いています。今年度は7月に東京港にて実施し、38名の参加者がありました。



児童を対象とした物流見学会(2023年度)

◎各種セミナーの開催

タイムリーなテーマを選んでセミナーを開催しておりますが、一人でも多くの方に視聴頂きたいという趣旨から、オンライン形式による配信を主に開催しております。今年度は「ポストコロナ時代におけるフレイトフォワードの展望」と題したセミナーを実施しました。



国際物流の実務に関しては、物流に係るIT関連情報なども定期的にセミナーを実施、2022年10月には最新IT関連情報として賛助会員他からクラウド管理のプラットフォームや国土交通省・内閣府が推進するサイバーポートへ紐づけできるシステム、上流の荷主から海外プラットフォームとも連携できる貿易プラットフォームなどを紹介したオンラインセミナーを開催しています。

CSR活動の一環としてのセミナーも開催しております。

2022年12月に、総務委員会主催で、財務省主税局から講師をお招きし、前年に続いて「インボイス制度について」オンラインセミナーを開催し、2023年2月に録画の再配信を行いました。

●活動報告会

毎年7月に福岡、神戸、名古屋を訪問し、地域の会員を対象にJIFFAの活動内容をより詳しく知っていただくための報告会を開催しています。コロナ禍で現地開催をしばらく見送っておりましたが、2023年7月に4年ぶりに実施しました。合わせて100名を超える会員の参加があり、報告会に続いて行われた懇親会で交流を深めることができました。2023年12月には、東北地域では初めての活動報告会を仙台で開催しました。

◎調査

●海外物流事情調査と調査報告書の発刊

毎年、最もトレンドと思われるエリアに国際交流委員会と共催で調査団を派遣し、各地の現場を視察し、調査報告書を発刊しております。残念ながら2019年に東欧の物流調査を行って以降は、感染症拡大の影響により実施できませんでしたが、今年度は4年ぶりにベトナムにて調査を実施しております。

●統計データの作成と公表

半期毎に会員各社の輸送トン数やコンテナ取扱数等の実績を集計し、JIFFA ウェブサイトや協会誌 JIFFA NEWS で公表しています。

●関係官庁への業界団体としての意見具申や各種会合への参加等

業界団体として必要の都度、政府官庁への調査協力や意見提出、各種会議への出席などの対応を行っております。コロナ禍を引き金に、北米航路などコンテナ海上輸送が世界的に混乱したのは記憶に新しいところですが、JIFFA では官庁の主催する会議への出席やアンケートへの協力等によって業界の現状説明や対応の要望等を行いました。

●FIATA

当協会は国際貨物輸送業者協会連合会(FIATA)のメンバーであり、会議等の出席を通して同連合会の構成員である世界各国のフォワーディング協会との交流を深め、海外のフォワーダー協会と情報交換をしています。2023年は10月にベルギー・ブリュッセルにて世界大会が開催され、会長のIvan Petrov氏が退任、新たにthe Association of International Forwarding and Logistics Service Providers(UTIKAD)のTurgut Erkeskin氏がFIATA会長に選出されています。また、下記3協会が新たに加盟したことによってFIATAのAssociation Memberは114となり、拡大を継続しています。



ナミビア Namibia Logistics association (NLA)
セルビア Chamber of Commerce and Industry, Serbia (CCIS)
カタール Chamber of Commerce and Industry, Qatar (QCCI)

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 グリーン経営認証

環境負荷低減に取り組む運輸事業者を認証する「グリーン経営認証」。燃費向上、交通事故低減、車両故障減少、職場の活性化など環境だけでなく経営改善にもつながる取組として高く評価されています。

◎認証制度の概要

当財団が認証機関となり、「グリーン経営推進マニュアル」*1に基づいて一定レベル以上の取組をおこなっている事業者を審査のうえ認証する制度。

*1 グリーン経営推進マニュアル

ISO14031（環境パフォーマンス評価に関する国際規格）の考え方にに基づき、取り組むべき環境保全項目の具体的取組内容をチェックリストとして明示するとともに、目標の設定と評価が容易にできるように配慮されており、これを用いることによってグリーン経営が簡便かつ継続的に進められるようになっています。

●チェックリストで取上げている環境保全活動項目（チェック項目—トラックの例）

- ① 環境保全のための仕組み・体制の整備
- ② エコドライブの実施
- ③ 低公害車の導入
- ④ 自動車の点検・整備
- ⑤ 廃車・廃棄物の排出抑制、適正処理及びリサイクルの推進
- ⑥ 管理部門（事務所）における環境保全の推進

■対象となる事業

トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運

■認証基準

レベル1から3までのチェック項目*2の中で、法規制の遵守や一般的・基本的取組であるレベル1の達成を基本とし、実施効果の大きい項目あるいは顧客へのアピールとなる項目についてはレベル2も認証基準としています。

■有効期間

認証の有効期間は2年で、取得後2年毎に更新審査（現地審査）が必要です。その間は、それぞれ1年後にチェックリスト提出による書類審査を行います。

■認証費用

1事業所の場合、現地における審査料や登録証発行料及び2年間の登録維持料、指導・情報提供料を含めて15.5万円（プラス交通費実費：上限3万円）となります。複数事業所の場合は、審査事業所数に応じた費用がこれに加算されます。

◎認証取得に向けた支援

■取組事例データや教育用資料の提供

推進マニュアルに掲載している取組事例や教育資料は、グリーン経営専用ホームページにも掲示しており、ダウンロードして自由に利用できます。

■講習会の開催

認証取得に向けて取り組むべき具体的な内容や申請方法を説明する講習会を年間約60回全国で開催しています。

■認証費用の助成

自治体、都道府県トラック協会、一般社団法人日本冷蔵倉庫協会など44団体（2023年6月末現在）が認証料金の助成制度を実施しています。



グリーン経営専用ホームページ



<https://www.green-m.jp/>



*2 チェック項目のレベル設定

レベル1	レベル2	レベル3
一般的・基本的な取組 ・現状把握 ・法規制の遵守	積極的な取組 ・目標、計画に基づく取組の推進	先進的な取組 ・実施結果の把握と取組の改善、見直し



永年登録事業所ラッピングトラック

◎認証取得のメリット

●様々な優遇措置

■行政等による優遇制度

- ① 省エネルギー法の荷主への配慮事項への明記（環境に配慮している貨物事業者の選定）
- ② グリーン購入法の特典調達品目（輸配送、貸切バス、タクシーが含まれています。）
グリーン経営認証は調達基準に適合しています。
- ③ コミュニティバスの導入に関するガイドラインへの明記
- ④ 輸送の安全を確保するための貸切バス選定・利用ガイドラインへの明記
- ⑤ 運輸局長名による事業者表彰時の考慮

■銀行等の低金利融資制度

- ① 多くの金融機関で認証取得事業者向け低金利融資制度が実施されています。
- ② 認証取得費用に対する自治体の助成制度が実施されています。
詳細は、各自治体へお問い合わせ下さい。

●経営面での改善（グリーン経営認証取得による効果—2021年版—）

■燃料費削減、エネルギー使用量削減

トラック・バス・タクシー事業者の平均燃費及び倉庫・港湾運送・旅客船・内航海運事業者のCO₂排出原単位は認証取得前に比べ2年間で全ての業種で良くなっております。【表1、表2】

■交通事故件数の削減

認証取得事業者の走行距離あたりの交通事故件数は、認証取得後1年目にトラック事業者で前年比25.9%減少しています。

■車両故障件数の削減

認定取得事業者の走行距離あたりの車両故障件数は、認定取得後1年目にトラック事業者で前年比20.9%減少しています。

■取得事業者の声

認証取得事業者は取得のメリットとして、燃費の向上だけでなく、職場モラルや従業員の士気の向上などのメリットを感じています。【表3】

※詳細はグリーン経営ホームページの掲載資料をご確認下さい。

◎認証取得後のサポート

認証登録後は、教育用資料の提供、法規制改正・環境関連トピックス・取組事例等をまとめた情報誌発行やグリーン経営専用ホームページによる情報提供、研修サイトの開設など、活動を継続するうえで役立つさまざまなサポートを行っています。

◎出前説明会の実施

荷主企業や元請物流事業者が協力会社向けに開催する社内講習会等に、当財団の担当者が出向きグリーン経営について説明を行っています。

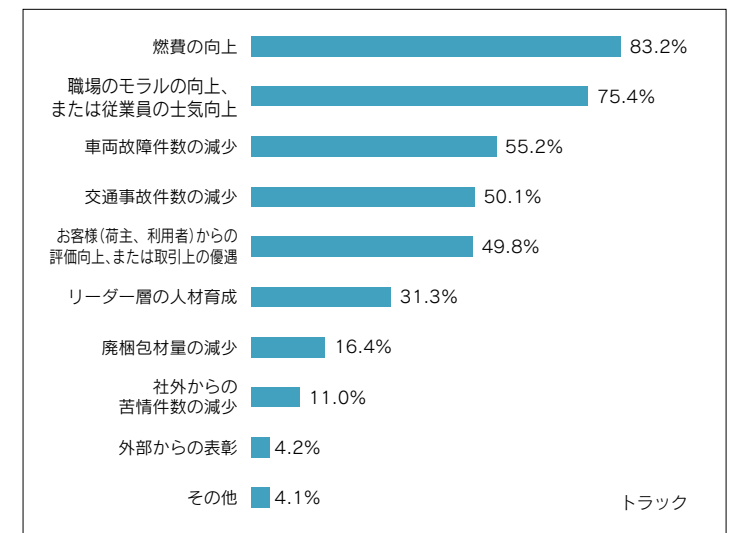
表1 認証取得前後の燃費の変化（新規申請時→取得2年後）

業種	車種	燃費改善率
トラック	車両総重量8トン以上	+3.1%
	車両総重量8トン未満	+3.2%
バス		+2.4%
タクシー		+1.6%

表2 認証取得前後のCO₂排出原単位の変化（新規申請時→取得2年後）

業種	区分	原単位改善率	
倉庫	普通	所管面積当り (m ²)	3.6%
	冷蔵	冷蔵倉庫設備トン数当り (t)	3.4%
港湾運送	取扱量当り (t)		5.9%
	取扱コンテナ当り (備-20ft)		11.0%

表3 メリットがあったと回答したトラック事業者の項目別回答割合



協創と実践 3PL 業界の発展に寄与します

多くの3PL事業者は、人材育成、物流改善・効率化、安全・安心の確保など多様な課題を抱えており、日本3PL協会はその課題を共有し実践的な解決を図るべく、2005年5月（2009年4月に一般社団法人化）に発足しました。現場を重視した実践的な団体で唯一、3PL専門の団体でもあります。

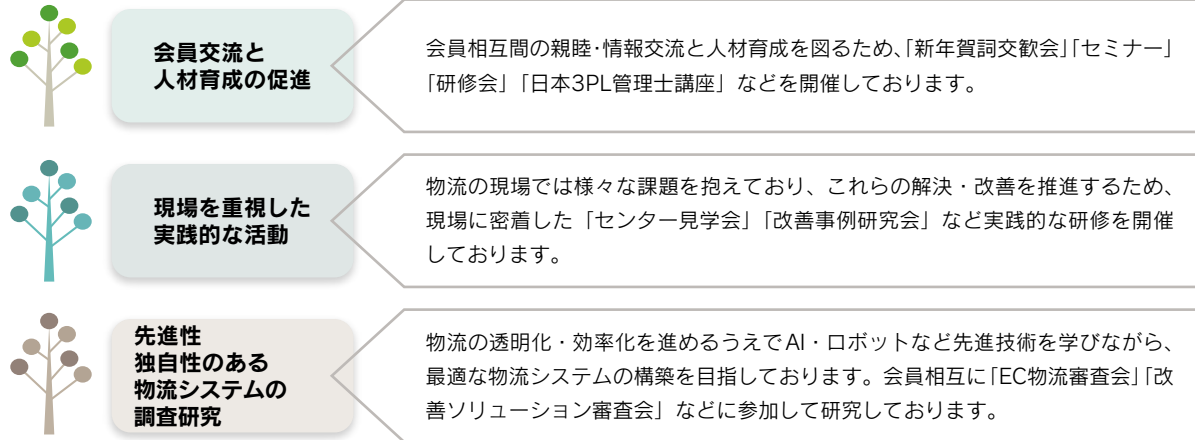
当協会は物流企業に加えて荷主企業・物流機器メーカー・IT企業・不動産企業など多方面からの3PL関連企業が会員となり、会員の皆さまと共に知恵を絞りながらより一層の3PLサービスの提供を目指しております。

事業活動は、「改善ソリューション委員会」「EC物流委員会」「現場見学会」「3PL経営塾」「日本3PL管理士講座」など開催しております。

これらの活動を通じまして3PL機能をより充実させ、全体最適な物流を実現することで3PL業界の健全な発展に寄与、また社会インフラとしても物流機能を効率的に、より一層高めていきたいと考えております。「健全なる3PL業界の発展」にご賛同頂ける企業の皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

◎コンセプトと活動方針

日本3PL協会では、行政、各種関連団体と連携しながら、3PL業界に対する様々なニーズの実現や課題解決に向けて、3つのコンセプトを土台とした活動方針を掲げ積極的に取り組んでまいります。



◎会員交流

- 「新年賀詞交歓会」
 - 「3PL経営塾」（著名な企業経営者によるトップセミナー）
 - 「現場見学会」
- などを開催しております



パネルディスカッション



3PL 経営塾

◎人材育成

「日本3PL管理士講座」を隔年開催しております。3PL事業の基礎から事業提案できる人材を育成します。講座修了者には「3PL管理士資格認定書」が付与され、過去160名以上の「3PL管理士」を輩出しています。



日本3PL管理士講座



◎委員会活動

改善ソリューション委員会

課題解決に貢献するために、物流事業者、マテハン/ロボットメーカー、IT、物流不動産、人材会社など多様な企業が参加しています。今年度の活動テーマは、「センターの自動化・省人化」「IT関連、データ活用(DX)」「次世代の物流施設」「中小規模センター向けソリューション」の4つです。

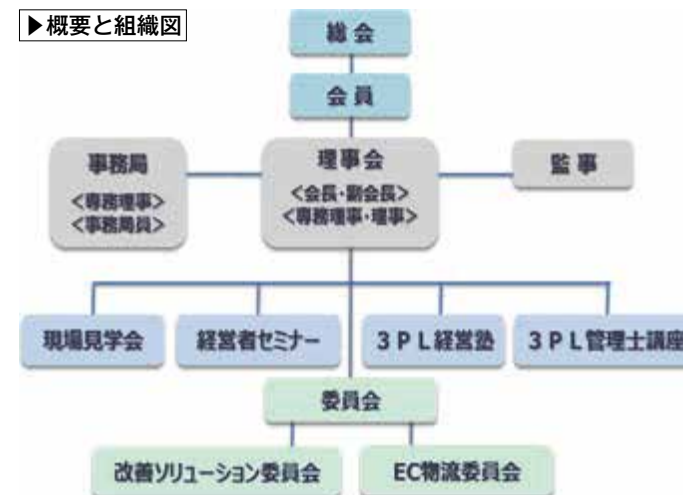
EC物流委員会

EC市場を研究しノウハウを学ぶ～年に一度、成果発表会を開催しております。今年度の活動テーマは、「食品ECの未来を支えるEC物流の役割」です。



委員会/見学会

▶概要と組織図



2024年問題や物流現場の労働力不足を解決する「パレットの普及、標準化」に向けた活動

第二次世界大戦後、日本にパレットが持ち込まれてから物流作業の効率は飛躍的に高まりました。但し一方で「個別最適」な物流が進むと多種多様なパレットが生まれ、バラ積みや結節点での積替え作業が生じます。

日本パレット協会は1964年の設立以来、物流の「全体最適」を目指し、官民連携で日本、アジアのパレット化、物流標準化を進めてきました。パレットをより身近に感じていただく活動も強化しています。



◎協会の歩み

創立は1964年4月8日、任意団体として発足。その後、1978年に社団法人化を経て、2012年4月1日に一般社団法人へ移行。2024年4月には、創立60周年を迎えます。

現在、会員数約90社。創立当初は、木製パレットメーカーを中心とした製造業の団体として始動。その後、パレットが日本の産業界で普及するとともに、金属、プラスチック、リサイクル（容器包装リサイクル材）等の各パレットメーカー、レンタル事業や関連事業の企業も会員となり、パレットの総合団体へと様変わりしています。

◎主な活動

●パレットの標準化と生産統計調査

パレットを国内の生産性向上や環境負荷低減にうまく機能させるために必要な活動が我々の使命です。現在の日本は、世界に先例を示すごとく人口減少社会へ移行していることから、社会全体の生産性を維持・向上させ、経済成長を継続させる課題に対峙しています。

このような背景から、産学官が連携して「生産性の維持・向上」のための様々な議論がなされ、日本社会の諸活動の合理化や標準化を更に進める一環として、物流の標準化に関する議論も活発になっています。その標準化の1丁目1番地がパレットの標準化です。

協会創立以来、一貫して様々なパレットの規格制定に尽力した経験を活かし、その標準化（規格制定+普及）のための活動に参画しております。そして、そのようなパレット普及の一端を確認可能な指標である、パレットの生産数量に関する統計調査を毎年実施しています。

●パレットの認知向上

しかし、パレットについて、社会全体の認識はまだ不足しています。パレットの規格制定をして、パレット普及を図るには、国内事業者の物流担当者だけではなく、経営層の方々にもパレットに関する認識を

深めていただく必要があります。

また、より多くの事業者の方々や一般の方々に利活用後の空パレットの回収に協力していただくには、社会全体の認知向上が必須となります。単なる販売促進のためのPRではなく、日本社会におけるパレットの認知向上を目指しております。

●「2024年問題」などの物流危機への対応

トラックドライバーの年間残業規制や少子高齢化による労働力不足に対応するには物流現場における作業の効率化が必須であり、一つのパレットで貨物を最終目的地まで運ぶ「パレット一貫輸送」を推進しています。

また物流の結節点で手作業が発生しないような提案も行っています。

●グローバル化への対応

国際物流でも当然ながらパレットが利活用されています。昨今、世界各国で様々な経済連携（協定）がなされており、自由貿易の流れがより強く認識できるようになりました。我が国を含むアジア地域においてもその傾向は同様です。

21世紀はアジアの世紀（人口やGDPの世界シェアが世紀半ばに50%前後に達する）とも言われており、貿易量の増加に伴う物流やパレットに関する取組みも活発になっていることから、そうした領域における日本のプレゼンスを維持するため、パレットに関する会議体等を通して、積極的な活動を展開しています。

●社会貢献、環境保全

世界では、国連気候変動枠組条約締約国会議（直近：2023年11月開催/COP28）の継続の成果として、持続可能な社会への大転換のチャレンジが始まりました。国内の事業者においても、SDGsやESGというキーワードを意識した活動が活発になっていますが、パレットの確実な回収と循環利用は資源の有効活用と環境保全に繋がるとともに、持続可能な物流の実現にも貢献します。

◎活動詳細① パレット標準化

●パレット標準化推進分科会

官民物流標準化懇談会の分科会として発足しました。サプライチェーン全体で徹底した最適化に資するパレット標準化の促進を目指しており、当協会会長が構成員として出席しています。

●JIS（日本産業規格）の制定

環境負荷を減らし循環型社会を目指すために「容器包装リサイクル材を用いたプラスチック製平パレット」のJISを制定しました（2017年）。



◎活動詳細② パレットの認知向上

●パレットの日、記念web講演会

パレット輸送における標準パレットとなっている11型と12型（JIS Z 0650ユニットロードシステム通則等）から〈11月12日〉をパレットの日として自主制定を行い、日本記念日協会に上記月日を記念日申請、2020年10月に正式に記念日として認定されました。

2022年より「パレットの日」の直前の平日午後、web講演会を開催しています。

普段パレットに縁遠い一般の方々にも興味を持ってもらえるようプログラムにも工夫を凝らしており、どなたにもご参加いただけます。

●物流の2024年問題対策への対策相談室

荷主系企業や一般の方々にも広く物流課題を知っていただき、解決に向けて動いていただくために、当協会HPでは「対策相談室」を2023年11月から開設しました。できる限り幅広く対応しますのでどうぞご連絡ください。

●お子様向け活動

従来から小学校等で物流やパレットについて知る機会を提供するため、教科書掲載に向けた活動や、子ども向けイベントにも積極的に参加してきました。

またHPには「パレットキッズページ」を設けて、お子様にもパレットに親しんでいただくように努めております。



◎活動詳細③ グローバル化への対応

●APSF/アジアパレットシステム連盟

APSF (Asia Pallet System Federation) は、アジア地域におけるパレットの利活用促進とその標準化（共通化）を目的として、2006年6月に設立されました。日本パレット協会は、設立当初から加盟をして活動を継続しています。現在、日本、中国、韓国、ベトナム、タイ、ミャンマー、フィリピン、マレーシア、インドネシア、インドの10カ国が加盟しています。その成果として、この地域における共通のパレットサイズを1100×1100mm：11型 1200×1000mm：12型の2種類としました。利活用を域内で加速させるため、2030年までの活動ロードマップを加盟10カ国中9カ国が2023年8月までに策定しました。また各国のパレット生産数量や標準化パレットの比率の情報も集約されました。



●「中国国際パレット会議」で各国間連携の重要性を強調

中国で毎年、開催都市を変えて開催されるこの会議は、アジア各国や欧州からも参加する600名規模のイベントです。2023年11月、久しぶりに対面参加し、2024年問題に対し日本では官民連携でパレット活用と標準化推進をしている現状を報告し、パレット標準化には各国の連携が重要であることを強調しました。



◎活動詳細 社会貢献・環境貢献

●日本ストリートサッカー協会との提携

欧州生まれの「ストリートサッカー」は直径5メートルのコートで競う競技で、新たなスポーツとして日本で普及しつつありますが、悩みは欧州から輸入する囲い器材のコストでした。当協会では国内の間伐材や植林木材を使い会員企業が製作、環境に優しく安全で軽い「パレットパナケージ」を提供することで普及に一役買っています。



●植林 2012年-2017年度

2012年度から会員企業の活動を引継ぎ実施。マレーシア・サバ州のコタキナバル（ボルネオ島）で、現地小学校の資金援助などを含め、地域住民の方々と交流を深めました（現在は活動休止中）。

一般社団法人日本物流システム機器協会 (JIMH) MH (マテリアルハンドリング) ニーズの実現、 課題解決を推進

◎会長挨拶

マテリアルハンドリング (Material Handling, MH) とは、生産・流通・サービスにおける様々な物品の保管・搬送・仕分けなどモノの移動に関わる取り扱いを指す言葉で、MHの効率化は、企業のロジスティクスや生産性向上に大きく寄与します。

日本物流システム機器協会 (JIMH) は、MHに携わる物流システム機器メーカーを中心に2008年に発足し、社会に向けた物流システム機器の理解促進と、物流システム機器業界における課題解決を目的に、さまざまな活動に取り組んでいます。

近年、物流システム機器は自動化・省力化をキーワードとして、人口減少・少子高齢化に伴う労働力不足への対応、事業継続計画 (BCP) の推進、物流価値の向上などを具現化し社会インフラと位置付けられるようになりました。さらに各種ロボットとの協調・協働や人口知能 (AI) の活用、モノのインターネット (IoT) への対応など、技術導入を加速し、新たな物流価値を創出していくことが期待されています。

今後、ますます深刻化する労働人口の減少、ECの普及による消費形態の多様化、グローバル化によるサプライチェーンの高度化、持続可能な開発目標 (SDGs) の実現など、環境への配慮や産業構造の変化が社会や

経済に大きな影響を与えるものと考えられます。

これらの課題解決に向け、物流システム機器業界にはこれまで以上の期待が寄せられていると考え、その期待に応えるため JIMH はこれからも社会・産業界への貢献と物流システム機器業界の発展を目指し、たゆまぬ努力を続けてまいります。

今後ともより一層のご支援、積極的なご参画を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

日本物流システム機器協会
会長 下代 博



◎活動方針

JIMH では、行政、各関連団体やマテリアルハンドリング (MH) の現場に精通している物流システム機器・部品メーカーと連携しながら、社会や産業界の MH に対する様々なニーズの実現や課題解決に向けて、3つの活動方針を掲げ積極的に取り組んでまいります。

**生産・物流現場の
省力化・自動化**

物流現場では、少子高齢化による人手不足や市場ニーズへの対応に伴う現場オペレーションの高度化・効率化など、様々な課題に直面しています。

JIMH では、人と機械の融合を考慮し、「IoT」「Industry4.0」「ロボット革命」等の最新技術の情報収集・かつようにより、生産・物流現場の作業負荷軽減や労働人数の変化、市場ニーズの多様化等に柔軟に対応できる物流システム機器の供給に努めてまいります。

**環境負荷軽減
を重視した
MH システム**

MH 業界においても、他の産業界と同様に環境負荷軽減や循環型社会の実現に向けた省エネ設備の普及が大きなテーマとなっています。JIMH は、これまで蓄積した MH 技術を活用し、環境を重視したシステムやソリューションを提案してまいります。

**グローバル化に向けた
業務連携と
標準化**

サプライチェーンのグローバル化や新興国における MH システムへのニーズ増加など、世界規模での MH 市場拡大がみられる中、企業の枠を超えた業界連携が必要となります。JIMH では、日本・米国・EU・中国による「4極会議 (WMHA)」を中心として、アセアン諸国に向けた MH 市場の創造と拡大のための活動や、更なる技術革新と標準化推進に注力してまいります。

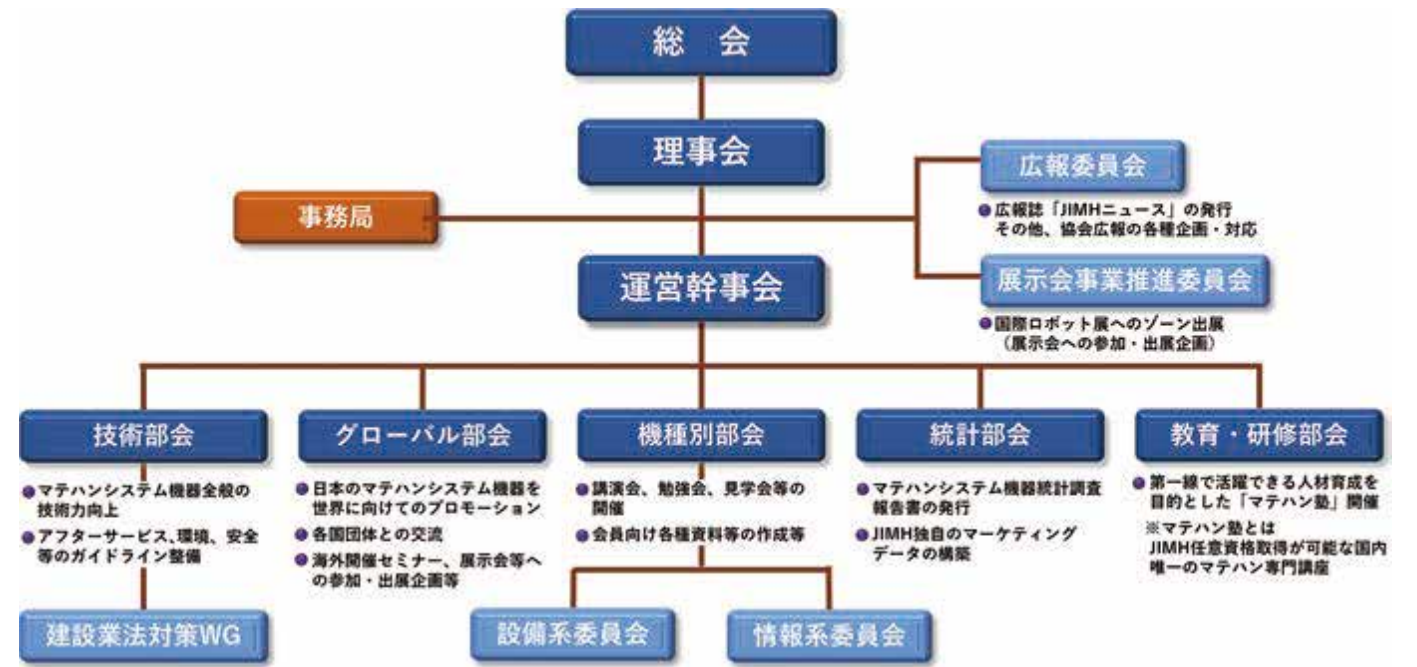


日本物流システム機器協会 HP
<https://www.jimh.or.jp>



日本物流システム機器協会紹介ビデオ
<https://www.jimh.or.jp/about/movie/>

◎組織図



◎主な活動

●会員交流

講演会・勉強会・新年賀詞交歓会等懇親会の開催

JIMH では、各種講演会・勉強会・工場見学や行政事業説明会などのセミナー、会員相互の親睦をはかる新年賀詞交歓会、総会后懇親会などを開催しています。



●国際交流

日本・米国・EU・中国による4極会議 (WMHA) を開催

JIMH の提案により、世界中の代表的な物流システム機器団体が一堂に会する「4極会議」を発足。マーケット、技術、規則/規格などの情報交換や交流を定期的に行っています。



●機種別委員会

設備系・情報系委員会を開催

機種毎に抱える問題点や課題を抽出し、技術向上・標準化、指針の整備や、勉強会、見学会等も企画・開催しています。



●展示会事業

国際物流総合展、国際ロボット展への出展

アジア最大級、国内唯一の物流・ロジスティクス専門展示会「国際物流総合展」の主催団体として、また国際ロボット展では併催企画としてゾーン出展をさせていただくなど幅広く活動しています。



●統計調査事業

マテハン機器出荷統計の調査

物流関連機器の出荷統計「物流システム機器生産出荷統計」や「マテハンシステム機器生産・出荷統計」等の統計調査活動を実施しています。



「物流の2024年問題」への対応、そしてさらなる インフラロジスティクスの価値向上のために

フォークリフトや無人搬送車システムなどの産業車両は、倉庫や物流施設、工場、港湾、貨物ターミナルから農業や漁業等に至るまで、幅広い現場で活用いただいておりますが、日本産業車両協会では、こうした物流におけるインフラロジスティクス（構内や結節点での運搬・荷役作業）の効率化・自動化、安全向上、環境負荷低減に取り組んでいます。

◎効率化・自動化に関する取り組み

●「物流の2024年問題」への対応

昨年来、メディアでも多く取り上げられるようになったこの問題は、2024年4月からトラックドライバーの働き方改革に関する法律が適用され、一人当たりの労働時間が短くなるため、このまま何も具体的な対策を講じないと、政府の試算では、2024年度には輸送能力が約14%（4億トン相当）不足する可能性、そして、その後も対応を行わなかった場合、2030年度には輸送能力が約34%（9億トン相当）不足する可能性があるということです、社会・経済に大きな影響を及ぼす恐れがあるとの懸念が高まっております。

政府は、こうした問題が生じないよう、2023年3月に「我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議」を立ち上げ、6月に「物流革新に向けた政策パッケージ」、10月には「物流革新緊急パッケージ」を打ち出しました。

様々な施策メニューの一つとして、国土交通省の調査では、トラックドライバーの一日の拘束時間の約25%を占めている「荷待ち・荷役作業等時間」を2時間以内とすること、その目標をすでに達成している場合は1時間以内とする努力目標が挙げられています。

本会でも、平成28年度に経済産業省の委託を受けて実施した「IoTを有効に活用した全体最適なサプライチェーンシステムの構築調査事業報告書で、パレット化の推進により、トラックドライバーに大きな負担となっている手荷役から機械荷役への転換の必要性を提言しましたが、ようやく政府主導でその提言の実現が図られていくこととなったと言えます。

「物流緊急パッケージ」では、機械化に留まらず、さらに一歩進めて自動化を実現していくための、即効性のある設備投資・物流DXの推進が掲げられ、様々な導入支援や実証事業が令和5年度補正予算に取り入れられました。協会としても、会員に対して、車両・機器やソリューションの提供によって、お客様の物流の生産性向上に資する提案を行っていただくようお願いしているところです。

●国際物流総合展イノベーションエキスポの開催

2023年9月13日（水）～15日（金）の3日間にわたり、「国際物流総合展2023/第3回イノベーションエキスポ」が、本会を含む7団体の主催により、東京ビッグサイト西ホールで開催されました。上述の「物流の2024年問題」の解決策が広く求められていることもあり、前回は大きく上回る401社・団体/1,230小間）の出席、約4万5千人を超える来場登録者数を迎え、併催されたヴァーチャル物流展にも約18万件的総アクセス数を記録しました。

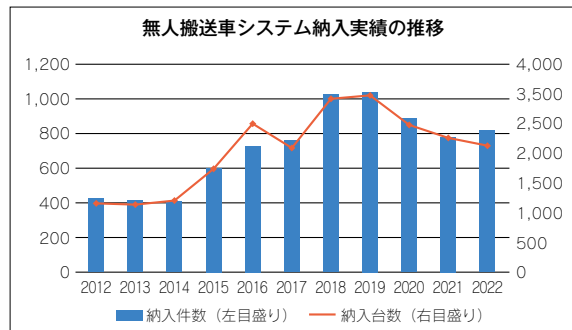
同展での来場者アンケートでの、興味深くご覧いただいた製品・サービス（複数回答）

において、「無人搬送車」と回答された方が40.7%、「フォークリフト」も21.4%と、産業車両に大きな注目が集まりました。

このうち、「無人搬送車」については、近年本会への加盟メーカーも増加し、統計の整備や標準化の推進、導入促進策の検討等に取り組んでおります。まだ入会されていない企業各位におかれましても、ぜひご入会いただき、こうした活動にご参加下さいますようお願いいたします。

また、同展では初めて主催者共同パビリオンを設け、「2024年問題のその先へ～フィジカルインターネットによる未来への進化～」と題して、大型モニター等も活用したわかりやすい情報発信を行いました。

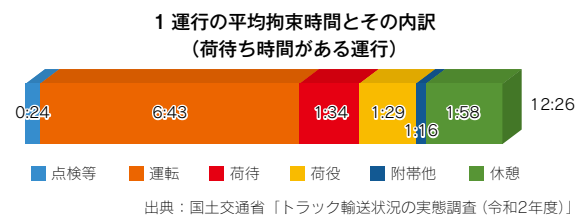
2024年も9月10日（火）～13日（金）の4日間、東京ビッグサイト東ホールで「国際物流総合展」を開催予定です。すでに出席申込が始まっており、出展目標規模を上回るような勢いで、次々と申込が行われている状況です。



※政府資料より抜粋引用



イノベーションエキスポの
主催者共同パビリオン



◎安全向上に関する取り組み

●令和5年度フォークリフト安全の日開催

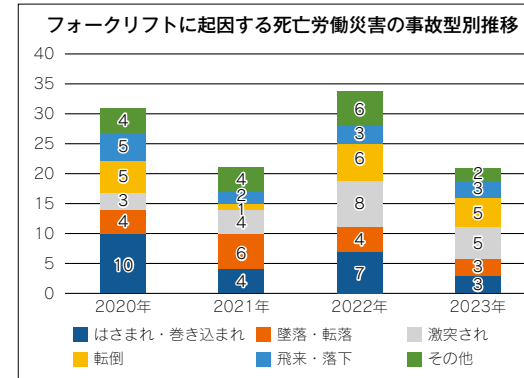
一昨年より開始したフォークリフト安全週間（厚生労働省後援、毎年7月第1週）に合わせて、2023年7月5日（水）に東京都港区の女性就業支援センターホールにおいて、物流事業者を中心に、およそ120名の参加を得て3回目の「フォークリフト安全の日」を開催しました。（厚生労働省後援、中央労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、建設荷役車両安全技術協会協賛）

会場ロビーでは前年に引き続き、フォークリフトの安全に役立つ製品等の紹介コーナーを設け、会員、非会員併せ7社の参加を得て、来場にご覧いただくことができました。



第3回フォークリフト安全の日の会場模様

2023年1～11月のフォークリフトに起因する労働災害の事故型別内訳は以下の通りでした。（厚生労働省統計資料（速報値）による）

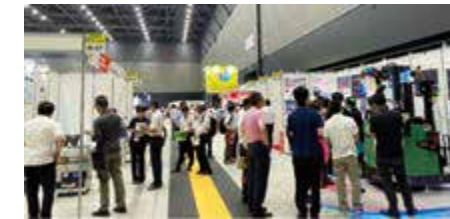


前年は年計のためそのまま比較できませんが、2023年は2022年に多かった「激突され」や「はさまれ・巻き込まれ」による死亡災害は減少しています。

日本産業車両協会の会員であるフォークリフト・メーカーでは、「激突され」事故への対策として、フォークリフトの周囲にいる作業者を検知してオペレータに警告したり、あるいは車両の動きを制御したりできる機能を開発して装備の普及を図っております。

●緑十字展、全国産業安全衛生大会への参加

フォークリフト安全の日に協賛いただいた中央労働災害防止協会が主催して、9月27日（水）～29日（金）にポートメッセ名古屋で開催した2つの行事に、本会も参加し、緑十字展では「特別企画：防ごう！フォークリフト災害」の設置に協力、全国産業安全衛生大会では、フォークリフト安全の日に行った講演の一部を再演し、東京での行事に参加できなかった方にお聴きいただくことができました。



緑十字展



全国産業安全衛生大会での本会講演の模様

「特別企画：防ごう！フォークリフト災害」の会場

◎環境負荷の低減に関する取り組み

●フォークリフトの電気化促進

2050年のカーボンニュートラルの実現を目指して、物流分野でも取り組みが求められていますが、国内でのフォークリフト新車販売のうち、電気車の割合は年々上昇を続けていますが、2023年は過去最高の7割超に達する見込みです。

また、水素を燃料とする燃料電池フォークリフトの導入も着実に進んでおり、日本産業車両協会でも、水素充てん施設での産業車両に適した技術基準の作成や、水素燃料電池自動車用燃料装置用容器の活用拡大に向けた検討等に参画・協力しています。

このように自動車をはじめとする、いわゆる車両の中で最も電気化が進んでいるフォークリフトですが、大型車の電気化は容易ではありません。そのため、CO2と水素を合成して製造される人工的な原油である合成燃料（e-fuel）の活用も視野に入れ、合成燃料の導入促進に向けた官民協議会商用化推進WGにオブザーバーとして参加し、生産・提供する車両によりお客様の脱炭素化に貢献するための選択肢の一つとして検討していくこととなりました。政府でも、合成燃料の商用化時期の目標を「2040年まで」から、「2030年代前半まで」に、前倒しており、こうした動きを見ながら業界としても対応してまいります。

●フォークリフトに対する次期排出ガス規制について

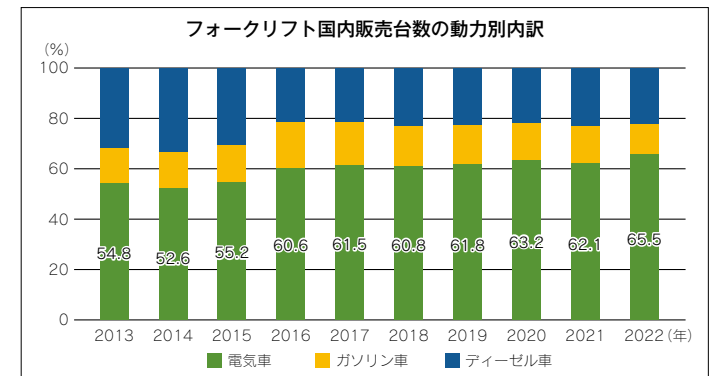
フォークリフトを含む特殊自動車を対象とする、ガソリン・LPG車に関する次期排出ガス規制が2024年10月から強化・導入されます。ガソリン・LPG式特殊自動車に対する規制は、2006年10月に初めて開始されて以来、規制内容は変わっていませんでしたが、今回以下の通り規制値が強化されるほか、試験サイクルの見直しやブローパイガスの大気開放の禁止が行われる予定です。日本産業車両協会では、規制強化に伴う法令や運用ルールの見直し作業に参加して、円滑な導入が実現できるよう協力しております。

◎2024年度の日本産業車両協会の主な事業予定

フォークリフト安全の日 7月3日（水）に開催予定 於女性就業支援センターホール（東京都港区）

国際物流総合展 9月10日（火）～13日（金） 於東京ビッグサイト東ホール

第24回日欧米中アライアンス業界首脳会議 9月19日（木）～20日（金） 於中国、西安



	CO (単位：g/kWh)	HC (単位：g/kWh)	NOx (単位：g/kWh)
現行規制	20.0	0.6	0.6
次期規制	15.0 (▲5.0)	0.6 (±0)	0.3 (▲0.3)

あ

アイオイ・システム 15 40 86 88 90 92
 IHI物流産業システム 5 39 84
 イーソーコ 126
 SGムービング 124
 NXキャリアロード 68
 NX商事 7 56
 NX総合研究所 6 60
 NXホールディングス 表4
 NXワンビシアーカイブズ 58
 大塚商会 62
 オカムラ 1 41 80 82
 押入れ産業 66

か

環境優良車普及機構 8
 キューソー流通システム 13
 Gaussy 42
 GROUND 43
 交通エコロジー・モビリティ財団 140
 国際フレイトフォワードーズ協会 138

さ

サーラ物流 103
 佐川急便 表2
 シーネット 94
 シーネットIoTソリューションズ 95
 シノジャパン 16 70
 ジャバントラックショー2024 154
 スペース 102
 住友電工システムソリューション 100
 センコーグループホールディングス 2 50 52
 全国通運連盟 134
 全日本トラック協会 9

た

ダイフク 44 72 74 76 78 表3
 ダイフクプラスモア 120
 データ・テック 98
 鉄道貨物協会 136
 TOPPANデジタル 54
 トヨタL&Fカンパニー 116
 トラボックス 28 108

な

日本通運 122
 日本パレットプール 4 110
 日本フルハーフ 11 118
 日本貨物運送協同組合連合会 104
 日本産業車両協会 148
 日本3PL協会 142
 日本パレット協会 144
 日本パレットレンタル 12 106
 日本物流システム機器協会 146
 日本物流団体連合会 130
 日本ロジスティクスシステム協会 132

は

Forward X 46
 船井総研ロジ 64

ま

三菱ふそうトラック・バス 22
 三菱ロジスネクスト 3 114
 Mujin 45

や

矢崎エナジーシステム 10 96
 ヤマト運輸 18 22
 ユービーアール 14 47 112

ら

ロジスティクスソリューションフェア2024 17

2024年2月16日 発行

定 価 1,980 円 (本体1,800円+税額10%180円)

発 行 運輸新聞株式会社
東京都荒川区西日暮里3-6-10 佐々木ビル3F 〒116-0013
TEL 03-5685-0035 FAX 03-5685-0038
inquiry@unyu.co.jp https://www.unyu.co.jp

発行人 野口 香織
編集人 野田 裕之

印 刷 美研プリンティング株式会社

ロジガイ2024

運 輸 新 聞 オ ン ラ イ ン

通勤中はスマホで 今日のヒントを
事務所ではパソコンで 必要な情報や提案の入手を



- シングルプラン (電子版のみ) 3,600円/月 (税込)
 - ダブルプラン (電子版+紙面) 4,800円/月 (税込)
 - ダブルプラン (電子版追加) 1,200円/月 (税込)
- ※ 現在お支払いの本紙月額購読料+1,200円でご利用になれます。
- 紙面から電子版へ切替 3,600円/月 (税込)

2週間無料試読は ⇒

ホームページからも ⇒ <http://www.unyu.co.jp>



<https://unyu-digital.com/lp/>



ジャパントラックショー2024

トラック関連業界、日本最大の展示会!!

自然と調和する物流の未来がやってきました。
AI・IoTを駆使した新型を展示します。



2024 5/9 (木)・10 (金)・11 (土)

10:00▶18:00 (5/11のみ17:00まで)

Web登録or招待券・名刺持参で

パシフィコ横浜

入場無料

<https://truck-show.jp>



空港向けシステム

一般製造業・流通業向けシステム

Daifuku
Hini Arata
Kan

自動車生産ライン向けシステム

半導体・液晶生産ライン向けシステム

日に新たな館

マテハン・ロジスティクス体験型総合展示場

ダイフクの最先端がここにある。

ダイフクは、マテハン・ロジスティクス体験型総合展示場「日に新たな館」を全面リニューアルしました。ますます高まる自動化ニーズに応じて、新たに自社で開発・生産した製品を含む最新のマテハンシステムを展示。生産や物流の現場における保管・搬送・仕分けシステムのデモンストレーションを専任スタッフがご案内いたします。日に新たな館でダイフクの最先端をご体験ください。

日に新たな館

〒529-1692 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225 株式会社ダイフク 滋賀事業所内
開館時間:9:00~15:30 休館日:土曜日・日曜日・祝日 お申し込み:完全予約制

見学のお申し込みはこちら▶
「日に新たな館」ホームページ



DAIFUKU
Automation that Inspires

—モノを動かし、心を動かす。— 株式会社ダイフク

We Find the Way



For Where You'll Go Next

すべてのビジネスには、成功へたどり着く最善の方法がある。それを見つけ出すためなら、いかなる努力も惜しまない。NIPPON EXPRESSは、152年にわたる豊富な経験をもとに、50カ国で事業を展開するグローバル・ロジスティクスのリーディング企業です。私たちが運び届けるのは、たとえば美術品、医薬品、半導体チップから航空エンジンまで、実にさまざま。ネットワークと高度な専門性を活かした提案力で、複雑化するロジスティクスの最適解を見つけ出します。あなたのビジネスの進む先がどこであっても、いつも近くで支えてゆく。私たちは、NXグループです。 nipponexpress.com

NEX
NIPPON
EXPRESS

We Find the Way

2022年1月から日本通運グループは「NX」へ名称が変わりました。